

100<sup>th</sup>

NHK SO  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA  
TOKYO

Philharmony

April 2026  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

4

## 終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。  
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#NH響」【#nhkso】の追加をぜひお願いいたします。  
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、  
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

## You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.  
When you share the photos on social media, please add #nhkso.  
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.



### 「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

### Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは67ページをご覧ください



こちらのQRコードからアンケートページへアクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

### お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください  
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご注意ください  
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.



大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください  
Do not disturb others by overly swaying your body.



発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください  
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻までお楽しみください  
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場はご遠慮ください  
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください  
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)  
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているかご確認ください  
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



NHK交響楽団  
カスタマー・ハラスメントに対する基本方針 (PDF)

# PHILHARMONY

## CONTENTS

APRIL 2026

# 4

3 首席指揮者ファビオルレイジに、契約期間満了後の2028年9月「桂冠名誉指揮者」の称号を授与

4 **特集** **NHK交響楽団定期公演 2026-27シーズンプログラム**  
(2026年9月～2027年6月)

14 チケットのご案内(定期公演2026年9月～2027年6月)

20 [公演プログラム] **Aプログラム**

26 [公演プログラム] **Bプログラム**

31 [公演プログラム] **Cプログラム**

38 [リレー連載] **N響百年——複合的視座 | 第3回 |**  
**N響と尾高賞——日本オーケストラ界とともに歩んだ作曲賞〈後編〉**

白石美雪

2 NHK交響楽団メンバー

45 2026年5月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から

47 チケットのご案内(定期公演2025年9月～2026年6月)

48 2025-26定期公演プログラム

49 特別公演／海外公演／各地の公演

59 曲目解説執筆者／N響の出演番組

60 特別支援・特別協力・賛助会員

64 「N響100年」特別賛助会員・個人サポーター

66 Information(新入団／契約開始／退団／訃報)

67 みなさまの声をお聞かせください!

68 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

### Artist Profiles & Program Notes

69 Program A

73 Program B

76 Program C

81 The Subscription Concerts Program 2025-26

82 Overseas Tour

83 The Subscription Concerts Program 2026-27 / Special Concerts 2026-27

88 N響関連のお知らせ

89 N響の社会貢献

90 役員等・団友

# NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督:シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者:バーヴェ・ヤルヴィ

正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太

ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

## 第1ヴァイオリン

- 青木 調  
飯塚歩夢  
○字根京子  
大鹿由希  
○倉富亮太  
後藤 康  
小林玉紀  
高井敏弘  
東條太河  
猶井悠樹  
中村弓子  
降旗貴雄  
松田拓之  
○三又治彦  
宮川奈々  
○山岸 努  
○横溝耕一

## 第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎  
◎森田昌弘  
齋藤麻衣子  
○嶋田慶子  
清水伶香  
○白井 篤  
○田中晶子  
坪井きらら  
丹羽洋輔  
平野一彦  
船木陽子  
俣野賢仁  
村尾隆人  
矢津将也  
山田慶一  
○横島礼理  
米田有花

\* 湯原佑衣

## ヴィオラ

- ◎佐々木 亮  
◎村上淳一郎  
☆中村翔太郎  
小島茂隆  
栗林衣李  
□坂口弦太郎  
谷口真弓  
飛澤浩人  
○中村洋乃理  
松井直之  
三国レイチェル由依  
# 御法川雄矢  
○村松 龍  
\* 和田志織

## チェロ

- ◎辻本 玲  
◎藤森亮一  
市 寛也  
小島幸法  
○中 実穂  
○西山健一  
藤村俊介  
藤森洗一  
宮坂拓志  
村井 将  
矢部優典  
○山内俊輔  
渡邊方子

## コントラバス

- ◎吉田 秀  
○市川雅典  
稻川永示  
○岡本 潤  
今野 京  
○西山真二  
本間達朗  
矢内陽子

## フルート

- ◎甲斐雅之  
◎神田寛明  
梶川真步  
# 中村淳二

## オーボエ

- ◎中村周平  
◎吉村結実  
池田昭子  
坪池泉美  
和久井 仁

## クラリネット

- ◎伊藤 圭  
◎松本健司  
\* 堂面宏起  
山根孝司

## ファゴット

- ◎宇賀神広宣  
◎水谷上総  
大内秀介  
佐藤由起

森田 格

## ホルン

- ◎今井仁志  
石山直城  
勝俣 泰  
木川博史  
庄司雄大  
野見山和子

◇福川伸陽

## トランペット

- ◎菊本和昭  
◎長谷川智之  
安藤友樹  
藤井虹太郎  
山本英司

## トロンボーン

- ◎古賀 光  
◎新田幹男  
池上 亘  
黒金寛行

## テューバ

池田幸広

## ティンパニ

- ◎久保昌一  
☆植松 透

## 打楽器

- 石川達也  
黒田英実  
竹島悟史

## ハーブ

早川りさこ

## ステージ・マネージャー

徳永匡哉

## ライブラリアン

- 沖 あかね  
木村英代

こちらのQRコードから  
楽員の詳しいプロフィールが  
ご覧いただけます。



<https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html>

(五十音順、◎首席、◇首席客演、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、\*契約)

# 首席指揮者ファビオ・ルイージに、 契約期間満了後の2028年9月「桂冠名誉指揮者」の称号を授与

NHK交響楽団は、現在当団首席指揮者の任にあるファビオ・ルイージに対し、  
その契約期間満了後の2028年9月に

「桂冠名誉指揮者」の称号を贈ることを決定しました。

当団における「桂冠名誉指揮者」の称号は、N響を長年にわたって指揮し、

その芸術性向上に多大な貢献を果たした指揮者に贈られるもので、

ファビオ・ルイージへの授与は、

故・ウォルフガング・サヴァリッシュ、ヘルベルト・ブロムシュテットに続く3人目となります。



ファビオ・ルイージからのメッセージ

2028-29シーズンより、NHK交響楽団より桂冠名誉指揮者の称号を賜りますことは、私にとって大変な名誉であり、心より嬉しく思っております。2001年に始まった私とNHK交響楽団および楽団員との関係は、長年にわたり一貫して深まり続け首席指揮者への任命という形で頂点を迎えました。そして2028年にその任期を終えることとなります。2028年からの桂冠名誉指揮者への任命は、これから何年にもわたり、私たちの力をさらに結集させ、レパートリーの探求を続け、NHK交響楽団の芸術的な卓越性を聴衆に示すことを可能にしましょう。



全文は  
N響ホームページに  
掲載しています。

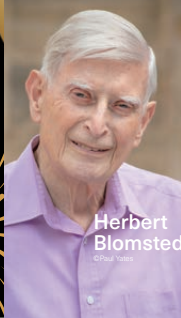
ファビオ・ルイージの今後の出演予定

2026-27シーズン定期公演  
P. 4～P. 12

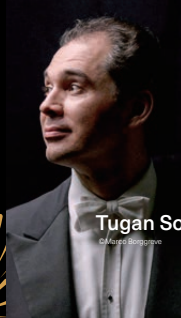
特別公演  
P. 52～P. 54



Fabio Luisi  
©NHKSO



Herbert Blomstedt  
©Paul Yates



Tugan Sokhiev  
©Marco Borggreve



Charles Dutoit  
©Priska Kettner



Antonello Manacorda  
©Thomas Gansch



Paavo Järvi  
©Mauro Kikias



Maxim Emelyanychev  
©Aleksj Gric



Christoph Eschenbach  
©Marco Borggreve



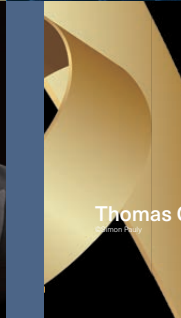
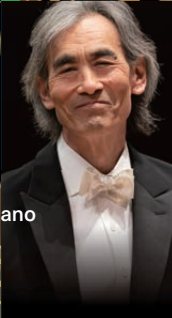
Tadaaki Otaka  
©Martin Richardson



Elim Chan  
©Marco Borggreve



Kent Nagano  
©Accademia



Thomas Guggéis  
©Simon Poley



NHK交響楽団  
定期公演  
2026-27  
シーズンプログラム  
(2026年9月~2027年6月)

# 2026-27シーズン定期公演プログラム

## PROGRAM

# A

豪華指揮者陣が生み出す 壮大な祝祭空間  
圧倒の体験をNHKホールで

## NHKホール

± 6:00pm 日 2:00pm

### Autumn

2026

09 September

第2069回

9/12 ± 6:00pm

9/13 日 2:00pm

「危機の時代」にルイーザが問う 大戦前夜の不穏さを孕んだ大作

**N響100年特別企画**

フランツ・シュミット／オラトリオ「7つの封印の書」  
(日本語字幕付き)

指揮:ファビオ・ルイーザ ヨハネ(テノール):ミハエル・ラウレンツ  
神の声(バス):ダーヴィト・シュテフェンス ソプラノ:迫田美帆  
メゾ・ソプラノ:藤井麻美 テノール:伊藤達人 バス:加藤宏隆  
オルガン:新山恵理 合唱:新国立劇場合唱団



一般	ユースチケット
S ¥15,000	S ¥7,000
A ¥12,500	A ¥6,000
B ¥10,000	B ¥5,000
C ¥8,000	C ¥4,000
D ¥6,500	D ¥3,000
E ¥4,500	E ¥2,000

2026

10 October

第2072回

10/17 ± 6:00pm

10/18 日 2:00pm

プロムシュテットに導かれて到る  
崇高なるものとの一体感、そして法悦へ

ブルックナー／交響曲 第5番 変ロ長調

指揮:ヘルベルト・プロムシュテット  
カバールコンダクター:マティアス・バーメルト



一般	ユースチケット
S ¥15,000	S ¥7,000
A ¥12,500	A ¥6,000
B ¥10,000	B ¥5,000
C ¥8,000	C ¥4,000
D ¥6,500	D ¥3,000
E ¥4,500	E ¥2,000

2026

11 November

第2074回

11/7 ± 6:00pm

11/8 日 2:00pm

戦時にショスタコーヴィチがスコアに込めた  
「叫び」をソヒエフが振り出す

プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品19  
ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 ハ短調 作品65

指揮:トウガン・ソヒエフ  
ヴァイオリン:神尾真由子



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

### Winter

2026

12 December

第2077回

11/28 ± 6:00pm

11/29 日 2:00pm

デュトワ&アルゲリッチ 四半世紀の時を経てN響で再共演!

**N響100年特別企画**

ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第2番  
ラヴェル／ピアノ協奏曲 卜長調  
ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14

指揮:シャルル・デュトワ  
ピアノ:マルタ・アルゲリッチ



一般	ユースチケット
S ¥17,000	S ¥8,500
A ¥14,500	A ¥7,000
B ¥11,500	B ¥5,500
C ¥9,500	C ¥4,500
D ¥7,500	D ¥3,500
E ¥5,500	E ¥2,500

※12月定期公演Aプログラムは  
11月に開催いたします。

2027

01 January

第2080回

1/16 土 6:00pm

1/17 日 2:00pm

ルイージ&amp;\響が満を持して挑む マラー最高峰の交響曲

マラー／交響曲 第9番 二長調

指揮:ファビオ・ルイージ



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

2027

02 February

第2082回

2/6 土 6:00pm

2/7 日 2:00pm

鬼才マナコルダとドイツ語圏音楽 300年の成り行きを俯瞰する

バッハ(ヴェーベルン編)／

「音楽のささげもの」BWV1079—6声のリチェルカール

マラー／リュッケルトによる5つの歌

シェーンベルク／室内交響曲 第2番 作品38

シューベルト／交響曲 第7番 口長調 D. 759「未完成」

指揮:アントネッロ・マナコルダ

バリトン:アンドレ・シュエン



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

## Spring

2027

04 April

第2084回

4/10 土 6:00pm

4/11 日 2:00pm

いざ、ルイージと行かん!

アルプスという名の「人生」を歩む旅へ

メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64

指揮:ファビオ・ルイージ

ヴァイオリン:ジェームズ・エーネス



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

2027

05 May

第2086回

5/8 土 6:00pm

5/9 日 2:00pm

バーヴォのイチ押し! 北欧・珠玉の名品たち

グリーク／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

ステンハンマル／交響曲 第2番ト短調 作品34

指揮:バーヴォ・ヤルヴィ

ピアノ:デニス・コジュヒン



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027

06 June

第2088回

6/5 土 6:00pm

6/6 日 2:00pm

ソヒエフ&amp;\響の初ブルックナーは

ワグナーに捧げられた意欲作

モーツァルト／交響曲 第35番 二長調 K. 385「ハフナー」

ブルックナー／交響曲 第3番 二短調「ワグナー」

(第3稿/1889)

指揮:トゥガン・ソヒエフ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

## 音楽がひろく、こころの地平

西川彰一 | NHK交響楽団 芸術主幹 ※B・Cプログラムの同項も執筆

フランツ・シュミット《7つの封印の書》(9月)が完成したのは、第2次大戦前夜の1937年でした。この曲が描くのは、静かに、しかし確実に壊れていく世界の情景です。封印がひとつずつ解かれるたびに、戦争や疫病、天変地異がもたらされ、人間の理性では歯止めのきかない状況が広がっていきます。恐怖や混乱の中、何を信じ、どこに希望を見出せばよいのか。

今また切実になりつつあるこの問いを起点として、2026-27シーズンのAプログラムは始まります。優れた芸術は、純粹にそれに触れる喜びだけでなく、生きる勇気や高い視座を私たちに与えてくれるでしょう。首席指揮者ルイージをはじめ、トップ・アーティストたちの演奏によって、心に映る風景に新しい奥行きが加わる瞬間を味わってください。

ベルリオズの《幻想交響曲》は1830年、フランス・七月革命の直前に作曲されました。交響曲という形式に自身の情念を盛り込んだこの曲は、個人の感性に重きを置くロマン派以降の流れを決定づけます。名誉音楽監督デュトワの十八番で、ラヴェルを弾く元妻アルゲリッチとの共演も話題性十分。しがらみや制約の中でいかに自分らしく振舞うか、そのようなことに思いを馳せたくなるプログラムです。(12月)

19世紀後半のブルックナーは、ロマン派のバトスを揺るぎない秩序へと昇華させました。注目の指揮者ソヒエフが贈る《交響曲第3番》は、若々しい情熱によって、目の前の空間が開けていくような感覚を聴き手に抱かせます。(6月)

一方、信仰心を背景に、ひたすら音楽に没入していく《交響曲第5番》は、桂冠名誉指揮者ブルムシュテットの存在そのものに重なるようです。ブルク

クナーの確たる信念は、価値観が細分化した現代にひとつの指針を示してくれるでしょう。(10月)

マーラー《交響曲第9番》には、古きよき時代や人生に対する決別のイメージが投影されています。喜びや苦悩の末、消え入るように終わる第4楽章は、物事にはいつか必ず終わりがあるという、避けて通れない事実を告げるかのようです。(1月)

R. シュトラウス《アルプス交響曲》と、没後100年のステンハンマル《交響曲第2番》は、どちらも1915年に作曲されました。

壮大な自然を描く前者には、それを征服する人間の視点も提示されています。環境問題が深刻化した今、この曲は自然との関係性を再考する手がかりにもなるでしょう。(4月)

ステンハンマルは、名誉指揮者パーヴォ・ヤルヴィが共感を寄せる北欧の作曲家。控えめな語り口で繰り出される雄弁な音楽は、日常の平穏や調和こそが最も力強く、貴いものであることを思い起こさせます。極端な思想や言動は、破壊にしか繋がらないのです。(5月)

シェーンベルク《室内交響曲第2番》は20世紀前半、音楽語法の過渡期に書かれました。抛りどころを失いかけながら、進むべき道を模索する姿勢は、変化のただ中を生きる私たちの感性にも強く共鳴します。(2月)

ショスタコーヴィチは《交響曲第8番》で、戦争の悲惨さや暴力の不条理を正面から描き尽くしました。忘れ去ることも、目を背けることもできない時代の記憶を伝えます。(11月)

このシリーズを通じて、音楽と真摯に向き合う時間そのものが、自分自身や世界を見つめ直すきっかけとなることを願います。

## 2026-27シーズン定期公演プログラム

### PROGRAM

# B

豊潤なホールサウンドで味わう名匠たちの音作り  
最高峰のソリストたちも集結

## サントリーホール

木 7:00pm 金 7:00pm

### Autumn

2026

09

September

第2070回

9/17

木 7:00pm

9/18

金 7:00pm

ルイーゼの道案内で分け入る ドイツロマンの森  
ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲  
ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77  
シューマン／交響曲 第4番 二短調 作品120(改訂版)  
指揮:ファビオ・ルイーゼ  
ヴァイオリン:アウグスティン・ハーデリヒ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2026

10

October

2026年10月Bプログラムは特別公演開催のため休止いたします。

2026

11

November

第2076回

11/19

木 7:00pm

11/20

金 7:00pm

北の大地のロマンティシズムと ファンタジーの極致  
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 八短調 作品18  
チャイコフスキー／  
バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71(抜粋)  
指揮:トウガン・ソヒエフ  
ピアノ:アレクサンドル・カントロフ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

### Winter

2026

12

December

第2079回

12/10

木 7:00pm

12/11

金 7:00pm

才人・エメリヤニチェフが命を吹き込む  
100年記念作と《スコットランド》  
モーツァルト／歌劇「魔笛」序曲  
スルンカ／チェロ協奏曲  
[NHK交響楽団100年記念委嘱作品／世界初演]  
メンデルスゾーン／  
交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」  
指揮:マキシム・エメリヤニチェフ チェロ:ニコラ・アルトシュテット



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

(以上、すべて税込)

2027

01

January

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

2027

02

February

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

Spring

2027

04

April

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

2027

05

May

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

2027

06

June

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

年間会員券(3回)

一般

S ¥30,600

A ¥25,500

B ¥20,400

C ¥16,575

D ¥14,025

ユースチケット

S ¥15,300

A ¥12,750

B ¥10,200

C ¥8,286

D ¥7,011

※ Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません。

※2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。

同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは、2027-28シーズン(2027年9月~2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。

## その作品は、聴き手に託された

新作を世に送り出す作曲家は、我が子に旅をさせるような心境でしょうか。メンデルスゾーンは《スコットランド交響曲》を10年以上かけて推敲し、ブラームスは親友のヴァイオリニスト、ヨアヒムに念入りな助言を求めて《ヴァイオリン協奏曲》を完成させました。

ベストを尽くしても、初演がうまく行くとは限りません。シューマンは聴衆の冷ややかな反応を見て《交響曲第4番》の出版を見合わせ、のちに大規模な改訂を施すこととなります。音楽が絶賛されたチャイコフスキーの《くるみ割り人形》も当初、バレエ工としての評価は今ひとつでした。一方、ラフマニ

ノフ《ピアノ協奏曲第2番》の初演は大成功、人々は特に第2楽章の美しさに息を呑んだと言います。聴き手は時代の証言者であり、名曲の誕生にあたって、キャスティング・ボードを握る存在ともなり得るのです。

私たちは創立100年を記念して、現代を代表する作曲家のひとり、スルンカに新作を委嘱しました。名手アルトシュテットが奏でる《チェロ協奏曲》の世界初演は、どのように受け止められるのでしょうか。ヴァイオリンのハーデリヒ、ピアノのカントロフと、当代最高峰のソリストがそろい踏みする、密度の濃い3回シリーズです。(9月、11月、12月)

# 2026-27シーズン定期公演プログラム

## PROGRAM

# C

「楽聖200年祭」を祝う交響曲&ピアノ協奏曲シリーズ  
古典の“いま”を聴く

## NHKホール

金 7:00pm 土 2:00pm

### Autumn

2026

09

September

第2071回

9/25 金 7:00pm

9/26 土 2:00pm

爆発する才気と 大胆不敵さ

**N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏1**

ベートーヴェン／交響曲 第1番 八長調 作品21

ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

指揮:ファビオ・ルイーゾ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2026

10

October

第2073回

10/23 金 7:00pm

10/24 土 2:00pm

全曲を統べる 律動と生命力

**N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏2**

ベートーヴェン／「エグモント」序曲

ベートーヴェン／交響曲 第8番 へ長調 作品93

ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」

指揮:クリストフ・エッセンバッハ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026

11

November

第2075回

11/13 金 7:00pm

11/14 土 2:00pm

均整美、旋律美、そして自然への愛

**N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏3**

ベートーヴェン／序曲「コリオラン」

ベートーヴェン／交響曲 第2番 二長調 作品36

ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」

指揮:トゥガン・ソヒエフ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

### Winter

2026

12

December

第2078回

12/4 金 7:00pm

12/5 土 2:00pm

極限まで追求された リズムのポテンシャル

**N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏4**

ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60

ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

指揮:シャルル・デュトワ

※ベートーヴェン《交響曲第9番「合唱つき」》は、  
2026年末の「ベートーヴェン」第9「演奏会」で演奏予定です  
(指揮:マレク・ヤノフスキ)。



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027

01

January

第2081回

1/22 金 7:00pm

1/23 土 2:00pm

「デンマークのベートーヴェン」ニルセン最後のシンフォニー

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏1

ソレンセン／夕暮れの大地 [日本初演]

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15

ニルセン／交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチェ」

指揮: ファビオ・ルイーヂ

ピアノ: アレッサンドロ・タヴェルナ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027

02

February

第2083回

2/12 金 7:00pm

2/13 土 2:00pm

子が光を当てる父とその盟友の名作  
そして超新星ピアニスト降臨!

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏2

シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19

尾高尚忠／交響詩「蘆屋乙女」作品9

パヌフニク／交響曲 第2番「悲歌」

指揮: 尾高尚明 ピアノ: イム・ユンチャン



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

## Spring

2027

04

April

第2085回

4/23 金 7:00pm

4/24 土 2:00pm

若きカリスマ エリム・チャンが放つ圧倒的な躍動感

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏3

ドヴォルザーク／交響詩「真昼の魔女」作品108

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37

チン・ウンスク／スピト・コン・フォルツァ

シヨスタコーヴィチ／交響曲 第9番 変ホ長調 作品70

指揮: エリム・チャン ピアノ: アリス・紗良・オット



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2027

05

May

第2087回

5/21 金 7:00pm

5/22 土 2:00pm

こだわりのプログラムを携え 名匠セント・ナガノ、響を初指揮

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏4

リュリ／バレエ音楽「町人貴族」(抜粋)

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 変ト長調 作品58

R. シュトラウス／組曲「町人貴族」作品60

指揮: ケント・ナガノ

ピアノ: テイル・フェルナー



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2027

06

June

第2089回

6/18 金 7:00pm

6/19 土 2:00pm

若き大物が、響と正面から取り組む 本格的独壇プログラム

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏5

ベートーヴェン／

ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」

R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40

指揮: トーマス・グッガイス

ピアノ: キリル・ゲルシュタイン



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

## 伝統を更新する、「N響100年」のベートーヴェン

100年を通じてN響が最も多く取り上げてきた作曲家、それは間違いなくベートーヴェンだったでしょう。ドイツ音楽との結びつきが強かったN響の歴史を顧みて、ベートーヴェンが特別な位置を占めてきたことは疑いようがありません。

何百回、何千回と繰り返し演奏され、聴かれてきたはずなのに、決して飽きることがなく、そのたびに新たな新しい発見がある。それがまさにベートーヴェンの獨創性、偉大さの証に他なりません。彼の作品を奏でる音楽家は、枯れることのない泉から水を汲み出すだけの存在、忠実な下僕に過ぎないのかと言うと、断じてそんなことはないはずです。

いささか唐突な例えになりますが、『孔子伝』を書いた漢学者の白川静によると、孔子にオリジナルの創作者という意識はなかったのだそうです。彼の中に集約され、内面化された“伝統”を、弟子たちにいかにわかりやすく伝えるか、試行錯誤のプロセスを経た結果が、『論語』に残された美しい韻律だということです。

形式として与えられただけの伝統は、すでにその時点で伝統ではなく、「追体験によって個に内在するものとなる時、はじめて伝統となる」。そして、それが個のはたらきによって人格化され、具体化され、述べられるなら、述べられたものが、すなわち“創造”であると、白川は説いています。

これはあらゆる伝統芸能の本質に通じる言葉だと思いますが、音楽に当てはめるなら、ベートーヴェンという“伝統”を内在化し、それを自分の言葉でアウトプットする、その語り口の巧みさや面白さにこそ、真の創造が宿っている、と言い換えることができるでしょう。

つまりベートーヴェンの演奏は、作品そのものに

匹敵するくらい、クリエイティブで価値のある営みと言えるのです。

Cプログラムでは、特別公演の「第9」も含めると、9月から12月にかけて、ベートーヴェンの全ての交響曲を、1月から6月にかけては、5つのピアノ協奏曲を番号順に演奏していきます。定期公演としては例のない試みです。

2026-27シーズンに響くベートーヴェンは、100年の積み重ねに、技術の進歩や解釈の深化が加わり、今この時点でしか聴けない、創造性に富んだものとなるでしょう。

首席指揮者ルイージ、名誉音楽監督デュトワ、N響と縁の深いエッシェンバッハにソヒエフといった、名だたるマエストロたちの個性がそこにブレンドされ、味わいを増すであろうことは、申し上げるまでもありません。

ピアノ協奏曲と組み合わせる音楽には、ベートーヴェンが地域や時代をまたいで、どのように伝播したか、という視点も包摂されています。いわば「Beyond Beethoven」です。

後世の作曲家は皆、ベートーヴェンの影響を免れなかったわけですが、彼の衣鉢を継いだ交響曲作家として、例えばデンマークにはニルセン、ポーランドにはバヌフニク、そしてロシアにはショスタコーヴィチがいました。彼らはベートーヴェンが確立した形式に、それぞれの国民性を反映させながら、唯一無二の語法を展開していきます。

管弦楽法の大家R. シュトラウスにとってもちろん、ベートーヴェンは意識せざるを得ない巨人でした。今シーズンのCプログラムは、『英雄交響曲』に始まり、その主題を高らかに引用した『英雄の生涯』で幕を閉じることになります。

# チケットのご案内(定期公演 2026年9月～2027年6月)

## 定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～52%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大63%お得です。割引率は公演や席種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2026年7月5日[日](定期会員先行)／2026年7月12日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2026年10月13日[火](定期会員先行)／2026年10月16日[金](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2027年2月10日[水](定期会員先行)／2027年2月14日[日](一般)

## 料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム Cプログラム (各9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム (3回)	一般	¥30,600(¥10,200)	¥25,500(¥8,500)	¥20,400(¥6,800)	¥16,575(¥5,525)	¥14,025(¥4,675)
	ユースチケット	¥15,300(¥5,100)	¥12,750(¥4,250)	¥10,200(¥3,400)	¥8,286(¥2,762)	¥7,011(¥2,337)
シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム Cプログラム (各3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

( )内は1公演あたりの単価

## 1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2026年7月22日[水](定期会員先行)／2026年7月26日[日](一般)
	12・1・2月	2026年10月21日[水](定期会員先行)／2026年10月25日[日](一般)
	4・5・6月	2027年2月19日[金](定期会員先行)／2027年2月23日[火・祝](一般)

## ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円～で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

WEBチケットN響  
https://nhkso.pia.jp



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502  
営業時間：10:00am～5:00pm  
定休日：土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。  
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

# Special Thanks

## NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 MIZUHO みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT EAST

東京海上ホールディングス株式会社

株式会社 ポケモン

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

NTT East, Inc.

Tokio Marine Holdings, Inc.

The Pokémon Company

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

誇りは、秘めてこそ輝く。

# EDITION SHADOW DEBUT



駆けぬける喜び

Photo: (左から)BMW X1 sDrive20d Edition Shadow / BMW 318i Edition Shadow / BMW X3 20d xDrive Edition Shadow

※写真の車は日本仕様とは異なります。また、オプション装備等を含む場合があります。

※プロダクトに関する詳細は[www.bmw.co.jp](http://www.bmw.co.jp)、またはBMW正規ディーラーにてご確認ください。※以上の内容は、予告なく変更、終了する場合がございます。  
※世界規模の半導体部品供給難等により、一部の標準装備やオプションの設定削除、およびパッケージ・オプションに含まれる装備の変更が発生する場合がございます。最新の装備/設定や価格の詳細につきましては、BMW正規ディーラーまでお問い合わせください。※記載の内容は2026年3月3日現在のものです。

FOR MORE  
INFORMATION



世界をつなぐ、あたらしい空へ。



Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

[www.ana.co.jp](http://www.ana.co.jp)



## 私と、響き合う。

「ほしい音は、私が表現したいことをかなえてくれる音。」  
ヤマハが新しいCFXに込めた設計思想「ユニボディコンセプト」は、  
すべてが、ピアニストの想いを実現するためにあります。  
ピアノ自身が弾く者の意思を感じているかのように反応し、  
演奏者と楽器が一体となって響き合うことで生まれた音が、  
コンサートホールの空間を満たしていく。  
これこそ、ヤマハが追いかけてきた瞬間に他なりません。  
人の心を動かす音は、ピアノだけが奏でるものではなく、  
ピアニストとともに作りあげていくものだから。

# CFX

Yamaha Concert Grand Piano

旬のピアニスト情報が満載

**Pianist Lounge.**

<https://jp.yamaha.com/sp/pianist-lounge/>

ヤマハ株式会社

ぴあがないと、笑えない。  
ぴあがないと、泣けない。  
ぴあがないと、踊れない。  
ぴあがないと、叫べない。  
ぴあがないと、ヘドバンできない。  
ぴあがないと、キレーな涙流せない。  
ぴあがないと、ドキドキしない。  
ぴあがないと、性別なんて越えられない。  
ぴあがないと、国境なんて越えられない。  
ぴあがないと、年齢なんて越えられない。  
ぴあがないと、わたしを越えられない。  
ぴあがないと、世界が新しくならない。  
ぴあがないと、生き生きできない。  
ぴあがないと、遊べない。  
ぴあがないと、感じる心、動かない。

# Life is Pure.

ぴあがあるから、ひとりひとりが生き生きと。



PROGRAM

A

第2060回

NHKホール

4/11 土 6:00pm

4/12 日 2:00pm

指揮 ファビオ・ルイーシ

チェロ ヤン・フォークラー

コンサートマスター 長原幸太

ハイドン

チェロ協奏曲 第1番 ハ長調

Hob. VIIb-1 [24']

- I モデラート
- II アダージョ
- III 終曲:アレグロ・モルト

—— 休憩 (20分) ——

ブルックナー

交響曲 第9番 二短調 [64']

- I 荘重に、神秘的に
- II スケルツォ:活発に、生き生きと
- III アダージョ:遅く、荘重に

※演奏時間は目安です。

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは67ページをご覧ください

こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## ファビオ・ルイーゼ (指揮)



©Shinichi Mizuki (SP7)

イタリア・ジェノヴァ出身。2001年にN響と初めて共演し、2022年9月首席指揮者に就任。就任記念公演でヴェルディ《レクイエム》を、2023年12月のN響第2000回定期公演でマーラー《一千人の交響曲》を指揮した。2024年には台湾公演を率い、翌2025年5月にはアムステルダム・コンセルトヘボウでの「マーラー・フェスティバル」、「プラハの春音楽祭」、「ドレスデン音楽祭」への参加を含むヨーロッパ公演を成功に導いた。なおN響は「マーラー・フェスティバル」に参加したアジア最初のオーケストラとなり、《交響曲第3番》《同第4番》の演奏は評論家から称賛を集めた。2028年9月に桂冠名誉指揮者に就任する。

現在、デンマーク国立交響楽団首席指揮者およびダラス交響楽団音楽監督。またチューリヒ歌劇場音楽総監督、メトロポリタン歌劇場首席指揮者、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR(中部ドイツ放送)交響楽団プリンシパル・コンダクターおよびチーフ・コンダクター、スイス・ロマン管弦楽団芸術監督、ウィーン・トーンクンストラ管弦楽団首席指揮者、グラーツ交響楽団首席指揮者などを歴任。このほか、イタリアのプーリア州マルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督、トリノを本拠とするRAI国立交響楽団の名誉指揮者も務めている。また、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラなど最高峰のオーケストラ、歌劇場、音楽祭に定期的に客演している。録音ではデンマーク国立交響楽団との『ニルセン交響曲全集』が2023年にオーストラリアのライムライト賞とイタリアのアッピアーティ賞を受賞し、その第1集は『グラモフォン』誌の年間最優秀録音賞に選ばれた。またメトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》のDVDはグラミー賞を受賞した。NHK交響楽団との初CD『ブルックナー／交響曲第8番(初稿)』は、2025年5月にリリースされた。

彼は優れた作曲家、調香師でもある。

## ヤン・フォークラー (チェロ)



©Shinichi Mizuki (SP7)

1964年に東ベルリン(当時)で生まれたヤン・フォークラーはチェリストであった父からチェロの最初の手ほどきを受けた。さらにヨーゼフ・シュワブ、ハインリヒ・シフ、ジークフリート・バルムといった著名なチェリストの元で研鑽を積み、史上最年少でドレスデン歌劇場管弦楽団の首席チェリストとなった。1997年までそこで活躍し、その後はソロとしての活動を始めた。ニューヨークに居を移し、アメリカとヨーロッパで精力的に活躍。一方で2008年からはドレスデン音楽祭の監督を務め、他にも室内楽の音楽祭の芸術監督も務めている。

欧米の多くのトップ・オーケストラと共演を重ねてもいるが、現代ドイツを代表する作曲家であるイェルク・ヴィトマンは彼のためにチェロと女声とオーケストラによる協奏曲を書き、それも各地で演

奏している。フォーグラワーは録音も盛んに行っており、個性的なテーマによるアルバムはそれぞれが高く評価されてきた。

NHK交響楽団とは2025年ヨーロッパ・ツアー内のドレスデン音楽祭にて初めて共演し、好評を博した。今回は、そこで取り上げたハイドンの《チェロ協奏曲第1番》を東京でも披露する貴重な機会となるので、注目したい。

[片桐卓也／音楽評論家]

## Program Notes | 高松佑介

本日のプログラムには、強烈なコントラストを備えた2曲が並ぶ。片や「ウィーン古典派」を代表するヨーゼフ・ハイドンによる《チェロ協奏曲第1番》、片やロマン派後期の作風を色濃く映すアントン・ブルックナーによる《交響曲第9番》である。古典派／ロマン派という時代様式のほかに、創作初期／晩年、長調／短調、簡潔／長大、軽快／重厚、明澄／鬱屈、宮廷／市民、完成／未完のように、相反する特徴を探してゆけば枚挙に暇がないほどだ。数多のコントラストにより、それぞれの個性が際立って聴こえてくるに違いない。

### ハイドン

## チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1

ヨーゼフ・ハイドン(1732～1809)は、いわゆる古典派の音楽様式を確立した作曲家として知られる。彼はヨーロッパ社会の転換期を生きた人物で、活躍し始めたのは市民社会へと舵<sup>かじ</sup>を切る前の時代である。その頃の音楽家たちにとって重要な仕事は王侯貴族などの特権階級や教会から得るものであり、注文に応じて演奏機会や音楽趣味などに合った曲を提供する“職人”的な役割を担っていた。こうした社会背景の中、ハイドンは1761年からアイゼンシュタットの名門貴族エステルハージ侯爵家の音楽文化を30年以上にわたって牽引した。

《チェロ協奏曲第1番ハ長調》は、エステルハージ家に仕え始めた頃、1762～1765年の間に作曲されたとみられる。独奏者にはハイドンの推薦で約1か月遅れて同じ楽団にやって来た首席チェリストのヨーゼフ・フランツ・ワイゲル(1740～1820)を想定し、エステルハージ家での何らかの機会に合わせて書かれたと考えられている。ワイゲルはその後1769年からウィーンに拠点を移し、ケルトナートーア劇場やハプスブルク家の宮廷楽団で卓越したチェリストとして活躍することになる。ウィーンへの移籍後もハイドンと親しい関係を続けたようだ。

本作はハイドンの初期の様式的特徴をもった軽やかで華やかな協奏曲で、急緩急の3つの楽章で構成される。

**第1楽章**はバロック時代の協奏曲に典型的なリトルネルロ形式の特徴が色濃く表れており、大まかには合奏によるリトルネルロと、独奏を中心とする自由なエピソードが交互に現れる構成と聴き取れる。しかし同時に近代的な協奏ソナタ形式も重ね合わされており、展開部のイ短調のセクションは跳躍音程を多く含み、ドラマティックかつ叙情的だ。

**第2楽章**はゆったりとしたへ長調のアダージョで、弦楽器のみで演奏される。ABA' という3つの部分からなり、歌うような息の長い旋律が特徴的だ。

**第3楽章**はハ長調の快活なフィナーレ。リトルネルロ形式より協奏ソナタ形式が前面に押し出されているが、属調の主題も冒頭主題から派生している。それゆえ疾風怒濤どとうの曲想を貫きつつ、さながら万華鏡を回してゆくかのような展開をみせる。

作曲年代	1762～1765年の間と推定
初演	おそらくエステルハージ宮廷にて
楽器編成	オーボエ2、ホルン2、弦楽、チェロ独奏

## ブルックナー

### 交響曲 第9番 二短調

1790年、君主の代替わりによってエステルハージ家の楽団が解散状態になり、ハイドンは自由な活動ができるようになる。そこで演奏会興行師ヨハン・ペーター・ザロモン（1745～1815）の招きにに応じて1791～1795年に2回のロンドン旅行を行い、公開演奏会のために交響曲を創作・指揮して絶大な人気を得た。当時ロンドンではすでに音楽が一般市民へと広まり、近代的なコンサート文化や音楽ビジネスが形成されていたのである。

このように19世紀はヨーロッパで市民社会が花開く時期にあたる。ウィーンはロンドンより遅れてはいたものの、1812年に「楽友協会」という団体が生まれるなど音楽が市民に普及していった。こうした背景から大規模なコンサートホールが必要になり、1870年に落成したのが有名な楽友協会ホールである。

ちょうどその頃、ウィーンを拠点にして交響曲創作にいそ勤しんだのがアントン・ブルックナー（1824～1896）だ。奇しくもキリスト教社会では神の力が揺らぐ頃、世紀末へと向かう不安の時代に、オーケストラの大いなる響きに身を委ねるような大規模な交響曲を9つ世に出した作曲家である。

本日演奏される《第9番》は、ブルックナーによる最後の交響曲である。1887年8月12日に最初のスケッチを始めたものの、前作《第8番》の抜本的な改訂を余儀なくされ、《第

1番》《第3番》《第4番》にも改訂を施したことで作曲が中断する。1891年4月から再び《第9番》に取り組み、1894年11月30日に3つの楽章を完成させるが、1895年5月24日に着手したフィナーレは未完のまま亡くなってしまった。

本作はベートーヴェンの《第9》と同じニ短調を主調とするものの、完成した3つの楽章にはニ短調と衝突する和音が印象的に出現するよう配されており、散りばめられた不協和な要素が本作を特徴づけている。これらは全体の伏線となって第4楽章で解決に向かう構想だったとみられるが、本日は現代の多くの演奏と同様に完成した冒頭3楽章のみ、ノヴァーク版に基づいて演奏される。

**第1楽章**は、テンポの異なる3つの調領域によるソナタ形式で書かれている(荘重に、神秘的に・ニ短調/より遅く・イ長調/モデラート・ニ短調)。冒頭は発想標語にあるように「神秘的」にニ短調で始まるが、間もなくして「変ホ」音が意味深に鳴り響く。主音の「ニ」と半音でぶつかるこの音は、強奏で主要主題が提示される際にも、ニ短調からニ長調へと向かう主題の中央で亀裂を生じさせるなど、楽曲展開のうえで重要な役割を果たす。

**第2楽章**のスケルツォは、幕開けのファンファーレが不穏な和音で形成されている。ニ短調の属和音の派生形として説明されるが、聴き紛うことなき不協和な和音である。中間のトリオ部では推進力をもった嬰へ長調となる。

**第3楽章**は長大なアダージョ楽章。作品全体の主調であるニ短調とぶつかるホ長調を取り、冒頭から長調らしからぬ口音一ハ音の痛々しい跳躍が現れる。大まかにはこの主要主題と温かみのある副次主題が交互に現れる構造となっているが、後半でクライマックスを形作るのは、不協和を極めた痛切な和音と総休止による断絶だ。結尾ではホ長調を取り戻し、《交響曲第7番》の主要主題を暗示するホルンの響きで安寧に終わる。

ブルックナーは本作が自身の最後の作品になると予感しており、「愛する神に」捧げようとしたとの証言も遺されている(たとえば第3楽章の副次主題には《ミサ曲ニ短調》の「ミゼレーレ〔憐れみたまえ〕」との動機的相关がある)。対照的なハイドン作品のあと、そこかしこに不協和な衝突を抱えたまま宙づりになった本作において、この祈りような結尾は聴く者にせめてものカタルシスをもたらしてくれるだろうか。

作曲年代	1887年8月12日～1894年11月30日(最初のスケッチから第3楽章の完成まで)
初演	1903年2月11日、ウィーン、フェルディナント・レーヴェ指揮、ウィーン・コンサート協会オーケストラ(ただしレーヴェによる変更を伴う)
楽器編成	フルート3、オーボエ3、クラリネット3、ファゴット3、ホルン8(ワーグナー・チューバ4)、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ2、弦楽

A  
2026  
APRIL  
[第2060回]

みんなから慕われる楽団の「パパ」

## ヨーゼフ・ハイドン

Franz Joseph Haydn (1732-1809)

ハイドンは29歳のとき、ハンガリーの貴族エステルハージ侯爵の宮廷楽団に副楽長として就職します。5年後には楽長に昇進。楽長ハイドンは、侯爵がお望みとあらばいつでも楽団の演奏を聴かせ、合間を縫って交響曲やオペラを作曲し、時には楽員同士のいざごをなだめつつ楽団を指導育成したりと、忙しい日々を送ります。勤勉で面倒見が良く、「パパ・ハイドン」と呼ばれ慕われました。楽団のチェロ奏者のために書いたのが《チェロ協奏曲第1番》。明るくなごやかな音楽からは、パパ・ハイドンと楽員たちの笑顔が見えてくるようです。



エステルハージ宮廷で楽団を指揮するハイドン。  
この大広間は「ハイドンザール」と呼ばれ、  
現在でも演奏会で使われている

©IKE

PROGRAM

B

第2061回

サントリーホール

4/16 木 7:00pm

4/17 金 7:00pm

指揮 ファビオ・ルイーシ | プロフィールは p. 21

クラリネット 松本健司

コンサートマスター 郷古 廉

モーツァルト

クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622

[27']

- I アレグロ
- II アダージョ
- III ロンド:アレグロ

— 休憩 (20分) —

マーラー

交響曲 第5番 嬰ハ短調 [70']

- I 葬送行進曲:規則正しい歩みで厳格に、  
葬列のように
- II 嵐のように激して、非常に大きな激しさで
- III スケルツォ:力強く、速すぎずに
- IV アダージェット:きわめてゆっくりと
- V ロンド・フィナーレ:アレグロ

※演奏時間は目安です。

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは67ページをご覧ください

こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## 松本健司 (クラリネット)



神奈川県出身。パリ国立高等音楽院クラリネット科を首席および「レオン・ルブラン特別賞」を得て卒業。これまでにクラリネットを角田晃、濱中浩一、二宮和子、竹森かほり、ミシェル・アリニョン、ジェローム・ジュリアン・ラフェリエール、アラン・ダミアンに、室内楽をダリア・オヴォラ、ピエール・ロラン・エマール、ジャン・ギアン・ケラスに師事。1996年第4回日本クラリネットコンクール第2位(1位なし)、1997年第22回トウロン国際音楽コンクール第3位など受賞歴多数。現在は洗足学園音楽大学教授、東京音楽大学特任教授として後進の育成にも力を入れているほか、室内オーケストラARCUS、トリオ・サンクァンシュのメンバーとしても活動している。

2002年にNHK交響楽団へ入団し、2011年より首席クラリネット奏者を務める。モーツァルト《クラリネット協奏曲》は、人生の節目節目で向き合ってきた、思い出の詰まった作品という。首席指揮者ファビオ・ルイーゼのもと、緊密な演奏をきかせてくれるだろう。

### Program Notes | 山本まり子

死の影が忍び寄りの中にあっても、軽やかで清々しい調べを歌い上げるモーツァルトの《クラリネット協奏曲》。一方、死を弔う荘重な葬送行進曲から出発し、愛の成就と官能的な歓びへと大胆に変化していくマーラーの《交響曲第5番》。生と死のせめぎあいは、作曲家の生き様の中にとどまったのか。直接、音楽のうちに映し出されたのか。協奏曲と交響曲という王道の2曲を聴きながら、そんなことにも思いを巡らせてみてはいかがだろうか。

### モーツァルト

## クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622

クラリネットは1700年頃に誕生した比較的新しい楽器である。1771年、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~1791)は、《ディヴェルティメント第1番》(K. 113)で初めてクラリネットを試し、その音色に惹かれる。1777年の冬をマンハイムで過ごした折には、カンナビヒらが巧みに用いていたクラリネットに魅せられ、続くパリ滞在中、《交響曲第31番》(K. 297)にこの楽器を取り入れた。これがクラリネットを含む初めての完全な二管編成の交響曲である。

その後モーツァルトは、クラリネット奏者アントン・シュタットラーとの交流を通じ、表情豊かに旋律を歌わせることのできるクラリネットを重要な表現手段として捉えるようになって

た。シュタットラーの愛用楽器は、より低い音域をカバーできることを意味する「バセット」クラリネットである。《クラリネット協奏曲》は、同じく彼のために書かれた、いわゆる《ケーゲルシュタット・トリオ》(K. 498)や《クラリネット五重奏曲》(K. 581)の延長線上にあり、標準的な音域の楽器では演奏できないフレーズを含むため、出版に際しては一部に改変が施された。

楽曲の成立過程には謎も残されている。1789年頃、モーツァルトはバセットホルンのための協奏曲を書き始めたが、199小節の断片(K. 584b)だけを残した。2年後、レオポルト2世のボヘミア王即位を祝うオペラ《皇帝ティートの慈悲》(K. 621)のプラハ初演を9月6日に見届けたモーツァルトは、あたかも命を刻みつけるかのように、《魔笛》(K. 620)の仕上げに加え、上述の断片の続きをクラリネット用に改めて一心不乱に書き進めた。《魔笛》の初演から2週間後の10月16日、《クラリネット協奏曲》は初演された。それからわずか50日後の12月5日、モーツァルトは35年の生涯を閉じる。

作品全体を通じて、純粋で情感に満ちた旋律が、成熟した音楽的秩序に支えられて展開していく。

**第1楽章** アレグロ、イ長調、4分の4拍子、ソナタ形式。独奏とオーケストラが呼応しながら進行し、展開部では頻繁に転調を繰り返す。

**第2楽章** アダージョ、ニ長調、4分の3拍子、3部形式。歌心たっぷりに、静謐で息の長い旋律が全体を包み込む。

**第3楽章** アレグロ、イ長調、8分の6拍子。ロンド形式。軽やかな主題を独奏とオーケストラが歌い交わし、豊かに変化する楽想がそれを結び付けていく。

作曲年代	1791年夏～秋
初演	おそらく1791年10月16日、プラハ、アントン・シュタットラーの独奏で
楽器編成	フルート2、ファゴット2、ホルン2、弦楽、クラリネット・ソロ

## マーラー

### 交響曲 第5番 嬰ハ短調

グスタフ・マーラー(1860～1911)の《交響曲第5番》は、彼が20世紀に入って最初に完成させた交響曲である。民謡詩集『こどもの不思議な角笛』による《交響曲第4番》までの、素朴でアイロニーを帯びた要素を残しつつ、ウィーンの世紀末芸術特有の退廃的な美意識も内包している。《第5番》は、これらの諸要素を標題や声楽を使わず、純粋に器楽で表現しようと舵を切った転換点となる作品であった。

1897年から1907年までウィーン宮廷歌劇場の音楽監督であったマーラーは、歌劇場の閉まる夏になると作曲に専念した。1901年の夏は《亡き子をしのぶ歌》の3曲、

《リュッケルトによる5つの歌》の4曲、『角笛』の詩による《少年鼓手》のほか、《交響曲第5番》の第1楽章から第3楽章が作られ、実りの多い日々となった。

この《第5番》について、その夏を一緒に過ごしたヴィオラ奏者のパウアー・レヒナーにマーラーは、4楽章構成という計画を明かしていた。ところが急転直下、楽章がひとつ増えた。11月にアルマ・シントラーと巡り合ったのがきっかけである。瞬間に結婚へと向かった彼の熱い思いは音楽と重なり合う。友人の指揮者メンゲルベルクが「アダージェットはマーラーからアルマに宛てた愛のメッセージだった」とスコアに残したメモがそれを裏付けている。最終的には第3楽章を軸として、重苦しい色調の第1、2楽章、愛やユーモアといった肯定的な気分に満たされた第4、5楽章という3つのまとまりとなった。

## 第1部

**第1楽章** 葬送行進曲：規則正しい歩みで厳格に、葬列のように。嬰ハ短調、2分の2拍子。開始を告げるトランペットのファンファーレは、葬列を導くだけでなく、次の展開につなげる起点として音楽を推進する。上述のパウアー・レヒナーとの会話で彼は「一度でも何かを繰り返してはならず、すべてが自発的に発展しなければならない」と語っている。その理念のとおり、行進曲主題は2つのトリオをはさんで変容を続ける。

**第2楽章** 嵐のように激して、非常に大きな激しさで。イ短調、2分の2拍子。フォルテで突き進む第1主題と葬送の調べを回想する第2主題が、ソナタ形式の枠組みを作る。再現部は拡大され、大きな盛り上がりを見せる。

## 第2部

**第3楽章** スケルツォ：力強く、速すぎずに。ニ長調、4分の3拍子。「オブリガート・ホルン」が協奏曲のソロのように際立つ。舞曲風の第1トリオと寂寥感のある第2トリオを経て、大太鼓に導かれた輝かしいコーダで終わる。

## 第3部

**第4楽章** アダージェット：きわめてゆっくりと。ヘ長調、4分の4拍子。3部形式。ハーブと弦楽5部による甘美で陶酔的な旋律が、細波のように寄せては返し溶け合う。

**第5楽章** ロンド・フィナーレ：アレグロ、ニ長調、2分の2拍子。アダージェットの余韻からホルンとファゴットのユーモラスな動機が立ち現れ、6回にわたってフーガが展開される。金管の輝かしいコーラルが響き渡り、全曲は畳みかけるような力強さをもって終結する。

作曲年代	1901年夏着手。1902年秋に一旦完成するが、1904年の出版後も改訂を継続
初演	1904年10月18日、ケルン、ギェルツェニヒ管弦楽団の演奏、作曲家自身の指揮で
楽器編成	フルート4(ピッコロ4)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット3(Dクラリネット1、バス・クラリネット1)、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン6、トランペット4、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、シンバル付大太鼓、小太鼓、トライアングル、銅鑼、鞭、グロッケンシュピール、ハーブ1、弦楽

## はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト：IKE / 文：松井治伸

大作曲家と優れた演奏家との出会いから名曲が生まれることがあります。モーツァルトの《クラリネット協奏曲》も、ウィーン宮廷楽団のクラリネット奏者アントン・シュタットラーの演奏にモーツァルトが惚れ込んだことから作曲されました。モーツァルトはこの曲で、クラリネットの多彩な音色と表現力を存分に引き出しています。シュタットラーによる初演は1791年10月16日。それから2か月もたない12月5日、モーツァルトは35歳で亡くなりました。生涯最後の年、モーツァルトはクラリネットのための傑作を私たちに残してくれたのです。

B

2026 APRIL  
【第2061回】

モーツァルトとシュタットラー。

シュタットラーは、通常のクラリネットよりも低い音域の「バセットクラリネット」の演奏を得意としていた



©IKE

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

# 天才作曲家と天才奏者の出会いが生んだ名作 ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

PROGRAM

C

第2062回

NHKホール

4/24 **金** 7:00pm

4/25 **土** 2:00pm

指揮

下野竜也

ピアノ

反田恭平

コンサートマスター

川崎洋介

N響100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」

外山雄三

管弦楽のためのディヴェルティメント

[15']

I アレグロ

II アンダンテ

III アレグロ

プロコフィエフ

ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26

[27']

I アンダンテ—アレグロ

II アンダンティーノ

III アレグロ、マ・ノン・トロッポ

—休憩(20分)—

伊福部 昭

交響譚詩 [18']

第一譚詩:アレグロ・カプリチオーソ、リトミコ・エ・マルカート

第二譚詩:アンダンテ・ラブソディコ

ブリテン

歌劇「ピーター・グライムズ」

—「4つの海の間奏曲」作品33a [17']

I 夜明け

II 日曜の朝

III 月の光

IV 嵐

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは67ページをご覧ください

こちらのQRコードから

アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## 下野竜也(指揮)



多彩なステージで創造の喜びを分かち合うNHK交響楽団の正指揮者下野竜也が、日本の「古典」とオペラの調べという彼好みのプログラムを携え、定期公演に帰って来る。〈N響100年特別企画“邦人作曲家シリーズ”〉の華だ。下野は今年1月、大阪フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会でも小山清茂、大栗裕作品とバルトークの《歌劇「青ひげ公の城」》に腕を揮っている。

1969年鹿児島出身。鹿児島大学教育学部音楽学科、ウィーン国立音楽演劇大学などで学び、東京国際音楽コンクール〈指揮〉並びに仏ブザンソン国際指揮者コンクール優勝を契機に誠実な活動をスタートさせる。これまでに読売日本交響楽団、京都市交響楽団、広島交響楽団などの要職を歴任。現在広島ウインドオーケストラ音楽監督、N響正指揮者、札幌交響楽団首席客演指揮者を務めるいっぽう、2026年も日本フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団(PAC)、山形交響楽団の定期に登場するなど、各地のオーケストラと音楽ファンからの信頼はきわめて篤い。

NHK-FM『吹奏楽のひびき』、『ラジオ深夜便』「真夜中のコンサートホール(の偶数月)」に出演中。昨年はNHK『紅白歌合戦』でN響を指揮し、石川さゆりの《天城越え》を鮮やかに、壮大に彩った。今年4月29日のN響シンガポール公演のタクトも任されている。定期公演への出演は2025年2月のCプログラム以来となる。

[奥田佳道／音楽評論家]

## 反田恭平(ピアノ)



反田恭平は2021年の第18回シヨパン国際ピアノコンクール第2位入賞(1970年の内田光子以来51年ぶりの日本人最高位)から翌年の自伝的エッセー『終止符のない人生』出版にかけて、ピアニストとして最初の頂点を極めた。前後して指揮活動を本格化、若手奏者によるジャパン・ナショナル・オーケストラを結成して日本初の株式会社組織をとり、プロデューサーだけでなく社長にも就いた。2024年5月にはザルツブルク・

モーツァルテウム管弦楽団で、指揮者としてザルツブルク・デビュー。翌年8月のザルツブルク音楽祭で同楽団と再共演した際には指揮と独奏を兼ね(弾き振り)、ピアノの実力も存分に発揮した。

現在の反田はピアニストの枠にとらわれない「総合的音楽家」の道を迷うことなく歩み、新大陸を果敢に切り拓く挑戦者の風貌を備えつつある。その「<sup>かつぶく</sup>恰幅」はピアノ協奏曲の独奏においてもスコアの隅々まで把握した構造的視点を深め、プロコフィエフやチャイコフスキー、ラフマニノフなどロシアの技巧的な作品では、管弦楽との丁々発止の渡り合いのスリルを高める効果をもたらしている。

[池田卓夫／音楽ジャーナリスト]

「邦人作曲家シリーズ」の第2弾。N響の歴代の指揮者にはコンポーザー／コンダクターの系譜がある。近衛秀麿、尾高尚忠、山田一雄、高田信一、そして外山雄三。外山に岩城宏之が委嘱した作に、山田が初演した伊福部の作。組み合わせられるのは訪日した2人の大作曲家。プロコフィエフの協奏曲には日本の楽想が認められ、ブリテンはこの悲劇的な海の音楽を第2次世界大戦中に書いたあと、N響を振り、能の死生観に深く影響された。洋の東西の交わりを聴こう。

## 外山雄三

### 管弦楽のためのディヴェルティメント

NHKのFM放送の番組『民謡をたずねて』。その2025年3月4日の回は「特集・昭和のスターが唄った民謡」。局による番組案内文はこうだ。「昭和30年代、日本の高度経済成長期を支えた地方出身の労働者たちの心を慰めたのは、故郷の民謡でした。民謡を聞かせる「民謡酒場」が各地でオープン。やがて起きた「民謡ブーム」の影響を受け、演歌や歌謡曲の歌手たちも民謡をレパートリーに取り入れました」。政治的・社会的な労働運動と結びついた「うたごえ運動」が地方の民謡を都会の労働者が肩を組んで歌える歌として広め直し、大都市部では民謡歌手の出演する「民謡酒場」が繁盛し、人気民謡歌手が大ホールを満杯にし、レコード会社や放送局が民謡に熱心になり、美空ひばりも江利チエミも橋幸夫も寺内タケシも民謡をレパートリーにする。

この「民謡ブーム」はクラシック音楽とも同時代的に接続していた。とりわけ重要なのは外山雄三(1931～2023)の仕事である。外山は20代前半のうちから、芥川也寸志らの影響を受けつつ、ソ連の社会主義リアリズム路線の音楽に共鳴し、「うたごえ運動」にも関わって、日本の大衆に受け入れられ得る、平明かつナショナリティのあるオーケストラ音楽の道を模索した。そして辿り着いた結論が、人口によく膾炙している日本の民謡旋律を積極的に活用すること。凝った細工をするよりもなるたけむき出しに使う。《あなたがたごさ》で始まり《炭坑節》等を経て《八木節》で結ぶ《管弦楽のためのラプソディ》は1960(昭和35)年の作品。同年のNHK交響楽団の世界一周演奏旅行のアンコール曲となり、盛んに演奏されるようになって、「民謡ブーム」の一翼を担った。その直後の作になる《管弦楽のためのディヴェルティメント》は《ラプソディ》の初演を振った岩城宏之の委嘱による。日本民謡に基づく点では《ラプソディ》と同じだが、タイトル通りで、狂詩曲的熱狂ではなく喜遊曲的軽妙を狙っている。全体は3楽章から成る。第1楽章のアレグロは《ドンパン節》や《木曾節》等で、第2楽章のアンダンテは《禰搗節》や《会津磐梯山》で、第3楽章のアレグロは《ノエ節》等で出来ている。NHK交響楽団がこの作品を初めて演奏したのは1963年。指揮はやはり岩城だった。

作曲年代	1961年
初演	1962年1月4日、ブラハ、岩城宏之指揮、ブラハ交響楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、シンバル、小太鼓、トライアングル、ボンゴ、ハープ1、弦楽

## プロコフィエフ

### ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26

セルゲイ・プロコフィエフ(1891~1953)は、《第2番》のピアノ協奏曲を作っている最中の1912年12月30日に、次の《第3番》を夢見始めた。当時はまだサンクトペテルブルク音楽院の学生で、リムスキー・コルサコフの高弟、ニコライ・チェレプニンに習っている。ニコライの子はアレクサンドル。1930年代に中国と日本に長期滞在し、本日の演奏曲目の作曲家、伊福部昭を「発掘」して指導することになるが、プロコフィエフが師匠から息子を紹介されるのは1916年になってから。プロコフィエフが、米国の大富豪の一族の令嬢と結婚して大金持ちになったアレクサンドルからよくご馳走してもらって有頂天になるのは1920年代のフランスでのことだ。それはともかく、1912年の暮れ、プロコフィエフは過激な先鋭さを追い求める《第2番》に対し、《第3番》を時代錯誤的に古典派かロマン派的に作り込んで、《第2番》と対にしたいと考えた。《第2番》は1913年の春に完成し、夏に初演。しかしその後の《第3番》への道のりは長かった。

第1楽章が一挙に閃いたのは1918年1月という。1914年から第1次世界大戦が続き、ロシアでは前年に革命が始まっている。大混乱だ。プロコフィエフは音楽家として生きるには故国を離れて米国に逃げるしかないと思い詰めていた。第1楽章は熱烈な全力疾走。英雄が虎口から脱出していくイメージと重ねたくもなる。第2楽章は、小行進曲調というか、ゼンマイ仕掛けの玩具の動きというか、そういう主題が変奏されてゆく。ここでモデルはベートーヴェンの変奏曲らしい。つまり擬古典派である。大まかなスケッチは1917年から1918年春にかけて行われていたようだ。さて、1918年5月、プロコフィエフは革命政府に正規に認められて出国し、途中2か月の日本滞在を挟んで、まだ大戦の続く8月、米国に辿り着く。フィナーレの第3楽章はというと、楽想のかなりは日本滞在中と太平洋航路の洋上での産物という。それらが1914年10月に作曲家が閃いたヴィジョンと化合した。そのヴィジョンとはピアノの白鍵の音だけで奏せる純粋かつ巧緻な全音階的多声音楽の実現である。それが5音音階による日本風の旋律と半音階的モダニズムに茹で上げられてだいぶん変容してしまったのだろう。そして最終的に全体が仕上がったのは1921年夏、フランスで。世界の動乱をくぐりぬけ、足掛け10年かかった協奏曲である。

作曲年代	1921年
初演	1921年12月16日、シカゴ、作曲家自身の独奏、フレデリック・ストック指揮、シカゴ交響楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、大太鼓、シンバル、タンブリン、カ斯塔ネット、弦楽、ピアノ・ソロ

## 伊福部 昭

### 交響譚詩

ニコライ・チェレプニンの息子で、毒舌家のプロコフィエフも才能を認めていた作曲家、アレクサンドル・チェレプニンが、1930年代半ばに東京を訪れ、日本の作曲家たちの旺盛な仕事を知り、欧米に紹介したいと思い、きっかけにしようと管弦楽作品のコンクールを催した。審査はルーセルやイベールらによってパリで。結果は驚きだった。東京では無名、札幌でなら多少は知られていた独学の若者、伊福部昭(1914~2006)が第1位に。1935年のことだ。受賞曲は《日本狂詩曲》。全2楽章。巨大編成で打楽器多数。

しかし実はこの曲にはもう1楽章あった。〈じょんがら舞曲〉という。伊福部は文通していた亡命ロシア人で在ボストンの指揮者、ファビアン・セヴィツキーにかの地で初演してもらうつもりで、全3楽章で作曲していた。そこにチェレプニン賞募集の告知。演奏時間に制限がある。〈じょんがら舞曲〉をカット。その版で受賞し、セヴィツキーもボストンで演奏した。

伊福部は割愛した楽章を惜しく思う。手を掛けながら発表の機会を窺った。が、戦争の時代だ。大編成作品はやりにくくなる一方。未発表のまま時を経た。そして太平洋戦争3年目の1943年。当時の日本では内閣情報局が「国民音楽」の確立をスローガンとし、日本の作曲家による管弦楽曲作りも奨励されていた。レコード会社の日本音響(日本ビクター)もその種のコンクールを催す。第1位の作品はレコード化。伊福部は応募した。それが《交響譚詩》である。英語で言えばシンフォニック・バラード。2楽章から成る。

2番目の遅めのバラードが〈じょんがら舞曲〉の改作。時代の要請に応じて編成を絞っている。《じょんがら節》風の旋律を繰り返す悲しい音楽だ。作曲家の兄で技術者、軍事用の夜光塗料研究に伴う被曝のせいと思われる亡くなり方をした、伊福部勲への追悼の意が込められている。戦時下の死者たちへのレクイエムと思って聞いてよい。一方、1番目のバラードはソナタ形式のアレグロ。主要な動機のひとつがプロコフィエフの《ピアノ協奏曲第3番》の第1楽章の序奏部に現れる旋律と似ていなくもない。

《交響譚詩》は戦争末期に盛んに演奏された。日本交響楽団(現NHK交響楽団)の定期公演でも取り上げられた。山田耕筰や齋藤秀雄や尾高尚忠も指揮した。芥川也寸志や黛敏郎が戦後に伊福部に傾倒するのも、戦時下に彼らが耳にした《交響譚詩》がきっかけなのである。

作曲年代	1943年
初演	[レコードのための録音] 1943年9月4日、東京、山田和男(一雄)指揮、東京交響楽団(現東京フィルハーモニー交響楽団) [公開初演] 1943年11月20日、日比谷公会堂、レコード録音と同じメンバーによる
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2(バス・クラリネット1)、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、ハープ1、弦楽

## ブリテン

### 歌劇「ピーター・グライムズ」—「4つの海の間奏曲」作品33a

ベンジャミン・ブリテン(1913~1976)は1939年4月、大西洋を渡って米国へ向かった。20代半ばの彼は既に英国の代表的作曲家と認められていた。しかし過敏で神経質な音楽性を有し、政治的には反戦平和の一択で、性的にはマイノリティ。英国の楽壇も社会も彼に温かいばかりでなかった。しかも欧州には再び大戦の影が迫る。ブリテンは徴兵を免れたい。パートナーの歌手、ピーター・ピアーズと一緒に渡米に踏み切った。もちろん当分帰らぬつもり。

米国でもブリテンは有名で、それなりに仕事はあった。が、ブリテンはたくさん稼ぎたい。本国の家族親族への仕送りに追われる。そんな作曲家に、伊福部の《日本狂詩曲》を初演したセヴィツキーを甥おいに持つ、大金持ちの大指揮者、セルゲイ・クーセヴィツキーが声をかけた。グランド・オペラを書かないか。委嘱料を多く渡せる。ブリテンは、1810年刊行のジョージ・クラブの物語詩集から一篇を選んで自由に脚色した。偏屈で少年愛の傾向うかがも窺われる漁師が村むらで酷く差別されて死に追いやられる。主人公はブリテンやピアーズの分身かもしれない。2人は1942年に帰国し、良心的兵役忌避者と認められ、ブリテンはオペラに没頭。そうして1945年、プロローグと3幕から成る《ピーター・グライムズ》は完成し、同年6月7日、即ち欧州での大戦が終わったばかりのロンドンで初演された。

そこから間奏曲を束ねたのが今回の演奏曲。第1曲〈夜明け〉。透明で悲痛。第2曲〈日曜の朝〉。安息日だが不穏。第3曲〈月の光〉は漁村の夜。空虚さと気怠けだるさの高潮。第4曲〈嵐〉はイライラの爆発。ブリテンは常にこの世界に傷つけられ、苛さいなまれていたのか。神経の張りつめ方が尋常でない。

作曲年代	1945年
初演	1945年6月13日、チェルトナム、作曲者自身の指揮、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ2)、オーボエ2、クラリネット2(Esクラリネット1)、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、タンブリン、銅鑼、シロフォン、鐘、ハープ1、弦楽

## はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト：IKE／文：松井治伸

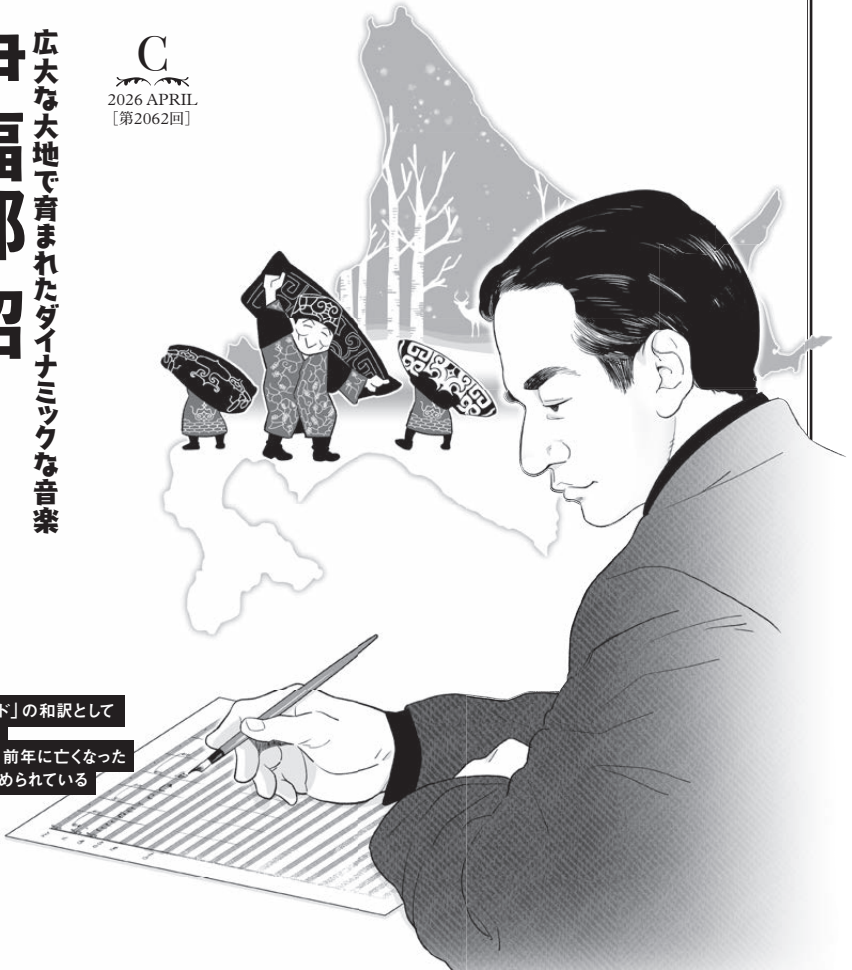
北海道に生まれた伊福部昭は、子どもの頃、帯広の北、音更<sup>おとふけ</sup>で暮らしました。音更は先住民アイヌが住み、全国各地から開拓民が集まる村でした。伊福部少年は、アイヌの人たちの歌や踊り、開拓民たちが歌う民謡に親しく接しながら育ちます。やがて音楽に目覚め、10代の後半には独学で作曲を始めます。大学卒業後は、北海道庁の森林事務所などで勤務しながら作曲に励みました。《交響譚詩<sup>たんし</sup>》は29歳のときの作品。大地の底から湧き上がってくるようなエネルギーと、民謡を思わせる哀愁を帯びた調べには、少年時代の伊福部の原体験がこだましています。

広大な大地で育まれたダイナミックな音楽

**伊福部 昭**

Akira Irukube (1914-2006)

C  
2026 APRIL  
[第2062回]



「譚詩」は「バラード」の和訳として使われていた言葉。  
《交響譚詩》には、前年に亡くなった兄を偲ぶ想いが込められている

©IKE

白石美雪

Miyuki Shirashi

第3回

# N響と尾高賞

日本オーケストラ界と  
ともに歩んだ作曲賞

〈後編〉

リレー連載

## N響百年——複合的視座

今年創立100年を迎えるN響。100年という大きな歴史のなかから、ひとつのトピックに視点を定めることで、時代の変遷がみえてくる——。リレー連載第3回目では「尾高賞」に焦点をあてた論考の後編をお届けします。

N響100年の歴史を彩る数々のトピックのなかでも、日本交響楽団(N響の前身)で専任指揮者として活躍した尾高尚<sup>ひきただ</sup>忠と、彼の名を冠した尾高賞は極めて重要だ。前編では、早逝した尾高とN響との関係、その後創設された尾高賞が日本のオーケストラ界や作曲界で果たした役割の特異性について、おもに創設から30年ほどを中心に外観した。後編では、その後の尾高賞の変遷を見ていこう。

### 尾高賞、転換期へ

1952(昭和27)年に始まった尾高賞は1980年代に新たなフェイズを迎える。大きな変更のひとつは、1984(昭和59)年の第32回から全国の交響楽団、大学を含む音楽機関から年に2回、候補作品を推薦してもらい、そこから審査員が選ぶ形となった点である。最終的には以前と同じく、NHKとNHK交響楽団に所属する委員(指揮者や演奏委員)が審査するのだが、音楽評論家による座談会を材料とするのではなく、演奏団体や実演者に近い機関からの推薦と、音源・楽譜に基づいた議論が行われることになった。おそらく当初から聴衆にとって聴き応えがあるだけでなく、オーケストラの演奏意欲をそそのものであることがNHK交響楽団の主宰する尾高賞の暗黙の基準だったのだが、演奏の志向性が強化されたと言っていい。この点については1986(昭和61)年に諸井誠が『コンサートのみ方』掲載の船山隆との対談で、「だんだん『尾高賞』そのものが作曲指向から演奏指向に変わってきたという、質の転換ということが指摘できるかもしれませんね」と述べている。

ひとつのオーケストラが他のオーケストラの初演した曲目について審査するという仕組みそ

のものへの批判はあった。1994(平成6)年4月の雑誌『音楽の世界 音楽家がつくる芸術・社会のための季刊誌』で、片山素秀(のち、杜<sup>もり</sup>秀)は音楽時評として「尾高賞の廃止と新賞の設立を提唱する」という一文を書く。主としてN響が他の楽団の成果を評価することへの疑念だったが、ここには重要な指摘が含まれていた。じつは直前6回の尾高賞のうち3回まで、NHKやN響自ら委嘱初演した作品が尾高賞を受賞していたのである。具体的には1989(平成元)年の一柳慧の《ピアノ協奏曲第2番「冬の肖像」》、1991(平成3)年の池辺晋一郎の《シンフォニーIV》、1992(平成4)年の西村朗の《ヴァイオリン、ピアノとオーケストラのための二重協奏曲「光の環」》の3曲。現在の眼からみてもいずれも水準の高い作品であることは確かだが、一般的にN響が初演してN響が賞を与えることへの違和感はある。こうした声が届いたのか、それ以降の33回のうち、前年にN響が初演した受賞作は4曲にとどまっている。

## 「N響 Music in Future」の挑戦

尾高賞の受賞作を原則として3月の定期公演で初演してきたN響は、1988(昭和63)年から「N響 MIF (Music in Future)」という特別公演を春に開催し、そこで尾高賞の受賞作を再演することにした。その事情について、1986(昭和61)年にNHK交響楽団理事長に就任した川口幹夫は『わたしたちのN響』であるために(『フィルハーモニー』第60巻4号)と題した座談会で、尾高賞の受賞作を演奏する3月定期が「そこだけガタンとお客が落ちてしまう。あるいは全体の曲目のバランスがどうもとりにくいかいりるありました」と述べている。そこで、将来に残

## 「尾高賞」受賞作品①

第1回	1953年	戸田邦雄 清水 脩	交響曲(佳作) 交響曲(佳作)
第2回	1954年	箕作秋吉 原田 稔	ピアノ協奏曲(佳作) 交響的狂詩曲(佳作)
第3回	1955年	三善 晃	ピアノと管弦楽のための 協奏交響曲
第4回	1956年	林 光	オーケストラのための変奏曲
第5回	1957年	別宮貞雄	管弦楽のための「2つの祈」
第6回	1958年	入野義朗	2つの弦楽器群と管、 打楽器のための合奏協奏曲
第7回	1959年	黛 敏郎	涅槃交響曲
第8回	1960年	入野義朗	交響曲
第9回	1961年	矢代秋雄	チェロ協奏曲
第10回	1962年	—	該当作品なし
第11回	1963年	三善 晃	ピアノ協奏曲
第12回	1964年	外山雄三 諸井 誠	ヴァイオリン協奏曲 ヴァイオリンとオーケストラ のための協奏組曲
第13回	1965年	三善 晃	管弦楽のための協奏曲
第14回	1966年	間宮芳生	2つのタブロー'65
第15回	1967年	黛 敏郎	BUGAKU(舞楽)
第16回	1968年	矢代秋雄	ピアノ協奏曲
第17回	1969年	松村禎三	管弦楽のための前奏曲
第18回	1970年	平吉毅州	交響変奏曲
第19回	1971年	間宮芳生	ピアノ協奏曲 第2番
第20回	1972年	別宮貞雄	ヴィオラ協奏曲
第21回	1973年	湯浅譲二	クロノプラスチック
第22回	1974年	柴田南雄	コンサート・オブ・オーケストラ
第23回	1975年	三善 晃	チェロ協奏曲
第24回	1976年	武満 徹	カトレーン

る音楽を特別なホールで演奏し、シンポジウムも行うことで、「N響が取り組む新しい分野の展開に変えてみよう」と発想したという。

定期公演ではなく、現代音楽のみの特別公演で受賞作を紹介する変更については、とくに作曲家たちに不評だった。最も強烈な批判は武満徹が1988(昭和63)年秋に刊行された雑誌『MUSIC TODAY QUARTERLY 今日』の音楽2』で書いた次のような言葉だろう。「(N響は)尾高賞作品を定期公演から外して、MIF(未来の音楽)という別枠の催しを行うことで、お茶をにごしている。一発の打ち上げ花火で、目先を誤魔化すやり方。だいたい、『未来の音楽』というネーミングからして、いかにもいかがわしい。かならずしも『現代音楽』という名が好ましいわけではないけれど、あてにもならない未来よりは、まだ、ました」と手厳しい。私自身も当時、「N響MIF '89」について書いた演奏会評の中で「このところ、現代の作品も聴衆を獲得しつつあるのだから、定期演奏会から外してしまうという方法が長い目で見て本当に良かったのかどうか、やはり疑問が残るところだ」と書いている(『オン・ステージ新聞』1989[平成元]年6月16日付)。こうした言説の背景としては、独立したチャンネルにすることでクラシック音楽の古典を聴く層に新しい音楽が届かなくなることへの危機感があった。

1988(昭和63)年5月23日にサントリーホールで行われた初の「N響MIF」では、尾高賞を受賞した2作品、西村朗の《2台のピアノと管弦楽のためのヘテロフォニー》と湯浅譲二の《ヴィオラとオーケストラのための「啓かれた時」》、NHKの委嘱作品である一柳慧の《ピアノ協奏曲第2番「冬の肖像」》の初演、ヴェイトルト・ルトスワフスキの《交響曲第3番》の日本初演というプログラムが組まれた。つまり、尾高賞受賞作とNHKもしくはN響による委嘱新作、海外の作

曲家による日本初演作品という3本の柱からなるコンサートとしてスタートを切ったのである。プレトークに30分近い時間をかけて、音楽学者を司会に作曲家たちが自作を語り、現代音楽の動向について話題にする機会も加わった。その内容は7月の『フィルハーモニー』に再録されている。さらに『フィルハーモニー』では1988(昭和63)年と1989(平成元)年の7月号に「総括 N響MIF」というページを作り、外部に依頼した2本の演奏会評と他のメディアでの批評をまとめて掲載した。その後も1992(平成4)年までは「N響演奏会／評の再録」というコーナーでその年の「N響MIF」についての批評を紹介している。尾高賞を定期から切り離して、現代音楽のみのコンサートを作る新企画を成功させようと、N響も本格的に力を入れていたことが伺える。

じつは、こうした傾向は当時の在京オーケストラの状況をそのまま反映したもので、日本の現代音楽はもっぱら現代音楽に絞った演奏会で初演・再演されてきた。1987(昭和62)年から2002(平成14)年まで続いた東京都交響楽団の「都響日本の作曲家シリーズ」は定期演奏会だったが、ひとりの現代作曲家の作品のみで1回を構成。1958(昭和33)年に始まった「日本フィル・シリーズ」は日本人作曲家への委嘱を行い、定期演奏会で初演したものの、1980年代以降は数年に1作と数が減っていった。逆に、N響が尾高賞受賞作を定期公演で紹介していたこと自体が異色だったのである。

1992(平成4)年10月の『文化庁月報』では、武田明倫が「わが国作曲界の現状と課題」という記事で、各オーケストラがそれぞれ日本人の作品にも目配りするようになってきていることに触れ、N響についても定期公演から外したことが当初、不評だったものの、「〈N響MIF(ミュージック・イン・フューチャー)〉は現在では完全に定着し、一定の評価を得ている」と報告している。数年をか

けて特別公演は定着をみたのだが、MIFでは尾高賞の再演を軸としつつも、新作初演と海外作品の日本初演という魅力があった。その効果も加味されて、新しい創造に関心のある聴衆が集う祝祭的な場としての役割が浸透していくことになる。フェルドマンの《コプトの光》とか、パスカル・デュサパンの《エグゼオ》、ミュライユの《嵐の目》など、このコンサートで出会った日本初演の作品も、世界に開かれた窓から吹き込んだ新鮮な風のようなだった。1993(平成5)年には「Music in Future」から「Music Tomorrow」へと名称を変更して今日に至っている。

## 若い世代が評価の舞台へ

どんなジャンルの賞でもステータスを確立するには時間がかかる。尾高賞については30回を数えたころから「日本で最高の作曲賞」「歴史のある作曲賞」と言われるようになった一方で、限られた大家・中堅作曲家の間で複数回の受賞が多いことも指摘されるようになった。1983(昭和58)年に出版されたサントリー音楽叢書3『エロス in Music』で、向坂正久が「インタビュー十人十色」に林光のこんな言葉を紹介している。「三宅榛名はるなが言ってたんだけど、いつまで経っても、あなたたちの世代が層を成しているから、私たちはなかなかうだがあがらないって。そういわれてみると尾高賞の受賞者の世代というのは、三十年間そう変ってないわけよ」。1980年代には大家・中堅による作品が対象となる権威ある賞という印象が強かった。

そこで、西村朗の尾高賞受賞は新鮮なニュースだった。1988(昭和63)年に西村朗の《2台のピアノと管弦楽のためのヘテロフォニー》が選ばれた時、私自身、驚きを感じたのを覚えている。

## 「尾高賞」受賞作品②

第25回	1977年	廣瀬量平 石井眞木	尺八協奏曲 日本太鼓とオーケストラ のための「モノ・プリズム」
第26回	1978年	野田暉行	ピアノ協奏曲
第27回	1979年	松村禎三	ピアノ協奏曲 第2番
第28回	1980年	松平頼暁	マリンバとオーケストラ のための「オシレーション」
第29回	1981年	武満 徹	ヴァイオリンとオーケストラ のための「遠い呼び声の 彼方へ!」
第30回	1982年	一柳 慧 尾高惇忠	ピアノ協奏曲 第1番 「空間の記憶」 イメージ
第31回	1983年	—	該当作品なし
第32回	1984年	一柳 慧	ヴァイオリン協奏曲 「循環する風景」
第33回	1985年	三善 晃	童声合唱とオーケストラ のための「響紋」
第34回	1986年	—	該当作品なし
第35回	1987年	—	該当作品なし
第36回	1988年	西村 朗 湯浅譲二	2台のピアノと管弦楽の ためのヘテロフォニー ヴァイオリンとオーケストラ のための「啓かれた時」
第37回	1989年	細川俊夫 一柳 慧	「遠景」 ピアノ協奏曲 第2番 「冬の肖像」
第38回	1990年	一柳 慧	交響曲「ベルリン連詩」
第39回	1991年	近藤 譲 池辺晋一郎	林にて シンフォニーⅣ
第40回	1992年	西村 朗	ヴァイオリン、 ピアノとオーケストラのための 二重協奏曲「光の環」
第41回	1993年	西村 朗	永遠なる渾沌の光の中へ
第42回	1994年	北爪道夫	映照

というのも、西村は海外で受賞歴はあるものの、この時点で30代半ば。久々に尾高賞が新しい世代の作品に光をあてたのである。審査員のひとりだった岩城宏之は審査講評に、「久方ぶりの、尾高賞としての新人である。まことに喜ばしい」と書いている。翌年にはさらに若い細川俊夫の作品が受賞することで、賞そのものが清新さを取り戻していく。1990(平成2)年に出版された森雅裕の小説『歩くと星がこわれる』にこんな一節がある。主人公が友だちの作曲科学生に「今後の人生設計をいってみよう。来年卒業したら、尾高賞を取るのか」と問うのである。この学生は留年しようと考えている学部学生という設定なのだから、なかなか尾高賞に手は届かない。でも、東京藝術大学美術学部出身の森も、尾高賞は新人にも開かれたコンクールとみていたことになる。中堅・大家ばかりでなく若い世代にも目を配る音楽賞へと、印象は修正されたと言える。一覧でみるとおり、実際にはこのあとも大家と言える湯浅譲二、三善晃<sup>あきら</sup>といった世代と、それに続く中堅の池辺晋一郎、さらに北爪道夫、近藤譲、新実徳英らの世代の作品の受賞は続いているのだが、西村朗、細川俊夫らのあとも新人が数年に1度は選ばれている。2026(令和8)年2月に1999(平成11)年生まれ、20代の我妻英<sup>すなほ</sup>の作品が第73回尾高賞を受賞したことで、大家から新人にいたるまでを視野に入れた賞としての方向性がはっきりと示された。

---

## 女性作曲家の受賞作の登場

年齢層以外の大きな変化として、女性作曲家の受賞作の登場がある。女性初の受賞作は1995(平成7)年、第43回の藤家溪子の《思いだすひとびとのしぐさを》。当時から女性作曲

家の人数は決して少なくなかったが、尾高賞では20世紀も終わりになってようやくという状況だった。それだけにこの受賞は音楽界を超えて、幅広い注目を集める。同年9月に京都府が贈る「京都府あげぼの賞」に選ばれたときも、翌年、1996(平成8)年エイボン女性年度賞の芸術賞を受賞したときも、「尾高賞を女性で初めて受賞」したことが藤家への贈賞理由となっていた。『季刊 女子教育もんだい 自立・平等・連帯』の1995(平成7)年秋号では、「仕事をひらく14」のコーナーで藤家を取り上げ、同年12月の『音楽現代』では女性初めての尾高賞受賞を「音楽界に異変が起きた」と評している。藤家と同じ年には猿谷紀郎の《ゆらら おりみだり Fractal Vision》も尾高賞に輝き、同時2作品の受賞だったのだが、藤家溪子という「紫式部以来の才能」(岩城宏之の審査講評より)の出現に沸く音楽界の狂騒にいささか影が薄くなった感がある。そのあと、2000(平成12)年に再び藤家の《ギター協奏曲第2番「恋すてふ」》が尾高賞を受賞すると、2005(平成17)年第53回の望月京の《クラウド・ナイン》、2009(平成21)年第57回の原田敬子の《エコー・モンタージュ》、2022(令和4)年の岸野末利加の《チェロとオーケストラのための「What the Thunder Said／雷神の言葉」》が続く。女性作曲家は、今年まで含めて総計40人の受賞者のうち、わずか4人である。女性だから、と特別視するのはおかしいが、女性が1割しかいないというのはそもそも女性作曲家にとって、オーケストラ作品の発表の場が限られていることを意味しているのだろう。

---

## 時代を映す、「尾高賞」

尾高賞に何が選ばれるかは、おのずと日本

の創作界の状況に左右される。

2000(平成12)年に藤家溪子が《ギター協奏曲第2番「恋すてふ」》で2度目の尾高賞を受賞したとき、私は朝日新聞の音楽評で6月29日の「Music Tomorrow」について書き、藤家作品の優美で明るい音作りの華やかさは気持ちのよいものでありながら、ディヴェルティメント風の性格が懐古的だと評した(『朝日新聞』2000[平成12]年7月5日夕刊)。同時受賞の外山雄三の《交響曲第2番》、N響委嘱の新作だった西村朗の《光と影の旋律》と聴き進めて感じたのは「鏡に映った現代社会の縮図」。未来を予感させる発想よりも、過去へのまなざしを強く感じさせ、暮れ行く20世紀の残照と聴こえた。

柴田南雄が「今は作曲にスタイルのない時代で、デザイン時代になっていますからね。だから、尾高賞は必要だし、功績もあるけれど…、非常にオリジナルなものを望んでも、まず、それは歴史的に無理ですね。もはや」と述べ、うまく書くことではなく、音楽観の表明として意味があるかどうかが重要だと述べたのが1986(昭和61)年(『行動する作曲家たち—岩城宏之対談集』)。それ以降、21世紀の今日にいたるまで、デザイン的な指向の音楽は広がりを見せている。受賞作にもそれまでになかった新しい作曲技法の探求より、背景のコンセプトを重視した作品の比重が増えてきた。2007(平成19)年受賞の新実徳英作曲《協奏的交響曲「エラン・ヴィタル」》や2011(平成23)年受賞の西村朗作曲《蘇莫者<sup>そまくしや</sup>》、2016(平成28)年受賞の権代敦彦作曲《“Vice Versa”—逆も真なり—》などはその例。そうした中でも、2009(平成21)年受賞の藤倉大の《secret forest for ensemble》のように電子音楽風の発想をもつ30代の若手の音楽が颯爽<sup>さつそう</sup>と登場し、2018(平成30)年受賞の坂田直樹作曲《組み合わせられた風景》のように緻密な書法によって、武

### 「尾高賞」受賞作品③

第43回	1995年	藤家溪子 猿谷紀郎	思いだすひとびとのしぐさを ゆらら おりみだり Fractal Vision
第44回	1996年	野平一郎 林光	室内協奏曲 第1番 ヴィオラ協奏曲「悲歌」
第45回	1997年	湯浅譲二	ヴァイオリン協奏曲 「イン・メモリー・オブ 武満 徹」
第46回	1998年	—	該当作品なし
第47回	1999年	池辺晋一郎 三善晃	悲しみの森 囃歌・波摘み
第48回	2000年	外山雄三 藤家溪子	交響曲 第2番 ギター協奏曲 第2番 「恋すてふ」
第49回	2001年	北爪道夫	地の風景
第50回	2002年	細川俊夫	ハーブ協奏曲「帰帰」〜 辻 邦生の追憶に
第51回	2003年	湯浅譲二	内触覚的宇宙 第5番
第52回	2004年	—	該当作品なし
第53回	2005年	望月京	クラウド・ナイン
第54回	2006年	猿谷紀郎	ゴットフリート・ベンの テキストによる 「ここに慰めはない」
第55回	2007年	新実徳英	協奏的交響曲 「エラン・ヴィタル」
第56回	2008年	西村朗	幻影とマントラ
第57回	2009年	藤倉大 原田敬子	secret forest for ensemble エコー・モンタージュ
第58回	2010年	—	該当作品なし
第59回	2011年	西村朗	蘇莫者
第60回	2012年	尾高惇忠	交響曲「時の彼方へ」
第61回	2013年	野平一郎	ハーブと室内オーケストラ のための「彼方、そして傍らに」

満徹作曲賞と尾高賞、芥川作曲賞の3賞を同時受賞する快挙を成し遂げる作品も現れた。2000(平成12)年以降、海外から指揮者を招くケースが格段に増えたことも付記しておきたい。海外の指揮者に日本の新しい音楽を振ってもらうことで、それらの作品が世界へと羽ばたく可能性が生まれる。

創作の現場では前衛と後衛、技法重視と内容重視、ヨーロッパ風とアジア風など互いに相いれない様々な対立軸がある。尾高賞はオーケストラが主宰である利点をぞんぶんに生かして、ひとつの傾向に拘泥することなく、あくまでオーケストラ曲としての魅力を評価することができる。そのこと自体、未知の音楽へと開かれた、他に類のない賞の個性として、大いに誇ることができる。

#### 参考・引用資料

- ・朝日新聞(2000年7月5日夕刊)
- ・オン・ステージ新聞(1989年6月16日)
- ・『文化庁月報』(289号、1992年10月)
- ・『フィルハーモニー』(第60巻3号、1988年)、(第60巻4号、1988年)、(第60巻7号、1988年)、(第61巻7号、1989年)
- ・『音楽現代』(第25巻12号、芸術現代社、1995年)
- ・『MUSIC TODAY QUARTERLY 今日の音楽2』(Music Today Committee、1988年)
- ・『季刊 女子教育もんだい 自立・平等・連帯』(労働教育センター、1995年秋号)
- ・『音楽の世界 音楽家がつくる芸術・社会のための季刊誌』(第33巻4号、日本音楽舞踊会議、1994年)
- ・サントリー音楽叢書3『エロス in Music』(サントリー音楽財団、1983年)
- ・諸井誠『コンサートの楽しみ方』(TBSブリタニカ・ペーパーバックス、1986年)
- ・『行動する作曲家たち—岩城宏之対談集』(新潮社、1986年)
- ・森雅裕『歩くと星がこわれる』(中央公論社、1990年)

白石美雪 | しらいし・みゆき

音楽学者、音楽評論家。武蔵野美術大学教授。著作に『音楽評論の一五〇年 福地桜痴から吉田秀和まで』『ジョン・ケージ 混沌ではなくアナーキー』『すべての音に祝福を』、編著書に『音楽論』、共著書に『はじめての音楽史』『武満徹 音の河のゆくえ』『キーワード150 音楽通論』など。NHK ラジオ『現代の音楽』パーソナリティ。

#### 「尾高賞」受賞作品④

第62回	2014年	細川俊夫	トランペット協奏曲 「霧の中で」
		猿谷紀郎	第62回神宮式年遷宮奉祝曲 交響詩「浄蘭の祈り2673」
第63回	2015年	藤倉 大	Rare Gravity
第64回	2016年	権代敦彦	“Vice Versa”—逆も真なり—
第65回	2017年	一柳 慧	交響曲 第10番—さまざまな 想い出の中に— 岩城宏之の追憶に
		池辺晋一郎	シンフォニーX 「次の時代のために」
第66回	2018年	坂田直樹	組み合わせされた風景
第67回	2019年	藤倉 大	Glorious Clouds for Orchestra
第68回	2020年	細川俊夫	オーケストラのための「渦」
第69回	2022年	西村 朗	華開世界〜オーケストラ のための
		岸野末利加	チェロとオーケストラのための 「What the Thunder Said / 雷神の言葉」
第70回	2023年	藤倉 大	尺八協奏曲
		一柳 慧	ヴァイオリンと三味線 のための二重協奏曲
第71回	2024年	湯浅譲二	打楽器、ハープ、ピアノ、 弦楽オーケストラのための 「哀歌 —for my wife, Reiko—」
第72回	2025年	権代敦彦	時と永遠を結ぶ絃 —ヴァイオリンとオーケストラ のための Op. 193
第73回	2026年	我妻 英	管弦楽のための《 <small>まつる</small> 記》

# 2026年5月定期公演のプログラムについて

## 公演企画担当者から

ナチスが政権を握り、スターリンが独裁体制を固めた1930年代。芸術への圧力が強まる時代に生まれた傑作を、勢いある中堅指揮者のタクトでお送りする。

### テツラフ兄妹による 滋味豊かなブラームス

[Aプログラム]はブラームスの《ピアノ四重奏曲第1番》。ナチスから逃れ、アメリカに亡命したシェーンベルクにとって、この作品をオーケストラに編曲することは、敬愛する作曲家の先進性を世に知らしめるとともに、自身とヨーロッパの伝統との結びつきを再確認する作業でもあった。ミハエル・ザンデルリンクは著名な音楽ファミリーの出。11年ぶりとなるN響定期に先立ち、ベルリンやヘルシンキでも同じ曲を指揮する。

《二重協奏曲》は、ブラームスが自身をチェロに、友人ヨアヒムをヴァイオリンに見立てて書いたという。そんな理由もあるのか、2つのソロ・パートは常に寄り添い、時には境目を見失うくらい密に絡み合う。まるで8つの弦を持つひとつの楽器のようだ。下手をすると平板にもなりかねないが、テツラフ兄妹にそんな心配は無用である。兄クリスティアンによれば、これは「暗いことを語りながら、常に慰めを与えようと努める」音楽だ。深い絆で結ばれた2人によ

る、滋味豊かな演奏を期待したい。

### 不穏な時代に書かれた 日本とドイツの音楽

[Bプログラム]の最初は“世界のヤマカズ”山田和樹が指揮する“元祖ヤマカズ”の意欲作。山田一雄はN響の前身・日本交響楽団の専任指揮者としても活躍し、苦難の戦前戦後を支えた。《若者のうたへる歌》という曲名には“若き日の充実した日記”といった意味が込められている。暗雲が立ち込める世相の中、安直なナショナリズムに与しなかった作曲者の気概が感じられる。続くハルトマンの《葬送協奏曲》は、チェコスロバキアを併合した祖国ドイツへの抗議声明。コラールや革命歌の引用が、悲嘆と怒りに満ちた2つの中間楽章を縁どる。強いメッセージのこもった難曲に挑むのは、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団の第1コンサートマスター、キム・スーヤン。

後半の《画家マチス》は、同名のオペラがナチスに上演を禁じられ、これを批判した大指揮者フルトヴェングラーが公職を追われるという“ヒンデミット事件”の発端になった。山田一雄と同じく、マーラーの弟子プリングスハイムに学んだ須賀田儀太郎の《交響的序曲》は、《画家マチス》を下敷きにしたもので、金管のコラール主題とそれを彩る弦楽器、中盤のア

レグロ主題など、あまたの類似点が興味を引く。不穏な時代に書かれた日本とドイツの音楽は、私たちに多くの示唆を与えてくれるだろう。

### 希望と痛みが共存する作曲家 ヴァスクスの新作日本初演

[Cプログラム]の《交響曲第4番》は1936年の完成直後、ショスタコーヴィチ自身によって初演が取り下げられた。スターリンの弾圧を恐れての判断だったと言われる。確かに、いびつな構造やマーラー風のグロテスクな舞曲は、わかりやすさを求める社会主義リアリズムの理念から、かけ離れたものであったろう。だからこそと言うべきか、近年、ネゼ・セガンやネルソンス、マケラといった今を時めく指揮者たちが、こぞってこの曲を取り上げているのは

注目に値する。混沌と矛盾に満ちた音楽は、作曲された時代の写し絵というだけでなく、21世紀の先取りのようにも感じられるのだ。アンドリス・ボーガも《第4番》に強いこだわりを持つひとり。包容力のある指揮ぶりで、多様な解釈が可能な問題作に迫るだろう。

前半はボーガと同じラトビア出身の作曲家、ヴァスクスの新作《感謝の歌》の日本初演。彼は旧ソビエト政権下、周囲の人間が次々収容所に送られるという悲痛な体験をした。30歳近くになって始めた作曲は、理不尽な社会に対する抵抗の手段だった。希望と痛みが共存する独特の音楽は、多くの現代人の心をとらえてやまない。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

**A** 5/23 土  
6:00pm  
5/24 日  
2:00pm  
NHKホール

ブラームス／

ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102

ブラームス(シェーンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番 卜短調 作品25

指揮：ミヒャエル・ザンデルリンク

ヴァイオリン：クリスティアン・テツラフ

チェロ：ターニャ・テツラフ



**B** 5/14 木  
7:00pm  
5/15 金  
7:00pm  
サントリーホール

**N響100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」**

山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」

ハルトマン／葬送協奏曲\*

須賀田磯太郎／交響的序曲 作品6

ヒンデミット／交響曲「画家マチス」

指揮：山田和樹

ヴァイオリン：キム・スーヤン\*



**C** 5/29 金  
7:00pm  
5/30 土  
2:00pm  
NHKホール

ヴァスクス／感謝の歌(2025)

[NHK交響楽団、ラトビア国立交響楽団、ミュンヘン室内管弦楽団、

オーストラリア室内管弦楽団共同委嘱作品／日本初演]

ショスタコーヴィチ／交響曲 第4番 ハ短調 作品43

指揮：アンドリス・ボーガ



# チケットのご案内(定期公演 2025年9月～2026年6月)

## 定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です! (一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	販売終了
	シーズン会員券(Spring)	発売中

## 料金(税込)

年間会員券(9回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
Cプログラム	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)

シーズン会員券(3回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
Cプログラム	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

( )内は1公演あたりの単価

## 1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	販売終了
	12・1・2月	販売終了
	4・5・6月	発売中

## ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円～で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

WEBチケットN響  
<https://nhkso.pia.jp>



### お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502  
営業時間: 10:00am～5:00pm  
定休日: 土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on

N響ニュースレター | 最新情報をメールでお届けします。  
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

# 2025-26定期公演プログラム

<b>A</b> NHKホール 開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	<b>B</b> サントリーホール 開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm	<b>C</b> NHKホール 開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm
---	---	---

2026 05	<b>A</b> 第2064回 5/23(土) 6:00pm 5/24(日) 2:00pm NHKホール	ドイツ音楽の深い洞察者と奏でるブラームス・プログラム ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102 ブラームス(シェーンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25 指揮:ミハエル・ザンデルリンク ヴァイオリン:クリスティアン・テツラフ チェロ:ターニャ・テツラフ	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,500 D ¥1,500 E ¥1,000
	<b>B</b> 第2063回 5/14(木) 7:00pm 5/15(金) 7:00pm サントリーホール	「ヤマカズ21」が振る元祖ヤマカズ そして1930年代日独作品の諸相 N響100年特別企画 邦人作曲家シリーズ 山田一雄 小交響詩「若者のうたへる歌」 ハルトマン／葬送協奏曲* 須賀田磯太郎／交響的序曲 作品6 ヒンデミット／交響曲「画家マチス」 指揮:山田和樹 ヴァイオリン:キム・スーヤン*	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
	<b>C</b> 第2065回 5/29(金) 7:00pm 5/30(土) 2:00pm NHKホール	旧ソ連・ラトビア出身の気鋭が解き明かす 謎多きショスタコーヴィチ(第4番)の真髄 ヴァスクス／感謝の歌(2025)[NHK交響楽団、ラトビア国立交響楽団、 ミュンヘン室内管弦楽団、オーストラリア室内管弦楽団共同委嘱作品/日本初演] ショスタコーヴィチ／交響曲 第4番 ハ短調 作品43 指揮:アンドリス・ボーガ	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,500 D ¥1,500 E ¥1,000
2026 06	<b>A</b> 第2067回 6/13(土) 6:00pm 6/14(日) 2:00pm NHKホール	ニューヨーク・フィルを率いたズヴェーデン 待望のN響初登場 ワーグナー／楽劇「ニルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲 モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453 バルトーク／管弦楽のための協奏曲 指揮:ヤープ・ファン・ズヴェーデン ピアノ:コンラッド・タオ	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
	<b>B</b> 第2066回 6/4(木) 7:00pm 6/5(金) 7:00pm サントリーホール	ドゥナーヴが編む「夏」と「海」をめぐるフランス名曲選 オネゲル／交響詩「夏の牧歌」 ベルリオーズ／歌曲集「夏の夜」作品7 イベール／寄港地 ドビュッシー／交響詩「海」 指揮:ステファヌ・ドゥナーヴ メゾ・ソプラノ:ガエル・アルケーズ	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
	<b>C</b> 第2068回 6/19(金) 7:00pm 6/20(土) 2:00pm NHKホール	尾高のリリシズムと相性抜群の北国の名作たち HIMARI, N響定期に初登場 シベリウス／アンダンテ・フェスティエヴォ シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44 指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:HIMARI	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,500 D ¥1,500 E ¥1,000

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

(料金はすべて税込)

## 特別公演

6/26(金) 7:00pm | N響シネマ・ミュージック feat. ジョン・ウィリアムズ

J:COMホール八王子(八王子市民会館)

指揮:原田慶太楼

—オール ジョン・ウィリアムズ プログラム—

オリンピック・スピリット 映画『スーパーマン』—マーチ 映画『E. T.』—フライング・テーマ

映画『ジュラシック・パーク』—テーマ 映画『シンドラーのリスト』—テーマ

映画『レイダース/失われたアーク《聖櫃》』—レイダース・マーチ オリニック・ファンファーレとテーマ

映画『ハリー・ポッター』—ヘドウィグのテーマ 映画『スター・ウォーズ』—メイン・タイトル、レイア姫のテーマ、

ルークとレイア、帝国のマーチ、ヨーダのテーマ、酒場のバンド、王座の間とエンド・タイトル

料金(税込):一般 | S席10,000円 A席8,600円 B席6,800円

ユースチケット(29歳以下) | S席5,000円 A席4,300円 B席3,400円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 3月9日(月)10:00am

一般 | 3月13日(金)10:00am

主催:NHK / NHK交響楽団

7/3(金) 7:00pm | Music Tomorrow 2026

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:杉山洋一 ソプラノ:藤田果玲 トロンボーン:新田幹男(N響首席トロンボーン奏者)

我妻 英 / 管弦楽のための《祀》(2024) [第73回「尾高賞」受賞作品]

杉山洋一 / 夢へのきざし—オーケストラのための(2026) [N響100年記念委嘱作品・世界初演]

スペシャルトーク(ピローネ・自作を語る)

ピローネ / ボッカ・コスモイ—声、トロンボーンとオーケストラのための(2007) [日本初演]

※6:30pmより尾高賞授賞式・プレトークがございます(司会:白石美雪)

料金(税込):一般 | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 3月9日(月)10:00am

一般 | 3月13日(金)10:00am

主催:NHK / NHK交響楽団 共催:(公財)東京オペラシティ文化財団

助成:(公財)三菱UFJ信託芸術文化財団 / (公財)ロームミュージックファンデーション

Rohm Music  
Foundation   
ロームミュージックファンデーション

---

## 7/6 日 7:00pm | N響 ウェルカム・コンサート

---

NHKホール

---

指揮:原田慶太楼 ヴァイオリン:中原梨衣紗 ハープ:早川りさこ(N響ハープ奏者) ナビゲーター:大林奈津子  
ウェーバー/歌劇「オベロン」序曲から(9月定期公演)

ベートーヴェン/交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」—第1楽章(10月定期公演)

ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98—第3楽章(10月特別公演)

ニルセン/交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチェ」—第2楽章(1月定期公演)

メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64—第1楽章から(4月定期公演)

フランツ・シュミット/歌劇「ノートルダム」—「間奏曲」(4月東京芸術劇場シリーズ)

ランサン/ハープと管弦楽のための田園協奏曲—第2楽章(5月東京芸術劇場シリーズ)

ショスタコーヴィチ/交響曲 第9番 変ホ長調 作品70—第1楽章(4月定期公演)

ファリャ/バレエ組曲「三角帽子」第2番—「終幕の踊り」(12月定期公演)

料金(税込):一般 2,000円/定期会員 1,700円/ユースチケット(29歳以下) 1,000円

ウェルカム・ペアチケット(2枚1組) 3,200円

チケット発売日:N響定期会員先行 | 4月20日(月)10:00am

一般 | 4月24日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

---

## 7/17 金 7:00pm | N響「夏」2026

---

NHKホール

---

指揮:ワシリー・ベトレンコ ピアノ:ツोटネ・ゼジニゼ

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

リムスキー・コルサコフ/交響組曲「シェエラザード」作品35

料金(税込):一般 | S席7,300円 A席5,300円 B席3,300円 C席2,100円

ユースチケット(29歳以下) | S席3,600円 A席2,600円 B席1,600円 C席1,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(火)10:00am

一般 | 5月15日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

協賛:岩谷産業株式会社

## 8/2回3:30pm | 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート

NHKホール

指揮:下野竜也 ホルン:アレッシオ・アレグリーニ ナビゲーター:加藤清史郎

[翔けよう! まほうの森と夢の世界]

ドリーブ/バレエ組曲「シルヴィア」—前奏曲と「狩りの女神」

モーツァルト/ホルン協奏曲 第2番 変ホ長調 K. 417

ハイドン/交響曲 第73番 二長調「狩り」—第4楽章

ヨハン・シュトラウスII世/ポルカ「狩り」作品373

メンデルスゾーン/「夏の夜の夢」の音楽から〜加藤清史郎といっしょに、シェークスピアのお話の森へ

料金(税込):一般 | S席5,500円 A席4,500円 B席3,000円 C席1,500円

ユースチケット(29歳以下) | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 C席1,000円

小・中学生 | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円 C席500円

※定期会員はS・A・B各席の一般料金から10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(火)10:00am

一般 | 5月15日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

協賛:湖山医療福祉グループ

協力:株式会社グローバル/グローバル管楽器技術学院/株式会社ポケモン

## 8/21金 7:00pm | 東京芸術劇場

## 8/22日 3:30pm | 京都コンサートホール

## 8/23回 2:00pm | ザ・シンフォニーホール

## 8/24日 7:00pm | 福岡シンフォニーホール(アクロス福岡)

N響×ポケモン  
クラシックコンサートツアー  
(東京・京都・大阪・福岡)

指揮:横山 奏 MC:竹平晃子

[第1部]

『ポケットモンスター 赤・緑』より〜オープニング〜

グリーグ/「ペール・ギュント」組曲 第1番より「朝」

スメタナ/交響詩「モルダウ」

ストラヴィンスキー/バレエ組曲「火の鳥」より「こもり歌」〜「終曲」

[第2部]

ゲーム『ポケットモンスター』シリーズより

『ポケットモンスター ウインド・ウェーブ』より メインテーマ

※ポケモンや映像・音響・照明による演出はございません。

料金(税込):一般 | S席13,000円 A席11,000円 B席9,000円 C席7,000円

小・中学生 | S席5,500円 A席4,500円 B席3,500円 C席2,500円

※N響定期会員の割引はございません

チケット発売日:N響年間会員・シーズン会員先行 | 5月14日(木)10:00am〜5月18日(月)11:59pm

先行抽選受付(WEBチケットN響限定) | 5月19日(火)10:00am〜5月26日(火)11:59pm

一般 | 6月7日(日)10:00am

※「N響年間会員・シーズン会員先行」発売期間中は予定枚数となり次第、受付を終了いたします。

主催:NHK交響楽団

企画協力:株式会社ポケモン

©2026 Pokémon. ©1995-2026 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.

ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリエーターズ・ゲームフリークの商標です。

9/3(日) 7:00pm | 明電舎 presents N響名曲コンサート2026

サントリーホール

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:郷古 廉  
シベリウス/アンダンテ・フェスティーヴォ  
プロコフィエフ/ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 作品63  
チャイコフスキー/交響曲 第5番 ホ短調 作品64

料金(税込):一般 | SS席9,000円 S席7,000円 A席5,500円 B席4,000円 C席3,000円  
ユースチケット(29歳以下) | SS席4,500円 S席3,500円 A席2,750円 B席2,000円 C席1,500円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(火)10:00am  
一般 | 5月15日(金)10:00am

主催:NHK交響楽団  
特別協賛:株式会社明電舎

10/3(土) 6:00pm

創立100年記念 マラー《交響曲第2番「復活」》

10/4(日) 2:00pm

NHKホール

指揮:ファビオ・ルイーゼ ソプラノ:イン・ファン メゾ・ソプラノ:タマラ・ママフォード 合唱:新国立劇場合唱団  
マラー/交響曲 第2番 ハ短調「復活」

チケット発売日:N響定期会員先行 | 7月22日(水)10:00am  
一般 | 7月26日(日)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

10/30(金) 7:00pm

巨匠たちによるブラームス交響曲全曲演奏

10/31(土) 4:00pm

東京芸術劇場

10/30(金) | 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット  
ブラームス/交響曲 第2番 二長調 作品73  
ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98

10/31(土) | 指揮:クリストフ・エッセンバッハ  
ブラームス/交響曲 第3番 へ長調 作品90  
ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68

チケット発売日:N響定期会員先行 | 7月22日(水)10:00am  
一般 | 7月26日(日)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

2027/1/10(日) 3:00pm

2027/1/11(月祝) 3:00pm

ルイーダ指揮 N響ニューイヤーコンサート

NHKホール

指揮:ファビオ・ルイーダ ソプラノ:カミラ・ニールンド\* テノール:クラウス・フロリアン・フォークト\*

ワーグナー／歌劇「リエンチ」序曲

ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」—ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」\*

ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」—「きみこそは春」\*

ワーグナー／歌劇「ローエングリン」—聖杯の物語「はるかな国に」\*

ワーグナー／歌劇「タンホイザー」—「おごそかなこの広間よ」\*

ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」—「愛の夜よ、とばりを降ろせ」\*\*

J. シュトラウスII世／喜歌劇「こうもり」—序曲、チャルダース「ふるさとの調べよ」\*

レハール／喜歌劇「ほほえみの国」—「きみはわが心のすべて」\*

レハール／喜歌劇「メリー・ウイダー」—「ヴェリアの歌」\*

カールマーン／喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」—「ウィーンによるしく」\*

J. シュトラウスII世／皇帝円舞曲 作品437

レハール／喜歌劇「ほほえみの国」—「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」\*\*

チケット発売日:N響定期会員先行 | 9月1日(火) 10:00am

一般 | 9月6日(日) 10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

2027/2/20(土) 3:00pm

2027/2/21(日) 2:00pm

初演300年記念 コープマンの《マタイ受難曲》

NHKホール

指揮:トン・コープマン 福音史家(テノール):ティルマン・リヒディ イエス(バス・バリトン):クラウス・メルテンス

合唱:アムステルダム・バロック合唱団 児童合唱:東京少年少女合唱隊

バッハ／マタイ受難曲 BWV 244

チケット発売日:N響定期会員先行 | 10月21日(水) 10:00am

一般 | 10月25日(日) 10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

## 東京芸術劇場シリーズ

2027/4/15(木) 7:00pm

東京芸術劇場

2027/4/16(金) 7:00pm

指揮:ファビオ・ルイーゼ チェロ:辻本 玲\*

フランツ・シュミット/歌劇「ノートルダム」—「間奏曲と謝肉祭の音楽」

ヒンデミット/バレエ組曲「気高い幻想」

R. シュトラウス/交響詩「ドン・キホーテ」作品35\*

2027/5/13(木) 7:00pm

東京芸術劇場

2027/5/14(金) 7:00pm

指揮:沖澤のどか ハープ:早川りさこ

ドビュッシー/牧神の午後への前奏曲

ランサン/ハープと管弦楽のための田園協奏曲

タイユフェール/小組曲

ラヴェル/バレエ組曲「ダフニスとクロエ」第1番、第2番

2027/6/10(木) 7:00pm

東京芸術劇場

2027/6/11(金) 7:00pm

指揮:トゥガン・ソヒエフ オーボエ:中村周平 クラリネット:松本健司 ファゴット:宇賀神広宣 ホルン:今井仁志

プロコフィエフ/古典交響曲 作品25

モーツァルト/4つの管楽器と管弦楽のための協奏交響曲 変ホ長調 K. 297b

ストラヴィンスキー/バレエ音楽「春の祭典」

チケット発売日: [セット券] Bプログラム定期会員先行 | 11月24日(火) 10:00am

N響定期会員先行 | 11月28日(土) 10:00am

一般 | 12月2日(水) 10:00am

[1回券] N響定期会員先行 | 12月16日(水) 10:00am

一般 | 12月20日(日) 10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間: 10:00am ~ 5:00pm

定休日: 土・日・祝日

●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am ~ 開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am ~ 3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

# 海外公演

4/29  水祝 7:30pm

日本・シンガポール外交関係樹立60周年

NHK交響楽団 シンガポール公演

エスプラネード シアター・オン・ザ・ベイ コンサートホール

指揮: 下野竜也 (NHK交響楽団 正指揮者) ピアノ: 反田恭平  
外山雄三 / 管弦楽のためのディヴェルティメント  
プロコフィエフ / ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26  
R. シュトラウス / 交響詩「ドン・ファン」作品20  
ブリテン / 歌劇「ピーター・グライツ」—4つの海の間奏曲 作品33a



SINGAPORE - JAPAN  
DIPLOMATIC RELATIONS  
1966 - 2026

主催: エスプラネード シアター・オン・ザ・ベイ

助成: JAPAN FOUNDATION 

協賛:  MITSUBISHI  
ELECTRIC  
Changes for the Better





maple tree

IIJ Internet Initiative Japan

HIROOKA  
FAMILY OFFICE 

## 各地の公演

5/5 [火祝] 5:30pm | N響 ゴールデン・クラシック 2026

サントリーホール

指揮:梅田俊明 ピアノ:ジョージ・ハリオノ

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

チャイコフスキー／交響曲 第4番 へ短調 作品36

主催:MIYAZAWA & Co. お問い合わせ:サンライズプロモーション TEL(0570)00-3337

5/6 [水休] 2:30pm | N響 ゴールデン・クラシック 2026

府中の森芸術劇場 どりーむホール

指揮:梅田俊明 ピアノ:ジョージ・ハリオノ

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23

チャイコフスキー／交響曲 第4番 へ短調 作品36

主催:MIYAZAWA & Co. お問い合わせ:サンライズプロモーション TEL(0570)00-3337

5/9 [土] 3:00pm

N響ベストクラシックス リオ・クオクマン(指揮)×萩原麻未(Pf)

×NHK交響楽団(管弦楽)

かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

指揮:リオ・クオクマン ピアノ:萩原麻未

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 卜長調 作品58

リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」作品35

主催:葛飾区文化施設指定管理者 お問い合わせ:かつしかシンフォニーヒルズ TEL(03)5670-2233

5/10 [日] 2:00pm | NHK交響楽団 リオ・クオクマン(指揮)×萩原麻未(ピアノ)

埼玉会館 大ホール

出演者・曲目は5月9日と同じ

主催:(公財)埼玉県芸術文化振興財団 お問い合わせ:SAFチケットセンター TEL(0570)064-939

6/22 [月] 3:00pm | 森のホール21 CLASSICS vol. 9 NHK交響楽団 松戸特別演奏会

森のホール21(松戸市文化会館) 大ホール

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:HIMARI

シベリウス／アンダンテ・フェスティヴォ

シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47

ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44

主催:(公財)松戸市文化振興財団 お問い合わせ:森のホール21チケットセンター TEL(047)384-3331

---

**6/27** 国 3:00pm | 原田慶太楼 指揮 NHK交響楽団～ジョン・ウィリアムズの世界～  
グランシップ 大ホール・海

---

指揮:原田慶太楼

一オール・ジョン・ウィリアムズー

オリンピック・スピリット 映画『スーパーマン』—マーチ 映画『E. T.』—フライング・テーマ

映画『ジュラシック・パーク』—テーマ 映画『シンドラーのリスト』—テーマ

映画『レイダース/失われたアーク《聖櫃》』—レイダース・マーチ オリンピック・ファンファーレとテーマ

映画『ハリー・ポッター』—ヘドウィグのテーマ 映画『スター・ウォーズ』—メイン・タイトル、レイア姫のテーマ、  
ルークとレイア、帝国のマーチ、ヨーダのテーマ、酒場のバンド、王座の間とエンド・タイトル

主催:(公財)静岡県文化財団、静岡県 お問合せ:グランシップチケットセンター TEL(054)289-9000

---

---

**7/10** 金 7:00pm | NHK交響楽団 創立100年記念コンサート

---

山形テルサ

---

指揮:広上淳一 ピアノ:牛田智大

ショパン/ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11

ドヴォルザーク/スラヴ舞曲 第1集 作品46

主催:山形市 お問合せ:山形テルサ TEL(023)646-6677

---

---

**7/11** 土 5:00pm | 青森朝日放送開局35周年記念 NHK交響楽団演奏会  
supported by SGC (青森公演)

---

リンクステーションホール 青森

---

出演者・曲目は7月10日と同じ

主催:青森朝日放送/サンライズプロモーション/青森市文化観光振興財団 お問合せ:サンライズプロモーション TEL(0570)00-3337

---

---

**7/12** 日 5:30pm | NHK交響楽団演奏会 supported by SGC (栃木公演)

---

宇都宮市文化会館 大ホール

---

出演者・曲目は7月10日と同じ

主催:(公財)うつのみや文化創造財団/下野新聞社/サンライズプロモーション お問合せ:サンライズプロモーション TEL(0570)00-3337

---

---

**7/19** 日 6:00pm | 第28回 NHK交響楽団松山定期演奏会

---

愛媛県県民文化会館 メインホール

---

指揮:ワシリー・ベトレンコ ピアノ:ツオトネ・ゼジニゼ

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

リムスキー・コルサコフ/交響組曲「シェエラザード」作品35

主催:NHK松山放送局/愛媛新聞社/NHK交響楽団 お問合せ:N響ガイド TEL(0570)02-9502

---

---

## 8/28(金) 6:30pm | NHK交響楽団演奏会 土岐公演

---

土岐市文化プラザ サンホール

---

指揮:キンボー・イシイ ヴァイオリン:クロエ・チュア

ドビュッシー(ビュセール編)／小組曲

モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K. 219「トルコ風」

ビゼー／「カルメン」組曲(キンボー・イシイ版)

主催:NHK岐阜放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

---

## 8/29(土) 4:30pm | NHK交響楽団演奏会 福井公演

---

福井県立音楽堂 ハーモニーホールふくい 大ホール

---

出演者・曲目は8月28日と同じ

主催:NHK福井放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

---

## 8/30(日) 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 刈谷公演

---

刈谷市総合文化センター アイリス

---

出演者・曲目は8月28日と同じ

主催:NHK名古屋放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

---

## オーチャード定期

---

横浜みなとみらいホール 大ホール

---

## 4/19(日) 3:30pm

---

指揮:ファビオ・ルイーヂ クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者)

モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622

マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調

---

Bunkamura オーチャードホール

---

## 6/28(日) 3:30pm

---

出演者・曲目は6月27日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

## 曲目解説執筆者

### 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。水戸芸術館館長。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』『大衆必易』ほか著書多数。

### 高松佑介(たかまつ ゆうすけ)

千葉工業大学未来変革科学部教育センター助教、青山学院大学、慶應義塾大学ほか非常勤講師。専門は西洋音楽史、とりわけ19世紀のドイツ語圏の音楽。フランツ・シューベルトの器楽曲における中間楽章に関する論文で博士号を取得。訳書にハンス・ヨアヒム・ヒンリヒセン著『ブルックナー交響曲』。

### 山本まり子(やまもと まりこ)

聖徳大学音楽学部教授、早稲田大学オペラ／音楽劇研究所招聘研究員。博士(人文科学)。マーラーを中心に、ドイツ語による声楽作品とその周辺を研究。共著書に『キーワードで読むオペラ／音楽劇 研究ハンドブック』『超域する異界』など、論文に「聖徳大学所蔵G. マーラーの自筆書簡(1889年)と当時の彼の音楽活動」など。

(五十音順、敬称略)

## N響の出演番組

定期公演や特別公演の様子が放送されるほか、大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

### クラシック音楽館(N響定期公演ほか)

**Eテレ** 日曜9:00～11:00pm

### ベストオブクラシック

**FM** 7:35～9:15pm

### N響演奏会

**FM** 土曜4:00～5:50pm(不定期)

### クラシックTV(クラシック全般の話題を取り上げます)

**Eテレ** 木曜9:00～9:30pm  
月曜2:00～2:30pm(再放送)

これらの番組は放送終了後も「NHK ONE」(「NHKプラス」「らじる★らじる」)で1週間何度でも視聴いただけます。出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長   間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長   中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取   加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長   小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長   喜勢陽一
NTT東日本株式会社	代表取締役社長   澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO   小池昌洋
株式会社ポケモン	代表取締役社長   石原恒和

### 特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長   長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長   平澤寿一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長   山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長   矢内 廣

### 賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長   山田裕行	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役 会長執行役員   鈴木幸一
・ (株)アートレイ 代表取締役   小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長   鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長   吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長   佐々木経世	・ 内山貴史
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長   大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長   松村洋季	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長   吉岡秀二
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長   安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役   井口一世	・ (株)NHKアート 代表取締役社長   石原 勉
・ (株)あ佳音 代表取締役社長   遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長   清森洋祐	・ NHK営業サービス(株) 代表取締役社長   手島一宏
・ AXLBIT(株) 代表取締役   長谷川章博	・ (-財)ITOH 代表理事   伊東忠俊	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長   有吉伸人
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表執行役社長 Group CEO   勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 取締役社長   大西安樹	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長   有吉伸人
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長   高須康有	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役   山下智之	・ (学)NHK学園 理事長   荒木美弥子
・ 朝日信用金庫 理事長   伊藤康博	・ 岩田地崎建設(株) 代表取締役社長   岩田圭剛	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長   神田真介

- ・(株)NHK出版  
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHKテクノロジーズ  
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHK ビジネススクリエイト  
代表取締役社長 | 梶 健一郎
- ・(株)NHKプロモーション  
代表取締役社長 | 見 郎俊一
- ・NGK(株)  
代表取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)NTTドコモ  
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ  
代表取締役社長 | 川口 晋
- ・ENEOS ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)  
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エレクト  
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・(株)大塚商会  
代表取締役社長 | 大塚裕司
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 井上 眞
- ・(株)大林組  
代表取締役社長 | 佐藤俊美
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 寺田 博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)  
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)  
代表取締役 | 陰山正弘
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役会長兼社長 | 押味至一
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチャー・エンタテインメントグループ(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工  
取締役社長 | 田母神博文
- ・(株)かんぼ生命保険  
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)  
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・木下彰子
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役専務 | 小濶敏郎
- ・(-社)共同通信社  
社長 | 沢井俊光
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
都村智史
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
天野貴夫
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長CEO | 松田浩路
- ・(医)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス  
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション  
代表取締役 | 小川達大
- ・コグニティブリサーチラボ(株)  
代表取締役 | 苦米地英人
- ・(医)財団 湖聖会  
理事長 | 湖山泰成
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下寧久
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 鳥井信宏
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション  
代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)  
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクシス・ホールディングス  
代表取締役社長 | 太田 寛
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社  
代表取締役社長 | 林 秀明
- ・(株)小学館  
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫  
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会  
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役社長 | 齊藤恭彦
- ・新角卓也
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・スカパーJSAT(株)  
代表取締役 執行役員社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役会長 | 古江訓雄
- ・鈴木誠一郎
- ・(株)スターファイアー  
代表取締役 | 加藤智也
- ・住友商事(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
上野真吾
- ・住友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)  
代表取締役会長兼グループCEO  
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学  
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)  
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)  
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関彰商事(株)  
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン  
代表取締役社長 | 澤本 泉
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長グループCEO | 村松俊亮

・損害保険ジャパン(株)  
取締役社長 | 石川耕治

・第一三共(株)  
代表取締役会長 | 眞鍋 淳

・第一生命保険(株)  
代表取締役社長 | 隅野俊亮

・大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎

・大日コーポレーション(株)  
代表取締役社長兼グループCEO  
鈴木忠明

・高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長 | 小島和人

・(株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二

・(株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人

・(株)竹中土木  
取締役社長 | 竹中祥悟

・田中貴金属工業(株)  
代表取締役社長執行役員  
田中浩一朗

・田原 昇

・(株)ダブルスタンダード  
代表取締役 | 清水康裕

・チャンネル銀河(株)  
代表取締役社長 | 前田鎮男

・中央日本土地建物グループ(株)  
代表取締役社長 | 三宅 潔

・中外製薬(株)  
代表取締役社長 | 奥田 修

・(株)電通  
代表取締役 社長執行役員 | 松本千里

・(株)テンポプリモ  
代表取締役 | 中村聡武

・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)  
代表取締役会長 | 石田建昭

・東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 丹羽俊介

・東急(株)  
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博

・(株)東急コミュニティー  
代表取締役社長 | 速川智行

・(株)東急文化村  
代表取締役 | 嶋田 創

・(株)東京交通会館  
取締役社長 | 細包憲志

・東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通

・東武鉄道(株)  
取締役社長 | 都筑 豊

・桐朋学園大学  
学長 | 辰巳明子

・(株)東北新社  
代表取締役社長 | 小坂恵一

・東北電力(株)  
代表取締役社長 | 石山一弘

・(有)外川ビル  
代表取締役 | 外川信晃

・鳥取末広座(株)  
代表取締役 | 西川八重子

・(-財)TOPPAN三幸会  
代表理事 | 金子眞吾

・トヨタ自動車(株)  
執行役員社長 CEO | 近 健太

・内外施設工業グループホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 林 克昌

・中銀グループ  
代表 | 渡辺蔵人

・日鉄興和不動産(株)  
代表取締役社長 | 三輪正浩

・日東紡績(株)  
取締役会長 | 辻 裕一

・(株)日本アーティスト  
代表取締役 | 幡野菜穂子

・(株)日本ヴァイオリン  
代表取締役 | 中澤創太

・(株)日本カストディ銀行  
代表取締役社長 | 土屋正裕

・(株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 前田浩志

・(株)日本政策投資銀行  
代表取締役会長 | 太田 充

・日本たばこ産業(株)  
代表取締役社長 | 筒井岳彦

・日本運連(株)  
代表取締役社長 | 竹添進二郎

・日本通信(株)  
代表取締役社長兼CEO  
福田尚久

・日本電気(株)  
取締役 代表執行役員社長兼CEO  
森田隆之

・日本BCP(株)  
代表取締役社長 | 角谷育則

・(-財)日本放送協会共済会  
理事長 | 竹添賢一

・日本みらいホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 安嶋 明

・日本郵政(株)  
取締役兼代表執行役員社長 | 根岸一行

・(株)ニトリホールディングス  
代表取締役会長兼CEO | 似鳥昭雄

・(株)ニフコ  
代表取締役社長 | 柴尾雅春

・野田浩一

・野村ホールディングス(株)  
代表執行役員社長 | 奥田健太郎

・パナソニック ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 グループCEO  
楠見雄規

・原田清朗

・(株)原田武夫国際戦略情報研究所  
代表取締役 | 原田武夫

・(有)パルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦

・びあ(株)  
代表取締役社長 | 矢内 廣

・(株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆

・福島小松フォークリフト(株)  
代表取締役 | 四家英彦

・福田三千男

・富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁

・古川宣一

・ヘアチドリーム(株)  
代表取締役社長CEO | リード・パトリック

・(株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原克明

・(株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 角 英夫

・(公)放送文化基金  
理事長 | 濱田純一

・ホクト(株)  
代表取締役 | 水野雅義

・ボラリス・キャピタル・グループ(株)  
代表取締役社長 | 木村雄治

・前田工織(株)  
代表取締役社長 | 前田尚宏

- ・牧 寛之
  - ・町田優子
  - ・松本満里子
  - ・丸紅(株)  
代表取締役社長 | 大本晶之
  - ・溝江建設(株)  
代表取締役 | 溝江 弘
  - ・三井住友海上火災保険(株)  
代表取締役 | 海山 裕
  - ・(株)三井住友銀行  
頭取 | 福留朗裕
  - ・三井住友信託銀行(株)  
取締役社長 | 米山学朋
  - ・三井住友トラストクラブ(株)  
代表取締役社長 | 山口信明
  - ・三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 中西勝也
  - ・三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
  - ・三橋洋之
  - ・三原穂積
  - ・(株)ミロク情報サービス  
代表取締役社長 | 是枝周樹
  - ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学  
理事長 | 福井直昭
  - ・明治ホールディングス(株)  
代表取締役社長 CEO | 松田克也
  - ・(株)明電舎  
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
  - ・メットライフ生命保険(株)  
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者  
ディルク・オステイン
  - ・(株)目の眼  
社主 | 櫻井 恵
  - ・(株)森エンジニアリング  
代表取締役 | 森 豊洋
  - ・森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾
  - ・森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔
  - ・山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸
  - ・(株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 松岡祐治
  - ・ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄
  - ・米澤文彦
  - ・(株)読売広告社  
代表取締役社長 | 菊地英之
  - ・(株)読売旅行  
代表取締役社長 | 岩上秀憲
  - ・リコージャパン(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO | 笠井徹
  - ・料亭 三長  
代表 | 高橋千善
  - ・(株)リンレイ  
代表取締役社長 | 鈴木信也
  - ・(有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 白鳥正美
  - ・ローム(株)  
代表取締役社長 社長執行役員 | 東克己
  - ・YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 堀内博人
  - ・YCC(株)  
代表取締役社長 | 中山武之
  - ・(株)ワールド航空サービス  
代表取締役社長 | 菊間陽介
- (五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：「フィルハーモニー」、「年間パンフレット」、「『第9』演奏会プログラム」等にご芳名を記載させていただきます。  
N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

## 「N響100年」特別賛助会員

株式会社アイシン

株式会社あ佳音

朝日信用金庫

イーソリューションズ株式会社

岩谷産業株式会社

内 聖美

株式会社NHK テクノロジーズ

NGK株式会社

NTT東日本株式会社

カルチュア・エンタテインメント グループ株式会社

医療法人社団 恒仁会

小林 弘侑

佐藤 弘康

株式会社ジェイ・ウィル・コーポレーション

JCOM株式会社

信越化学工業株式会社

新菱冷熱工業株式会社

株式会社菅原

セイコーグループ株式会社

株式会社セノン

全日本空輸株式会社

東信地所株式会社

桐朋学園大学

一般財団法人 TOPPAN 三幸会

日東紡績株式会社

日本通信株式会社

日本みらいホールディングス株式会社

東日本旅客鉄道株式会社

古川 宣一

株式会社朋栄ホールディングス

ホクト株式会社

株式会社みずほ銀行

三菱地所株式会社

三橋産業株式会社

三橋 洋之

株式会社目の眼

米澤 文彦

株式会社読売旅行

料亭 三長

株式会社リンレイ

有限会社ルナ・エンタープライズ

YCC株式会社

(五十音順、敬称略)

## 「N響100年」個人サポーター

青木 恒雄  
東 則仁  
阿部 直子  
阿部 直子  
飯田 陽介  
井口 一世  
池田 太朗  
石井 育子  
石崎 隆  
磯上 樹  
板倉 由美子  
市橋 敏行  
出石 直  
稲吉 務  
今泉 美輪  
歌川 博之  
内山 その  
内山 貴史  
榎本 悠介  
大川 啓太  
大木 千秋  
大谷 淳  
大谷 明  
大矢 菜穂子  
岡井 良祐  
岡本 誠  
小川 芳幸  
尾澤 勉  
尾島 大樹

影井 良貴  
加藤 充子  
門脇 昌子  
鎌谷 朝之  
神谷 久寛  
唐木田 信也  
刈谷 敦子  
川北 晃彦  
川崎 昭久  
川名 庸一  
川鍋 義章  
川原 真理子  
川村 哲也  
簡 妙芬  
冠 和宏  
岸 道郎  
北見 欣一  
亀徳 忠正  
貴布根 弘篤  
木村 達央  
木村 素子  
清谷 直樹  
蔵並 慧  
黒木 憲太郎  
黒田 真二  
河野 太  
古賀 信行  
湖口 和幸  
小島 美智恵

児矢野 昌敬  
小山 豊  
今野 恵一郎  
坂井 康柄  
阪本 信次  
櫻澤 仁  
佐宗 孝樹  
佐藤 圭子  
佐藤 治彦  
三戸 淳一  
柴田 理佳子  
白取 洋  
新保 和浩  
鈴木 忠明  
鈴木 宏治  
曾我 健  
大門 匡  
高木 功介  
高田 康裕  
高橋 正好  
高原 俊二  
田島 大輔  
立石 知宏  
田中 治郎  
田中 伸幸  
田中 正彦  
張 嘉淵  
津久井 秀郎  
津々木 孝

恒川 雄三  
時岡 明弘  
轟 晴美  
富永 純子  
富永 龍太郎  
長尾 公彦  
中川 幸子  
中村 秀哉  
中村 幸雄  
根本 昌代  
根本 佳則  
野島 浩司  
野田 広  
野武 一郎  
野中 明人  
配島 一善  
林 尚美  
原田 清朗  
疋田 和代  
檜山 隆  
福井 真哉  
福本 出  
藤沼 竜也  
藤森 博昭  
船井 勝仁  
古川 澄兄  
真木 太郎  
牧 廣美  
町田 優子

松澤 和男  
松信 正志  
三井田 健  
水上 慶太  
三橋 祐太  
三村 啓  
宮崎 宏史  
村井 暁子  
村井 正浩  
村上 純子  
本 敬之  
森山 雅一郎  
柳原 隆司  
薮下 真平  
山口 剛史  
山崎 雅彦  
山下 史雄  
山本 英一  
横尾 順  
四元 俊英  
渡邊 貴子  
渡邊 健  
渡辺 徹郎

(五十音順、敬称略)

## Information

---

### 入団

第2ヴァイオリン 清水伶香(しみず れいか) 2026年3月1日付で入団。  
ヴィオラ 栗林衣李(くりばやし えり) 2026年4月1日付で入団。  
オーボエ首席 中村周平(なかむら しゅうへい) 2026年4月1日付で入団。

---

### 契約開始

ホルン首席客演 福川伸陽(ふくかわ のぶあき) 2026年4月1日付で契約開始。

---

### 退団

ヴィオラ 小野聡(おの さとし) 2026年3月31日付で退団。

---

### 訃報

当団元ヴィオラ奏者(1961年2月入団)で団友の河野昌彦(こうの まさひこ)氏が、2025年12月30日に逝去されました。享年94。ここに謹んで哀悼の意を表します。

当団元ヴァイオリン奏者(1976年2月入団)で、チーフ・インスペクターも務めた団友の金田幸男(かねだ ゆきお)氏が、2026年2月5日に逝去されました。享年78。ここに謹んで哀悼の意を表します。

# みなさまの声をお聞かせください！

## インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。  
ご協力をお願いいたします。

### アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の  
QRコードを読み取る。  
またはURLを入力  
[https://www.nhkso.or.jp/  
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、  
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢		歳
お名前		TEL		

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

## 1st Violins

- Shirabe Aoki  
Ayumu Iizuka  
○ Kyoko Une  
Yuki Oshika  
○ Ryota Kuratomi  
Ko Goto  
Tamaki Kobayashi  
Toshihiro Takai  
Taiga Tojo  
Yuki Naoi  
Yumiko Nakamura  
Takao Furihata  
Hiroyuki Matsuda  
○ Haruhiko Mimata  
Nana Miyagawa  
○ Tutomu Yamagishi  
○ Koichi Yokomizo

## 2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya  
◎ Masahiro Morita  
Maiko Saito  
○ Keiko Shimada  
Reika Shimizu  
○ Atsushi Shirai  
○ Akiko Tanaka  
Kirara Tsuboi  
Yosuke Niwa  
Kazuhiko Hirano  
Yoko Funaki  
Kenji Matano  
Ryuto Muraō  
Masaya Yazu  
Yoshikazu Yamada  
○ Masamichi Yokoshima  
Yuka Yoneda

\* Yui Yuhara

## Violas

- ◎ Ryo Sasaki  
◎ Junichiro Murakami  
☆ Shotaro Nakamura  
Shigetaka Obata  
Eri Kuribayashi  
□ Gentaro Sakaguchi  
Mayumi Taniguchi  
Hiroto Tobisawa  
○ Hironori Nakamura  
Naoyuki Matsui  
Rachel Yui Mikuni  
# Yuya Minorikawa  
○ Ryo Muramatsu  
\* Shiori Wada

## Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto  
◎ Ryoichi Fujimori  
Hiroya Ichi  
Yukinori Kobatake  
○ Miho Naka  
○ Ken'ichi Nishiyama  
Shunsuke Fujimura  
Koichi Fujimori  
Hiroshi Miyasaka  
Yuki Murai  
Yusuke Yabe  
○ Shunsuke Yamanouchi  
Masako Watanabe

## Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida  
○ Masanori Ichikawa  
Eiji Inagawa  
○ Jun Okamoto  
Takashi Konno  
○ Shinji Nishiyama  
Tatsuro Honma  
Yoko Yanai

## Flutes

- ◎ Masayuki Kai  
◎ Hiroaki Kanda  
Maho Kajikawa  
# Junji Nakamura

## Oboes

- ◎ Shuhei Nakamura  
◎ Yumi Yoshimura  
Shoko Ikeda  
Izumi Tsuboike  
Hitoshi Wakui

## Clarinets

- ◎ Kei Ito  
◎ Kenji Matsumoto  
\* Hiroki Domen  
Takashi Yamane

## Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin  
◎ Kazusa Mizutani  
Shusuke Ouchi  
Yuki Sato  
Itaru Morita

## Horns

- ◎ Hitoshi Imai  
Naoki Ishiyama  
Yasushi Katsumata  
Hiroshi Kigawa  
Yudai Shoji  
Kazuko Nomiyama

◇ Nobuaki Fukukawa

## Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto  
◎ Tomoyuki Hasegawa

Tomoki Ando  
Kotaro Fujii  
Eiji Yamamoto

## Trombones

- ◎ Hikaru Koga  
◎ Mikio Nitta  
Ko Ikegami  
Hiroyuki Kurogane

## Tuba

Yukihiro Ikeda

## Timpani

- ◎ Shoichi Kubo  
☆ Toru Uematsu

## Percussion

Tatsuya Ishikawa  
Hidemi Kuroda  
Satoshi Takeshima

## Harp

Risako Hayakawa

## Stage Manager

Masaya Tokunaga

## Librarians

Akane Oki  
Hideyo Kimura

(◎) Principal, (◇) Guest Principal, (☆) Acting Principal, (○) Vice Principal, (□) Acting Vice Principal, (#) Inspector, (\*) Intern

## PROGRAM

A

Concert No.2060

NHK Hall

April

11 (Sat) 6:00pm

12 (Sun) 2:00pm

conductor Fabio Luisi

cello Jan Vogler

concertmaster Kota Nagahara

### Franz Joseph Haydn

#### Cello Concerto No. 1 C Major

#### Hob. VIIb-1 [24']

I Moderato

II Adagio

III Finale: Allegro molto

— intermission (20 minutes) —

### Anton Bruckner

#### Symphony No. 9 D Minor [64']

I Feierlich, misterioso

II Scherzo: Bewegt, lebhaft

III Adagio: Langsam, feierlich

- All performance durations are approximate.

## Artist Profiles

### Fabio Luisi, conductor



©Musée Mazarini (BFR7)

Fabio Luisi hails from Genoa. He first conducted the NHK Symphony Orchestra in 2001 and became its Chief Conductor in September 2022. He performed Verdi's *Requiem* to celebrate his appointment, and Mahler's *Symphonie der Tausend* for the orchestra's 2000th subscription concert in 2023. In 2024, he led the orchestra's Taiwanese tour, and then in May 2025, he successfully led its European tour scheduled in conjunction with Amsterdam's Mahler Festival at The Concertgebouw, the Prague Spring Festival and the Dresdner Musikfestspiele: the NHK Symphony Orchestra was the first Asian orchestra to appear at the Mahler Festival, performing the composer's Symphonies No. 3 and No. 4 to critical praise. In September 2028, he will become Honorary Conductor Laureate of the NHK Symphony Orchestra.

Currently he serves as the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra, and previously he was General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal Conductor of New York's Metropolitan

A

11 &amp; 12, APR. 2026

Opera, Chief Conductor of the Wiener Symphoniker, General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische Staatsoper, Principal Conductor and Chief Conductor of the MDR-Sinfonieorchester, Artistic Director of the Orchestre de la Suisse Romande, Chief Conductor of the Tonkünstler Orchester and Artistic Director of the Grazer Symphonisches Orchester. He is also Music Director of Puglia's Festival della Valle d'Itria Martina Franca and Emeritus Conductor of Orchestra Sinfonica Nazionale della Rai. He is a frequent guest of leading orchestras including the Berliner Philharmoniker, the Royal Concertgebouw Orchestra and the Saito Kinen Orchestra, opera houses and festivals worldwide.

In recording, his complete Nielsen symphonic cycle with the Danish National Symphony Orchestra was recognized with *Limelight* and Abbiati Awards in 2023, while its first volume was named Recording of the Year by *Gramophone*. He received a Grammy Award for his leadership of the last two operas of Wagner's Ring cycle at the Metropolitan Opera, as released on DVD. His first CD with the NHK Symphony Orchestra, *Bruckner: Symphony No. 8 (1st version)* was released in May 2025.

He is an accomplished composer and maker of perfumes.

---

## Jan Vogler, cello



Berlin-born world-renowned cellist Jan Vogler is praised by *The New York Times* for his "soulful, richly hued playing," and the *Frankfurter Allgemeine Zeitung* touts his ability "to make his cello speak like a singing voice."

His distinguished career as soloist has brought him together with internationally acclaimed orchestras, such as the New York Philharmonic, Chicago, Boston and Pittsburgh Symphony Orchestras, Orchestre symphonique de Montréal, London Philharmonic Orchestra, Deutsches Symphonie-Orchester Berlin, Gewandhausorchester Leipzig, Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, Wiener Symphoniker, Münchner Philharmoniker and the Orchestra dell'Accademia Nazionale di Santa Cecilia alongside renowned conductors including Fabio Luisi, Lorin Maazel, Andris Nelsons, Antonio Pappano and Kent Nagano.

He has been Intendant of the renowned Dresdner Musikfestspiele since October 2008 as well as Artistic Director of the Moritzburg Festival since 2001. He is constantly looking for new ways to combine music with other arts as well. In 2024, he gave a highly acclaimed concert with inaugural-poet Amanda Gorman in Carnegie Hall. He has also collaborated with actor Bill Murray for their joint musical-literary project "Bill Murray, Jan Vogler & Friends – New Worlds."

For his first appearances in the NHK Symphony Orchestra's subscription series, he will serve as the soloist for Haydn's Cello Concerto No. 1 under the direction of Fabio Luisi. In May 2025 Vogler made his debut with the orchestra, conducted by Luisi, performing the same work in Dresden as part of the orchestra's European tour.

Awarded the Order of Merit of the Federal Republic of Germany, he plays the Stradivari 'Ex Castelbarco/Fau' 1707 cello.

**Franz Joseph Haydn (1732–1809)**

---

## Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIIb-1

Given the deserved title “Father of Symphony” today, Austrian composer Franz Joseph Haydn established the First Viennese School which was further developed and led to perfection by Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791) and Ludwig van Beethoven (1770–1827). Highly respected already while he was alive, Haydn left us an enormous number of masterful vocal and instrumental works.

For a large part of his artistic life, Haydn served the wealthy Esterházy family. His main workplace was the court of this Hungarian noble family in Eisenstadt, Austria, not far from the Hungarian border. Around the time when they hired Haydn on May 1st, 1761 as their Vice-Kapellmeister (vice-music director), their orchestra was small. It had not more than fifteen members, all of whom, however, were excellently skilled (it gradually extended to around twenty-three at its height). During his earliest years at the court from 1761 until 1766 when he was promoted to Kapellmeister, Haydn was a uniquely prolific composer of concertos and symphonies. They were dotted with unusually virtuosic passages for these musicians to play, as represented by the famous Symphonies No. 6 *Morning*, No. 7 *Noon* and No. 8 *Evening* (1761).

One of these elites was cellist Joseph Franz Weigl (1740–1820) who joined the Esterházy orchestra on June 1st, 1761 on Haydn’s suggestion. It is believed that the Cello Concerto No. 1 in C major was written in around 1762–1765 for Weigl to serve as the soloist. At the premiere, he was possibly the only cellist who also played the orchestral cello part.

The opening movement in sonata form shows a remnant of the Baroque concerto, or more specifically, its ritornello form which vividly contrasts tutti (full orchestra) with solo. The winds (oboes and horns) are absent during the calm middle movement, which is followed by the finale, a brisk sonata-allegro. Throughout the concerto, the cello solo fully maximizes the instrument’s technical and expressive potential playing multiple stops (producing several notes simultaneously), speedily repeating notes, quickly moving from a register to another and lyrically singing.

**Anton Bruckner (1824–1896)**

---

## Symphony No. 9 D Minor

As with Mozart’s *Requiem* K. 626, Anton Bruckner’s Symphony No. 9 was left unfinished in 1896 when he passed away at age 72. According to his maid, he was working on the incomplete final (fourth) movement on the day he breathed his last. Dedication “to the beloved God,” No. 9 has been often linked with this deeply religious composer facing the final phase of his life in this world.

Born near Linz, Bruckner, as a boy, was led to his Catholic beliefs at the church where his father was a music director. The child subsequently became a chorister at St. Florian

Monastery where he deepened his faith. He later made a living as a church organist prior to moving to Vienna in 1868 in his mid-forties. The late bloomer had to long put up with the cold treatment of his works, until the successful premiere in Leipzig of the Symphony No. 7 spread his fame far and wide in 1884 when he was sixty. The work's ensuing Viennese premiere in 1886 won a rave review, before he received the Order of Franz Joseph from the Emperor and an honorary doctorate from the University of Vienna.

Bruckner set to work on No. 9 in 1887. The reason why his last nine years were not enough for him to finish it was his intense urge to retouch his earlier works. The composition of No. 9 was interrupted by his absorption in revising works including No. 8, after the rejection of its first version by the conductor Hermann Levi, a champion of Bruckner's music, had injured the latter's pride. Meanwhile, Bruckner's health gradually worsened after 1891, which depleted his time, leaving us the finished three movements and the unfinished finale of No. 9. The symphony has since been programmed without the finale customarily, which is the case in today's concert using the score edited by Leopold Nowak.

Bruckner's No. 9 clearly follows Beethoven's Symphony No. 9 (1824) in terms of tonality (D minor) and structure with the Scherzo movement preceding the Adagio (slow) movement. That said, Bruckner's last tonal cathedral—his symphonies are often called so due to their large scale, massive sound, meditative moments and frequent general (long) pauses evoking a cathedral's long reverberation—is one of a kind. Headed “solemn, mysteriously,” the opening movement is written as a freely designed three-theme sonata (instead of the traditional two-theme), Bruckner's favorite form. The Scherzo in D minor, started with a dissonant Tristan chord (after Richard Wagner whom Bruckner worshiped), has an unusually rapid trio (central) section. The awe-inspiring Adagio in E major is concluded tranquilly after quoting Bruckner's different own music including the finale of No. 5, the beginning of No. 7 and the Adagio of No. 8, as if they were flashbacks.

#### Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.2061

Suntory Hall

April

16 (Thu) 7:00pm

17 (Fri) 7:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 69

clarinet

Kenji Matsumoto

concertmaster

Sunao Goko

### Wolfgang Amadeus Mozart Clarinet Concerto A Major K. 622

[27']

I Allegro

II Adagio

III Rondo: Allegro

— intermission (20 minutes) —

### Gustav Mahler Symphony No. 5 C-sharp Minor [70']

I Trauermarsch: In gemessenem Schritt,  
Streng. Wie ein Kondukt

II Stürmisch bewegt, mit größter Vehemenz

III Scherzo: Kräftig, nicht zu schnell

IV Adagietto: Sehr langsam

V Rondo – Finale: Allegro

- All performance durations are approximate.

### Artist Profile

## Kenji Matsumoto, clarinet



One of Japan's foremost clarinetists, Kenji Matsumoto joined the NHK Symphony Orchestra in 2002 and became its Principal Clarinet in 2011. He debuted at the orchestra as a concerto soloist performing Paul Hindemith's *Concerto for Woodwinds, Harp and Orchestra* under the baton of Marek Janowski in 2017.

After being trained in Japan, he was accepted into the Conservatoire national supérieur de musique de Paris in 1993. He graduated from the clarinet course in 1997 receiving the Léon Leblanc Special Award, and from the chamber music course the following year.

A top prize winner at the 6th Japan Woodwind Competition, the 4th Japan Clarinet Competition and the 22nd Toulon International Music Competition (France), he studied clarinet with Akira Tsunoda, Koichi Hamanaka, Kazuko Ninomiya, Kahori Takemori, Michel Arrignon, Jérôme

Julien-Laferrrière and Alain Damiens, and chamber music under Daria Hovora, Pierre-Laurent Aimard and Jean-Guihen Queyras.

An enthusiastic music educator and chamber musician as well, he is a member of the chamber orchestra ARCUS and the Trio Cinq Anches.

This is his solo concerto debut at the NHK Symphony Orchestra's subscription concerts. Led by their Chief Conductor Fabio Luisi, they will play Mozart's popular Clarinet Concerto that the composer wrote for his friend and clarinet virtuoso Anton Stadler.

---

## Program Notes

---

**Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791)**

---

### Clarinet Concerto A Major K. 622

This year, the world has celebrated the 270th anniversary of the birth of Austrian composer Wolfgang Amadeus Mozart who led a short but dense artistic life. He left us two genuine masterpieces for clarinet, the Clarinet Quintet K. 581 (1789) and today's Clarinet Concerto K. 622 (1791) both written in A major. They were born during his productive final years in Vienna where he, now a freelance musician, earned his daily bread by composing, performing concerts, giving private lessons and having his works published.

When composing the two works, Mozart derived inspiration from his close friend and Austrian clarinet player Anton Stadler (1753–1812). The latter was then active as a member of Vienna's court orchestra but also as a first-rate soloist, while his instrument hadn't played a major part yet in the classical music scene of the time. Stadler is said to have liked playing the second (lower) clarinet part in orchestra, and he is also known as the inventor of the basset clarinet (manufactured by Theodor Lotz in 1787) which was an extended instrument providing some additional lower notes than the standard clarinet. In fact, Mozart originally wrote the Quintet K. 581 and the Concerto K. 622 for Stadler to perform with his basset clarinet. Although it didn't come into common use (nowadays the two works are usually performed on a clarinet in A), we must be grateful to Stadler for his invention and friendship with Mozart which resulted in such important repertoires.

The Clarinet Concerto was completed in early October 1791, two months before Mozart passed away, to be his last concerto. Stadler is believed to have given its first performance in Prague while the composer was still alive. The work is in the traditional three-movement form but without any cadenza (a soloist's customary solo without orchestra). The clarinet part, sometimes virtuosic and sometimes serenely lyrical, makes us easily picture Stadler's "soft tone and his ability to change registers quickly and with remarkable ease," as reported by contemporary newspapers.

## Symphony No. 5 C-sharp Minor

Born in Kalischt, Bohemia (in the Austrian Empire) in 1860, Gustav Mahler is considered a late-Romantic titan for his expressive and deeply reflective symphonies of great length. His writing is influenced by Richard Wagner (1813–1883) when it comes to rich harmonies, extreme chromaticism, long-stretched melodies and colossal orchestration.

Mahler combined orchestral and vocal music in his Symphonies No. 2 *Auferstehung* (*Resurrection*) (1894: with vocal soloists and a mixed chorus), No. 3 (1896: with a vocal soloist, a children's choir and a female chorus) and No. 4 (1900: with a vocal soloist). No. 5 was a major turning point for the composer's output in that it parted from voices/lyrics and thus returned to a purely instrumental symphony. The composition took place mainly at the Austrian lakeside resort Maiernigg during the summers of 1901 and 1902. One of the best conductors of all time, Mahler himself led the Gürzenich-Orchester Köln for its world premiere held in 1904.

No. 5 includes “Adagietto,” his best-known movement for the public through Luchino Visconti's movie *Death in Venice* (1971) where we hear this serene, longing-like music. One of the biographical anecdotes regarding this movement concerns his wife Alma, whom Mahler met and married during the period he was writing this symphony. According to a note by the conductor Willem Mengelberg who was champion of Mahler's music and close to the couple, “Adagietto” was the composer's declaration of love to her.

Mahler groups five movements into three parts to create a symmetrical structure around the central third movement. Its overall design starting in a minor key and ending in major evokes the dramatic tonal catharsis (C minor to C major) that Ludwig van Beethoven (1770–1827)'s Symphony No. 5 (1808) has.

[Part 1] The symphony begins in C-sharp minor as a funeral march. The opening gloomy fanfare by trumpet solo reminds us of, again, Beethoven's No. 5, more precisely its famous “fate” motto (brief theme) with four notes. Mahler indicates that the second movement, still in dismal tone (A minor), should be “Stürmisch bewegt, mit größter Vehemenz (Moving stormily, with the greatest vehemence).” The brass chorale appearing for an instance at its closing phase foretells the bright conclusion of this symphony.

[Part 2] The third movement, the longest one in this symphony, is a pleasant D-major scherzo where French horns play a vital role from the very outset. The soloistic obbligato horn part in particular makes this movement resemble a horn concerto.

[Part 3] There is no pause between the fourth movement “Adagietto,” performed only by harp and strings, and the merry fifth movement in rondo form. Following a pastoral introduction, this polyphonic finale in D major, often compared with the one from Mozart's last Symphony No. 41 *Jupiter*, comes to a triumphant denouement looking back forcefully on the brass chorale of the second movement.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 72

## PROGRAM

C

Concert No. 2062

NHK Hall

April

24 (Fri) 7:00pm

25 (Sat) 2:00pm

conductor Tatsuya Shimono

piano Kyohei Sorita

concertmaster Yosuke Kawasaki

## NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series

Yuzo Toyama

*Divertimento for Orchestra* [15']

I Allegro

II Andante

III Allegro

Sergei Prokofiev

Piano Concerto No. 3 C Major

Op. 26 [27']

I Andante – Allegro

II Andantino

III Allegro, ma non troppo

— intermission (20 minutes) —

Akira Ifukube

*Ballata Sinfonica (Symphonic Ballad)*

[18']

Prima Ballata: Allegro capriccioso, ritmico e marcato

Seconda Ballata: Andante rapsodico

Benjamin Britten

*Peter Grimes, opera*—*Four Sea Interludes Op. 33a* [17']

I Dawn

II Sunday Morning

III Moonlight

IV Storm

- All performance durations are approximate.

## Artist Profiles

## Tatsuya Shimono, conductor



One of Japan's leading conductors, Tatsuya Shimono has been Permanent Conductor of the NHK Symphony Orchestra since 2023. He is currently Principal Guest Conductor of the Sapporo Symphony Orchestra and Conductor Laureate of the Hiroshima Symphony Orchestra after having served as its General Music Director for seven years. He has also been Music Director of the Hiroshima Wind Orchestra since 2011.

Trained in orchestral conducting at the Toho Gakuen School of Music, Japan, and at the Accademia Musicale Chigiana, Italy, he attracted much attention by winning the First Prize and the Hideo Saito Award at the Tokyo International Music Competition for Conducting in 2000 and the First Prize at the Besançon International Competition in 2001. He has since been a much-sought-after conductor among Japan's major orchestras and has guest conducted renowned orchestras around the world such as the Orchestra dell'Accademia Nazionale di Santa Cecilia, Orchestra Sinfonica di Milano Giuseppe Verdi, Radio-Sinfonieorchester Stuttgart des SWR, Südwestdeutsche Philharmonie Konstanz, Czech Philharmonic, Orchestre national Bordeaux-Aquitaine, Orchestre philharmonique de Strasbourg, Orquestra Simfònica de Barcelona i Nacional de Catalunya, Sinfonia Varsovia and the Wiener KammerOrchester.

Since his debut with the NHK Symphony Orchestra performing Beethoven's Symphony No. 7 in 2005, he has conducted them on many occasions including their subscription concerts and tours. This time, he will collaborate with them for a unique program featuring four composers including two Japanese as part of the projects marking the orchestra's 100th anniversary year. Furthermore, he will soon lead the orchestra joined by pianist Kyohei Sorita in Singapore to give a special concert commemorating the 60th anniversary of diplomatic relations between Singapore and Japan.

---

## Kyohei Sorita, piano



The winner of the silver medal at Warsaw's 2021 International Chopin Piano Competition, Japanese pianist Kyohei Sorita is a favorite on the international classical music scene today.

After winning the First Prize at the Music Competition of Japan in 2012, he pursued advanced studies at the Tchaikovsky Conservatory in Moscow and the Chopin University of Music in Warsaw. His international career gained momentum in 2023 with a lauded debut with the Münchner Philharmoniker, followed by his dazzling 2024 performance with the Mozarteumorchester Salzburg as both pianist and conductor. In 2025, he made his highly anticipated debut at the Salzburger Festspiele alongside the Mozarteumorchester, becoming the first Japanese artist to perform in the dual role of soloist and conductor at this prestigious festival.

Multitalented, he is also the founder, producer and conductor of the Japan National Orchestra and operates his own record label.

He made his NHK Symphony Orchestra debut in 2017 and most recently, in 2024, he collaborated with them playing Scriabin's Piano Concerto with Keitaro Harada conducting. This time, he will perform Prokofiev's Piano Concerto No. 3 with Tatsuya Shimono leading the orchestra, before departing for Singapore together with them for their concert commemorating the 60th anniversary of diplomatic relations between Singapore and Japan.

C

24 & 25, APR. 2025

**Yuzo Toyama (1931–2023)**

---

## ***Divertimento for Orchestra***

To commemorate its 100th anniversary since its 1926 foundation, the NHK Symphony Orchestra (hereafter NHKSO) has given the Japanese Composer Series with three unique programs this year. Among them is today's featuring two Japanese composers whom the NHKSO had a close relationship with.

Yuzo Toyama led Japan's post-war classical music scene. He studied composition in Tokyo with Kanichi Shimoosa (1898–1962), a pupil of Paul Hindemith, before honing his musical skills in Vienna. Toyama first joined the NHKSO as a Percussion Trainee in 1952 and became their Assistant Conductor two years later. Since his official conducting debut with the NHKSO in 1956 at age 25, he regularly led it both inside and outside the country. In 1979, the NHKSO appointed him Permanent Conductor, the post he held until his passing.

Toyama as a composer left us numerous works across a variety of genres. As with his representative work *Rhapsody for Orchestra* (1960), *Divertimento for Orchestra* (1961) is a treasure chest of folk melodies from various parts of Japan. The NHKSO assumed the Japanese premiere in 1963.

The opening movement evokes the country's cheery folk music world with high notes from the flutes and steady timpani beats. The first theme given at the outset by horns and cellos is a take on the folk song *Donpan-bushi* from Akita (*bushi* means tune), while the calmer second theme introduced by an oboe is after *Kiso-bushi* from Nagano. The dreamy middle movement is based on the folk songs *Aizu Bandaisan (Mount Bandai)* from Fukushima and *Hietsuki-bushi* from Miyazaki. The rhythmic impetus of the finale, a rondo, drives this festive movement to the frenetic ending.

---

**Sergei Prokofiev (1891–1953)**

---

## **Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26**

Born in Imperial Russia (today in Donetsk Oblast, Ukraine), Sergei Prokofiev lived overseas for eighteen years following the Bolshevik Revolution. He left Petrograd (St. Petersburg) in May 1918 by permission of the Soviet authorities and, avoiding western disasters of war, headed east for America via Vladivostok. This four-month voyage let him stop by Japan for two months giving three piano recitals in Yokohama and Tokyo before he reached New York in September 1918. Interestingly, he told his diary what he experienced on the Land of the Rising Sun during the summer.

The globe-trotter composer set to work on the Piano Concerto No. 3 in 1917 before leaving his homeland, continued penning it while traveling, and completed it in the summer of 1921 in France. The same year, he served as the soloist at the world premiere with the Chicago Symphony Orchestra in the USA. While the Chicagoan audience didn't receive it enthusiastically, the 1922 successful French premiere in Paris under the baton of

his compatriot Sergei Koussevitzky set the work's unwavering popularity off.

Composer Akira Ifukube (discussed below) wrote that this concerto is “a masterpiece” that “fully demonstrates his [Prokofiev's] preference for clear lines.” A clarinet duet opens the brief melodious introduction, before the energetic first movement, a sonata, begins to rush like the wind. The middle movement first presents a rather sarcastic theme, which is followed by its five variations. The final movement is a rondo (A–B–A'–C–A''–coda). The rondo (recurrent) theme given by bassoons and strings at the start, is written in the Japanese pentatonic (five-note) *Miyako-bushi* scale aside from whether the composer intended it or not. And the melody is often said in Japan to be inspired by the country's traditional music *Echigo Fishi* (*Lion*), although the theory remains without foundation. Regardless, the theme makes the piano and orchestra get into a heated discussion without delay, so they can head for the highly determined conclusion in C major.

**Akira Ifukube (1914–2006)**

## ***Ballata Sinfonica (Symphonic Ballad)***

A herald of Japan's classical music, Akira Ifukube beat a path for younger composers such as Toru Takemitsu (1930–1996) and afore-mentioned Yuzo Toyama. Born in the country's northern island Hokkaido, Ifukube spent his childhood surrounded by folk tunes sung by different settlers and music of the Ainu, the local ingenious population. He took up playing violin before beginning to teach himself composition as a teenager. He would remain self-taught except for about a month of instruction he received in 1936 from Alexander Tcherepnin (whose father Nikolai Tcherepnin taught Prokofiev).

Ifukube's style is characterized by folk colors and powerful rhythms which he expressed precisely by his skillful orchestration. Also, he often made use of ostinato, technique of repeating persistently a rhythmic and/or melodic pattern. These features are even found in the main theme he wrote for the 1954 movie *Godzilla*. While the soundtrack has brought his name to wide audience, he composed a number of classical works including *Ballata Sinfonica* (1943).

Dedicated to the memory of his brother who died in 1942, *Ballata Sinfonica* consists of two “ballads.” According to Ifukube, ballad is “an ancient form in which dance and music blended into one another.” Both the kaleidoscopic First Ballad and the slow Second Ballad are marked by the economical orchestration (due to the wartime premiere) and the use of pentatonic (five-tone) and hexatonic (six-tone) scales. The work ends disappearing into the silence, reminding us one last time that this is a mourning music.

**Benjamin Britten (1913–1976)**

## ***Peter Grimes, opera—Four Sea Interludes Op. 33a***

One of the most remarkable English composers, Britten kept his distance from avant-garde and experimental pursuits unlike Arnold Schönberg (1874–1951) and John Cage (1912–1992). He instead updated the conventional tonal language relying often on traditional forms, to

leave us truly original and important works.

Most notably, he contributed to the revival of English opera, starting with his successful *Peter Grimes* (1945) followed by *The Turn of the Screw* (1954), *A Midsummer Night's Dream* (1960), *Curlew River* (1964) and others. Set in an imaginary Suffolk coastal town around 1830, *Peter Grimes* features a lone-wolf-fisherman, the title role, living in a closed community. The four orchestral interludes, readjusted by Britten for concert as *Four Sea Interludes*, play important parts in the drama. Born and died himself in port towns in Suffolk, the composer masterfully draws diverse tone-scapes by the North Sea.

Describing a sunrise with the brass, **I Dawn** hints at Peter's loneliness with an unquiet melody. During scherzo-like **II Sunday Morning**, horns and then actual bells evoke the church and the lively town life around it. Slow and static, **III Moonlight** bridges the scene of the death of Peter's apprentice who accidentally slides off the cliff into the sea and the scene when the town people accuse missing Peter of murder. Although from Act 1, the hair-raising **IV Storm** foretells the opera's tragic ending where Peter, shattered by the incident and losing his mind, drowns himself in his sinking boat.

C

24 & 25, APR. 2026

Kumiko Nishi

---

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 72

# The Subscription Concerts Program 2025–26

**A** **NHK Hall**  
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)  
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

**B** **Suntory Hall**  
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)  
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

**C** **NHK Hall**  
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)  
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2026  
05

**A** Concert No. **2064**  
**May**  
23 (Sat) 6:00pm  
24 (Sun) 2:00pm  
**NHK Hall**

**Brahms** Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102  
**Brahms / Schönberg** Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25

Michael Sanderling, conductor  
Christian Tetzlaff, violin  
Tanja Tetzlaff, cello

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

**B** Concert No. **2063**  
**May**  
14 (Thu) 7:00pm  
15 (Fri) 7:00pm  
**Suntory Hall**

**NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series**

**Kazuo Yamada** *Also sang ein Jüngling*, small symphonic poem  
(*Thus Sang a Young Man*)  
**Hartmann** *Concerto funebre (Funereal Concerto)\**  
**Sugata** *Symphonic Overture Op. 6*  
**Hindemith** *Mathis der Maler*, symphony (*Matthias the Painter*)  
Kazuki Yamada, conductor Suyoen Kim, violin\*

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

**C** Concert No. **2065**  
**May**  
29 (Fri) 7:00pm  
30 (Sat) 2:00pm  
**NHK Hall**

**Vasks** *Chant of Gratefulness* (2025) [Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Latvian National Symphony Orchestra, Münchener Kammerorchester and Australian Chamber Orchestra / Japan Premiere]  
**Shostakovich** Symphony No. 4 C Minor Op. 43

Andris Poga, conductor

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2026  
06

**A** Concert No. **2067**  
**June**  
13 (Sat) 6:00pm  
14 (Sun) 2:00pm  
**NHK Hall**

**Wagner** *Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel*  
(*The Mastersingers of Nuremberg—Prelude*)  
**Mozart** Piano Concerto No. 17 G Major K. 453  
**Bartók** *Concerto for Orchestra*  
Jaap van Zweden, conductor  
Conrad Tao, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

**B** Concert No. **2066**  
**June**  
4 (Thu) 7:00pm  
5 (Fri) 7:00pm  
**Suntory Hall**

**Honegger** *Pastorale d'été*, symphonic poem (*Summer Pastoral*)  
**Berlioz** *Les nuits d'été*, songs Op. 7 (*Summer Nights*)  
**Ibert** *Escales (Ports of Call)*  
**Debussy** *La mer*, three symphonic sketches (*The Sea*)  
Stéphane Denève, conductor  
Gaëlle Arquez, mezzo soprano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

**C** Concert No. **2068**  
**June**  
19 (Fri) 7:00pm  
20 (Sat) 2:00pm  
**NHK Hall**

**Sibelius** *Andante festivo*  
**Sibelius** Violin Concerto D Minor Op. 47  
**Rakhmaninov** Symphony No. 3 A Major Op. 44  
Tadaaki Otaka, conductor  
HIMARI, violin

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

(tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

# Overseas Tour

4/29 | Wed | 7:30pm | NHKSO Singapore Concert to Commemorate  
the 60th Anniversary of Singapore-Japan Diplomatic Relations

Esplanade Concert Hall

Tatsuya Shimono, conductor

Kyohei Sorita, piano

**Toyama** *Divertimento for Orchestra*

**Prokofiev** Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26

**R. Strauss** *Don Juan*, symphonic poem Op. 20

**Britten** *Peter Grimes*, opera—*Four Sea Interludes* Op. 33a



SINGAPORE - JAPAN  
DIPLOMATIC RELATIONS  
1966 - 2026

Organized by: The Esplanade Co Ltd

Supported by: **JAPAN FOUNDATION** 

Sponsored by:  **MITSUBISHI ELECTRIC**  
*Changes for the Better*  **ANA**  **JCB**  **maple tree**  **IIJ** Internet Initiative Japan

**HIROOKA**  
FAMILY OFFICE 

# The Subscription Concerts Program 2026–27

2026 09	A	Concert No. <b>2069</b>	<b>NHKSO 100th Anniversary</b>	Ordinary	Youth
		<b>September</b>	<b>Franz Schmidt</b> <i>Das Buch mit sieben Siegeln</i> , oratorio ( <i>The Book with Seven Seals</i> )	S 15,000	S 7,000
		<b>12</b> (Sat) 6:00pm <b>13</b> (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Michael Laurenz, tenor (Johannes) David Steffens, bass (Voice of God) Miho Sakoda, soprano Asami Fujii, mezzo soprano Tatsundo Ito, tenor Hirokata Kato, bass Eri Niiyama, organ New National Theatre Chorus, chorus	A 12,500 B 10,000 C 8,000 D 6,500 E 4,500	A 6,000 B 5,000 C 4,000 D 3,000 E 2,000
		NHK Hall			
	B	Concert No. <b>2070</b>	<b>Weber</b> <i>Oberon</i> , opera – Overture	Ordinary	Youth
		<b>September</b>	<b>Brahms</b> Violin Concerto D Major Op. 77	S 12,000	S 6,000
		<b>17</b> (Thu) 7:00pm <b>18</b> (Fri) 7:00pm	<b>Schumann</b> Symphony No. 4 D Minor Op. 120 (Revised Version)	A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		Suntory Hall	Fabio Luisi, conductor Augustin Hadelich, violin		
	C	Concert No. <b>2071</b>	<b>NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 1</b>	Ordinary	Youth
		<b>September</b>	<b>Beethoven</b> Symphony No. 1 C Major Op. 21	S 12,000	S 6,000
		<b>25</b> (Fri) 7:00pm <b>26</b> (Sat) 2:00pm	<b>Beethoven</b> Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, <i>Eroica</i> ( <i>Heroic Symphony</i> )	A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500 E 3,300	A 5,000 B 3,600 C 3,250 D 1,900 E 1,600
		NHK Hall	Fabio Luisi, conductor		
2026 10	A	Concert No. <b>2072</b>	<b>Bruckner</b> Symphony No. 5 B-flat Major	Ordinary	Youth
		<b>October</b>		S 15,000	S 7,000
		<b>17</b> (Sat) 6:00pm <b>18</b> (Sun) 2:00pm	Herbert Blomstedt, conductor Matthias Bamert, cover conductor	A 12,500 B 10,000 C 8,000 D 6,500 E 4,500	A 6,000 B 5,000 C 4,000 D 3,000 E 2,000
		NHK Hall			
	B	<b>There will be no subscription concerts of Program B in October due to special concerts.</b>			
	C	Concert No. <b>2073</b>	<b>NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 2</b>	Ordinary	Youth
		<b>October</b>	<b>Beethoven</b> <i>Egmont</i> , incidental music Op. 84 – Overture	S 11,000	S 5,500
		<b>23</b> (Fri) 7:00pm <b>24</b> (Sat) 2:00pm	<b>Beethoven</b> Symphony No. 8 F Major Op. 93 <b>Beethoven</b> Symphony No. 5 C Minor Op. 67	A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
		NHK Hall	Christoph Eschenbach, conductor		
2026 11	A	Concert No. <b>2074</b>	<b>Prokofiev</b> Violin Concerto No. 1 D Major Op. 19	Ordinary	Youth
		<b>November</b>	<b>Shostakovich</b> Symphony No. 8 C Minor Op. 65	S 12,000	S 6,000
		<b>7</b> (Sat) 6:00pm <b>8</b> (Sun) 2:00pm	Tugan Sokhiev, conductor Mayuko Kamio, violin	A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500 E 3,300	A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 1,900 E 1,600
		NHK Hall			
	B	Concert No. <b>2076</b>	<b>Rakhmaninov</b> Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18	Ordinary	Youth
		<b>November</b>	<b>Tchaikovsky</b> <i>The Nutcracker</i> , ballet Op. 71 (Excerpts)	S 12,000	S 6,000
		<b>19</b> (Thu) 7:00pm <b>20</b> (Fri) 7:00pm	Tugan Sokhiev, conductor Alexandre Kantorow, piano	A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		Suntory Hall			
	C	Concert No. <b>2075</b>	<b>NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 3</b>	Ordinary	Youth
		<b>November</b>	<b>Beethoven</b> <i>Coriolan</i> , overture Op. 62	S 12,000	S 6,000
		<b>13</b> (Fri) 7:00pm <b>14</b> (Sat) 2:00pm	<b>Beethoven</b> Symphony No. 2 D Major Op. 36 <b>Beethoven</b> Symphony No. 6 F Major Op. 68, <i>Pastoral</i>	A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500 E 3,300	A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 1,900 E 1,600
		NHK Hall	Tugan Sokhiev, conductor		

# The Subscription Concerts Program 2026–27

2026 12	A	<p>Concert No. <b>2077</b></p> <p><b>November</b></p> <p>28 (Sat) 6:00pm 29 (Sun) 2:00pm</p> <p>Program A of the December subscription concerts will be held in November.</p> <p>NHK Hall</p>	<p>NHKSO 100th Anniversary</p> <p><b>Falla</b> <i>El sombrero de tres picos</i>, ballet suite No. 2 (<i>The Three-Cornered Hat</i>)</p> <p><b>Ravel</b> Piano Concerto G Major</p> <p><b>Berlioz</b> <i>Symphonie fantastique</i>, Op. 14 (<i>Fantastic Symphony</i>)</p> <p>Charles Dutoit, conductor Martha Argerich, piano</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S 17,000</td><td>S 8,500</td></tr> <tr><td>A 14,500</td><td>A 7,000</td></tr> <tr><td>B 11,500</td><td>B 5,500</td></tr> <tr><td>C 9,500</td><td>C 4,500</td></tr> <tr><td>D 7,500</td><td>D 3,500</td></tr> <tr><td>E 5,500</td><td>E 2,500</td></tr> </tbody> </table>	Ordinary	Youth	S 17,000	S 8,500	A 14,500	A 7,000	B 11,500	B 5,500	C 9,500	C 4,500	D 7,500	D 3,500	E 5,500	E 2,500
		Ordinary	Youth															
S 17,000	S 8,500																	
A 14,500	A 7,000																	
B 11,500	B 5,500																	
C 9,500	C 4,500																	
D 7,500	D 3,500																	
E 5,500	E 2,500																	
B	<p>Concert No. <b>2079</b></p> <p><b>December</b></p> <p>10 (Thu) 7:00pm 11 (Fri) 7:00pm</p> <p>Suntory Hall</p>	<p><b>Mozart</b> <i>Die Zauberflöte</i>, opera K. 620 – Overture (<i>The Magic Flute</i>)</p> <p><b>Srnka</b> Cello Concerto [NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / World Premiere]</p> <p><b>Mendelssohn</b> Symphony No. 3 A Minor Op. 56, <i>Scottish</i></p> <p>Maxim Emelyanychev, conductor Nicolas Altstaedt, cello</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S 12,000</td><td>S 6,000</td></tr> <tr><td>A 10,000</td><td>A 5,000</td></tr> <tr><td>B 8,000</td><td>B 4,000</td></tr> <tr><td>C 6,500</td><td>C 3,250</td></tr> <tr><td>D 5,500</td><td>D 2,750</td></tr> </tbody> </table>	Ordinary	Youth	S 12,000	S 6,000	A 10,000	A 5,000	B 8,000	B 4,000	C 6,500	C 3,250	D 5,500	D 2,750			
	Ordinary	Youth																
S 12,000	S 6,000																	
A 10,000	A 5,000																	
B 8,000	B 4,000																	
C 6,500	C 3,250																	
D 5,500	D 2,750																	
C	<p>Concert No. <b>2078</b></p> <p><b>December</b></p> <p>4 (Fri) 7:00pm 5 (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 4</p> <p><b>Beethoven</b> Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60</p> <p><b>Beethoven</b> Symphony No. 7 A Major Op. 92</p> <p>Charles Dutoit, conductor</p> <p>- Beethoven's Symphony No. 9 <i>Choral</i> is scheduled to be performed at the "Beethoven '9th' Symphony Concert" at the end of 2026 (conductor: Marek Janowski).</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S 12,000</td><td>S 6,000</td></tr> <tr><td>A 10,000</td><td>A 5,000</td></tr> <tr><td>B 8,000</td><td>B 3,600</td></tr> <tr><td>C 6,500</td><td>C 3,250</td></tr> <tr><td>D 5,500</td><td>D 1,900</td></tr> <tr><td>E 3,300</td><td>E 1,600</td></tr> </tbody> </table>	Ordinary	Youth	S 12,000	S 6,000	A 10,000	A 5,000	B 8,000	B 3,600	C 6,500	C 3,250	D 5,500	D 1,900	E 3,300	E 1,600	
	Ordinary	Youth																
S 12,000	S 6,000																	
A 10,000	A 5,000																	
B 8,000	B 3,600																	
C 6,500	C 3,250																	
D 5,500	D 1,900																	
E 3,300	E 1,600																	
2027 01	A	<p>Concert No. <b>2080</b></p> <p><b>January</b></p> <p>16 (Sat) 6:00pm 17 (Sun) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p><b>Mahler</b> Symphony No. 9 D Major</p> <p>Fabio Luisi, conductor</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S 13,000</td><td>S 6,500</td></tr> <tr><td>A 11,000</td><td>A 5,200</td></tr> <tr><td>B 8,500</td><td>B 4,000</td></tr> <tr><td>C 7,000</td><td>C 3,500</td></tr> <tr><td>D 5,600</td><td>D 2,000</td></tr> <tr><td>E 3,500</td><td>E 1,700</td></tr> </tbody> </table>	Ordinary	Youth	S 13,000	S 6,500	A 11,000	A 5,200	B 8,500	B 4,000	C 7,000	C 3,500	D 5,600	D 2,000	E 3,500	E 1,700
		Ordinary	Youth															
S 13,000	S 6,500																	
A 11,000	A 5,200																	
B 8,500	B 4,000																	
C 7,000	C 3,500																	
D 5,600	D 2,000																	
E 3,500	E 1,700																	
B	<p><b>There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.</b></p>																	
C	<p>Concert No. <b>2081</b></p> <p><b>January</b></p> <p>22 (Fri) 7:00pm 23 (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 1</p> <p><b>Sørensen</b> <i>Evening Land</i> [Japan Premiere]</p> <p><b>Beethoven</b> Piano Concerto No. 1 C Major Op. 15</p> <p><b>Nielsen</b> Symphony No. 6, <i>Sinfonia semplice</i></p> <p>Fabio Luisi, conductor Alessandro Taverna, piano</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S 12,000</td><td>S 6,000</td></tr> <tr><td>A 10,000</td><td>A 5,000</td></tr> <tr><td>B 8,000</td><td>B 3,600</td></tr> <tr><td>C 6,500</td><td>C 3,250</td></tr> <tr><td>D 5,500</td><td>D 1,900</td></tr> <tr><td>E 3,300</td><td>E 1,600</td></tr> </tbody> </table>	Ordinary	Youth	S 12,000	S 6,000	A 10,000	A 5,000	B 8,000	B 3,600	C 6,500	C 3,250	D 5,500	D 1,900	E 3,300	E 1,600	
	Ordinary	Youth																
S 12,000	S 6,000																	
A 10,000	A 5,000																	
B 8,000	B 3,600																	
C 6,500	C 3,250																	
D 5,500	D 1,900																	
E 3,300	E 1,600																	
2027 02	A	<p>Concert No. <b>2082</b></p> <p><b>February</b></p> <p>6 (Sat) 6:00pm 7 (Sun) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p><b>Bach / Webern</b> <i>Musikalisches Opfer</i>, BWV 1079 – <i>Ricercar à 6 voci</i> (<i>The Musical Offering</i> – 6 Voice Fugue)</p> <p><b>Mahler</b> 5 <i>Lieder nach Texten von Friedrich Rückert</i> (5 <i>Songs after Friedrich Rückert</i>)</p> <p><b>Schönberg</b> Chamber Symphony No. 2 Op. 38</p> <p><b>Schubert</b> Symphony No. 7 B Minor D. 759, <i>Unvollendete</i> (<i>Unfinished Symphony</i>)</p> <p>Antonello Manacorda, conductor André Schuen, baritone</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S 10,000</td><td>S 5,000</td></tr> <tr><td>A 8,500</td><td>A 4,000</td></tr> <tr><td>B 6,500</td><td>B 3,100</td></tr> <tr><td>C 5,400</td><td>C 2,550</td></tr> <tr><td>D 4,300</td><td>D 1,500</td></tr> <tr><td>E 2,200</td><td>E 1,000</td></tr> </tbody> </table>	Ordinary	Youth	S 10,000	S 5,000	A 8,500	A 4,000	B 6,500	B 3,100	C 5,400	C 2,550	D 4,300	D 1,500	E 2,200	E 1,000
		Ordinary	Youth															
S 10,000	S 5,000																	
A 8,500	A 4,000																	
B 6,500	B 3,100																	
C 5,400	C 2,550																	
D 4,300	D 1,500																	
E 2,200	E 1,000																	
B	<p><b>There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.</b></p>																	
C	<p>Concert No. <b>2083</b></p> <p><b>February</b></p> <p>12 (Fri) 7:00pm 13 (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 2</p> <p><b>Schumann</b> <i>Genoveva</i>, opera Op. 81 – Overture</p> <p><b>Beethoven</b> Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 19</p> <p><b>Hisatada Otaka</b> <i>Ashiya Otome</i>, symphonic poem Op. 9</p> <p><b>Panufnik</b> Symphony No. 2, <i>Sinfonia Elegiaca</i></p> <p>Tadaaki Otaka, conductor Yunchan Lim, piano</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S 10,000</td><td>S 5,000</td></tr> <tr><td>A 8,500</td><td>A 4,000</td></tr> <tr><td>B 6,500</td><td>B 3,100</td></tr> <tr><td>C 5,400</td><td>C 2,550</td></tr> <tr><td>D 4,300</td><td>D 1,500</td></tr> <tr><td>E 2,200</td><td>E 1,000</td></tr> </tbody> </table>	Ordinary	Youth	S 10,000	S 5,000	A 8,500	A 4,000	B 6,500	B 3,100	C 5,400	C 2,550	D 4,300	D 1,500	E 2,200	E 1,000	
	Ordinary	Youth																
S 10,000	S 5,000																	
A 8,500	A 4,000																	
B 6,500	B 3,100																	
C 5,400	C 2,550																	
D 4,300	D 1,500																	
E 2,200	E 1,000																	

**A NHK Hall**  
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)  
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

**B Suntory Hall**  
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)  
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

**C NHK Hall**  
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)  
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2027  
04

**A** Concert No. **2084**  
**April**  
**10** (Sat) 6:00pm  
**11** (Sun) 2:00pm  
  
NHK Hall

**Mendelssohn** Violin Concerto E Minor Op. 64  
**R. Strauss** *Eine Alpensinfonie* Op. 64 (*An Alpine Symphony*)

Fabio Luisi, conductor  
James Ehnes, violin

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

**B**

**There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.**

**C** Concert No. **2085**  
**April**  
**23** (Fri) 7:00pm  
**24** (Sat) 2:00pm  
  
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 3  
**Dvořák** *The Noon Witch*, symphonic poem Op. 108  
**Beethoven** Piano Concerto No. 3 C Minor Op. 37  
**Unsuk Chin** *Subito con forza*  
**Shostakovich** Symphony No. 9 E-flat Major Op. 70

Elim Chan, conductor  
Alice Sara Ott, piano

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2027  
05

**A** Concert No. **2086**  
**May**  
**8** (Sat) 6:00pm  
**9** (Sun) 2:00pm  
  
NHK Hall

**Grieg** Piano Concerto A Minor Op. 16  
**Stenhammar** Symphony No. 2 G Minor Op. 34

Paavo Järvi, conductor  
Denis Kozhukhin, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 3,600
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 1,900
E 3,300	E 1,600

**B**

**There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.**

**C** Concert No. **2087**  
**May**  
**21** (Fri) 7:00pm  
**22** (Sat) 2:00pm  
  
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 4  
**Lully** *Le bourgeois gentilhomme*, ballet  
(*The Bourgeois Gentleman*/Excerpts)  
**Beethoven** Piano Concerto No. 4 G Major Op. 58  
**R. Strauss** *Der Bürger als Edelmann*, suite Op. 60  
(*The Bourgeois Gentleman*)

Kent Nagano, conductor  
Till Fellner, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

2027  
06

**A** Concert No. **2088**  
**June**  
**5** (Sat) 6:00pm  
**6** (Sun) 2:00pm  
  
NHK Hall

**Mozart** Symphony No. 35 D Major K. 385, *Haffner*  
**Bruckner** Symphony No. 3 D Minor, *Wagner-Symphonie*  
(Third Version / 1889)

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 3,600
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 1,900
E 3,300	E 1,600

**B**

**There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.**

**C** Concert No. **2089**  
**June**  
**18** (Fri) 7:00pm  
**19** (Sat) 2:00pm  
  
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 5  
**Beethoven** Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor*  
**R. Strauss** *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Thomas Guggeis, conductor  
Kirill Gerstein, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

(tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

## Special Concerts 2026–27

---

### 2026/10 | 100th Anniversary Commemoration: Mahler Symphony No. 2 *Resurrection* NHK Hall

---

**10/3** Sat. 6:00pm  
**10/4** Sun. 2:00pm  
**Mahler** Symphony No. 2 C Minor *Auferstehung (Resurrection)*  
Fabio Luisi, conductor Ying Fang, soprano Tamara Mumford, mezzo soprano  
New National Theatre Chorus, chorus

---

---

### 2026/10 | Brahms Symphony Cycle Conducted by Two Great Conductors Tokyo Metropolitan Theatre

---

**10/30** Fri. 7:00pm  
**Brahms** Symphony No. 2 D Major Op. 73 / Symphony No. 4 E Minor Op. 98  
Herbert Blomstedt, conductor

---

**10/31** Sat. 4:00pm  
**Brahms** Symphony No. 3 F Major Op. 90 / Symphony No. 1 C Minor Op. 68  
Christoph Eschenbach, conductor

---

---

### 2027/01 | NHKSO New Year Concerts 2027 NHK Hall

---

**1/10** Sun. 3:00pm  
**1/11** Mon. 3:00pm  
**Wagner** *Rienzi*, opera—Overture  
**Wagner** *Die Walküre*, opera—Siegmunds Liebeslied: *Winterstürme wichen dem Wonnemond*  
(*Winter Storms Have Waned in the Moon of May*) ♦  
**Wagner** *Die Walküre*, opera—*Du bist der Lenz (Thou Art the Spring)*\*  
**Wagner** *Lohengrin*, opera—Grail Narration: *In fernem Land (In a Far-off Land)* ♦  
**Wagner** *Tannhäuser*, opera—*Dich, teure Halle, grüss ich wieder (Dear Hall, I Greet Thee Once Again)*\*  
**Wagner** *Tristan und Isolde*, opera—*O sink' hernieder, Nacht der Liebe (Descend, O Night of Love)* ♦♦  
**J. Strauss II** *Die Fledermaus*, operetta—Overture, Csárdás: *Klänge der Heimat (The Bat—Sounds of My Homeland)*\*  
**Lehár** *Das Land des Lächelns*, operetta—*Dein ist mein ganzes Herz (The Land of Smiles—Yours Is My Heart Alone)* ♦  
**Lehár** *Die lustige Witwe*, operetta—*Vilja-Lied (The Merry Widow—Vilja Song)*\*  
**Kálmán** *Gräfin Mariza*, operetta—*Grüss mir mein Wein (Countess Maritza—Vienna Mine)* ♦  
**J. Strauss II** *Kaiser-Walzer*, Op. 437 (*Emperor Waltz*)  
**Lehár** *Das Land des Lächelns*, operetta—*Wer hat die Liebe uns in Herz gesenkt (The Land of Smiles—Who Has Placed Love in Our Hearts)* ♦♦

Fabio Luisi, conductor Camilla Nylund, soprano\* Klaus Florian Vogt, tenor ♦

---

## 2027/02 | The 300th Anniversary of the Premiere of Bach's *Matthäus-Passion* NHK Hall

---

**2/20** Sat.  
3:00pm

**Bach** *Matthäus-Passion* BWV 244 (*St. Matthew Passion*)

**2/21** Sun.  
2:00pm

**Ton Koopman**, conductor **Tilman Lichdi**, tenor (Evangelist) **Klaus Mertens**, bass-baritone (Jesus)  
**Amsterdam Baroque Choir**, chorus **The Little Singers of Tokyo**, children's chorus

---

---

## 2027/04–06 | Tokyo Metropolitan Theatre Series Tokyo Metropolitan Theatre

---

**4/15** Thu.  
7:00pm

**Franz Schmidt** *Notre Dame*, opera—*Zwischenspiel und Carnevalsmusik* (*Intermezzo and Carnival Music*)

**4/16** Fri.  
7:00pm

**Hindemith** *Nobilissima visione*, ballet suite (*The Noblest Vision*)  
**R. Strauss** *Don Quixote*, symphonic poem Op. 35\*

**Fabio Luisi**, conductor **Rei Tsujimoto**, cello\*

---

**5/13** Thu.  
7:00pm

**Debussy** *Prélude à l'après-midi d'un faune* (*Prelude to the Afternoon of a Faun*)

**5/14** Fri.  
7:00pm

**Lancén** *Concerto champêtre* for Harp and Orchestra  
**Tailleferre** *Petite suite*  
**Ravel** *Daphnis et Chloé*, Suites Nos. 1 & 2

**Nodoka Okisawa**, conductor **Risako Hayakawa**, harp

---

**6/10** Thu.  
7:00pm

**Prokofiev** *Symphonie classique*, Op. 25

**6/11** Fri.  
7:00pm

**Mozart** *Symphonie concertante* for 4 Winds and Orchestra E-flat Major K. 297b  
**Stravinsky** *The Rite of Spring*, ballet

**Tugan Sokhiev**, conductor **Shuhei Nakamura**, oboe **Kenji Matsumoto**, clarinet  
**Hironori Ugajin**, bassoon **Hitoshi Imai**, horn

---

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

## N響関連のお知らせ



「N響100年」  
記念ページは  
こちらから



N響ホームページ  
「N響100年」  
記念ページ  
<https://www.nhkso.or.jp/100th/>

N響100年を記念するおもな公演・事業や首席指揮者ファビオ・ルイーゼのメッセージが紹介されているほか、N響のこれまでの歩みをまとめた年表や読み物をご覧ください。また「演奏記録アーカイブ／資料アーカイブ」では、N響100年の全演奏会の記録、そしてN響が所蔵する歴史的資料の目録の一部をデータベースとして公開。検索にも対応します。

特別  
展示

# NHK交響楽団—放送と歩んだ100年

2026年4月17日(金)～8月30日(日) | NHK放送博物館(港区  
愛宕) | 入場無料



N響100年の歩みを、貴重な資料・写真・映像でたどり、放送とともに刻まれた歴史をふりかえります。館内シアターでは、過去の番組から選び抜いた名演も上映します。



NHK放送博物館の  
ホームページ

WEB  
連載

# NHK交響楽団の あゆみ 1945—2026 岩野裕一

THE HISTORY OF  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

WEB連載  
「NHK交響楽団のあゆみ」は  
こちらから



2026年の「N響100年」に向けて、ホームページで「NHK交響楽団のあゆみ」を連載中です。執筆は、「王道楽土の交響楽」日本のピアノ100年」などの著書でも知られる、音楽評論家・編集者の岩野裕一氏。終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけて。 [https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview\\_contents.html](https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview_contents.html)

## 伝えるチカラ



◎ 公共メディアNHKを社会へ  
◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援!

NHK財団は、  
子法人の「NHK交響楽団」と共に、  
社会貢献事業を進めています。



NHK財団の最新情報はこちらから

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

## 子どもたちの未来を育む

子どもと大人が夏休みに名曲を楽しめる「N響ほっとコンサート」、N響練習所のある東京都港区の保育園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを伝える「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催。また折にふれて全国各地の小学校、中学校、高校を訪れてコンサートや指導を行い、近年はリモート技術を活用したクリニックも開催しました。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで豊かな心を育む取り組みに、これから力を入れていきます。

## 優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「指揮研究員」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「N響アカデミー」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

### 指揮研究員

井手 奏、佐久山修太

### N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨  
コントラバス：桑原孝太郎 クラリネット：白井宏典  
打楽器：菊池幸太郎  
(2026年4月1日現在)

## 地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、ク

ラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしています。幼稚園、コミュニティ施設などで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に着した活動を行っています。最近各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えています。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される「NHKのど自慢」では、審査の結果を伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

## 病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

## 国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、海外での演奏にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演への外国人留学生招待にも取り組んでいます。

## 異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や医療などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN 関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

# 役員等・団友

## 役員等

理事長	中野公一
常務理事	三溝敬志 大曾根 聡子
理事	相川直樹 内永ゆか子 岡田知之 杉山博孝 銭谷真美 田辺雅泰 團 宏明 毛利 衛
監事	春原雄策 濱村和則
評議員	井上樹彦 江頭敏明 樺山紘一 菅原 直 清野 智 田中宏暁 檀 ふみ 坪井節子 根本拓也 前田昭雄 三浦 惺 山名啓雄 渡邊 修

## 事務局

演奏制作部	企画プロモーション部	経営管理部	技術主幹	芸術主幹
岩潤一真 沖 あかね 上原 静 丸山千絵 内山弥生 木村英代 石井 康 徳永匡哉 小倉康平 高木かおり 高橋 啓	森下文典 黒川大亮 野村 歩 猪股正幸 三浦七菜子 浅田武志 吉賀亜希 目黒重治 長津紗弥 宮崎則匡 山本能寛	吉田麻子 杉山真知子 芳賀由明	尾澤 勉	西川彰一

## 団友

	公門俊之 齋藤真知亜 酒井敏彦 清水謙二 鈴木弘一 田淵 彰 堀 正文 鶴我裕子 中瀬裕道 永峰高志 根津昭義 堀江 悟 前澤 均 宮里親弘 堀 伝 山口裕之	中竹英昭 三原征洋 村山 弘 山田雄司 チェロ 岩井雅音 木越 洋 齋藤鶴吉 三戸正秀 銅銀久弥 丹羽経彦 平野秀清 藤本英雄 茂木新緑	宮本明恭 オーボエ 青山聖樹 北島 章 浜 道晃 茂木大輔 クラリネット 磯部周平 加藤明久 横川晴晃 ファゴット 岡崎耕治 霧生吉秀 菅原恵子 ホルン 大野良雄 中島大之 樋口哲生 松崎 裕 山田桂三	トランペット 井川明彦 来馬 賢 関山幸弘 津堅直弘 栃本浩規 福井 功 佛坂咲千生 トロンボーン 伊藤 清 神谷 敏 栗田雅勝 三輪純生 吉川武典 テューバ 多戸幾久三 原田元吉 打楽器 有賀誠門 岡田知之 瀬戸川 正	百瀬和紀 ピアノ 本荘玲子 理事長 曾我 健 田畑和宏 野島直樹 日向英実 木田幸紀 森 茂雄 今井 環 根本佳則 今村啓一 役員 加納民夫 唐木田信也 斎藤 滋 原 武 山崎大樹	事務局 稲川 洋 入江哲之 金沢 孝 小林文行 芳賀由明 清水永一郎 中馬 究 出口修平 利光敬司 望戸一男 諸岡 淳 吉田博志 渡辺 克 渡辺克己
名譽コンサート マスター						
コンサート マスター						
ヴァイオリン	コントラバス					
板橋 健 梅澤美保子 大澤 淨 大林修子 大松八路 川上朋子 木全利行 窪田茂夫 黒柳紀明	ヴィオラ 井戸田善之 志賀信雄 佐川裕昭 新納益夫 フルート 菅原 潤 細川順三					

フィルハーモニー2026年4月号 | 第98巻 第3号  
2026年4月1日発行 ISSN 1344-5693

## 公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49  
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278  
発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (一) 助NHK財団  
取材・編集: (株)アルテスパブリッシング  
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社

©無断転載・複製を禁ず

いつでも どこでも あなたのそばに

# NHK ONE



©NHK-dwarf

番組の同時配信、見逃し・聴き逃し配信、ニュースの記事や動画などの情報を  
**テレビ※やスマホ・タブレット、パソコンで**

※インターネット接続に対応したテレビ

## WEBサイト (HP)



NHK ONE



NHKプラス



NHK ONE  
 ニュース-防災



NHK ONE  
 for School



NHKラジオ  
 らじる★らじる



NHKゴガク  
 語学講座

世帯ですでに受信契約を締結されている場合は、別途のご契約や追加のご負担は必要ありません  
 (1らじる★らじる)など、ラジオ関連サービスは受信契約の対象外です)



テレビでもスマホでも



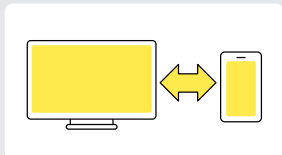
防災機能がさらに充実



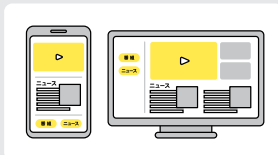
安心して子どもと一緒に



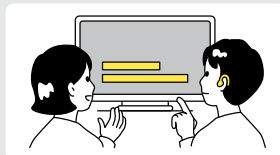
プロフィール設定・デバイス連携



ドラマも最新ニュース記事も



生放送もぴったり字幕で





# ご存知ですか？

海外出張、海外旅行を計画されている方へ

海外で、ニュース・情報番組の  
同時配信と見逃し配信が、  
無料で視聴可能！



\*視聴可能は毎日5時間程度

海外にいる日本人のみなさまの安全・安心のため、  
ニュース・情報番組は、NHKのウェブサイトで、無料で  
同時配信と見逃し配信を行っています。

特に見逃し配信は、海外でも時差を気にせず、NHKニュース  
をご覧いただけます。

視聴方法  
はこちら▶▶



\*日本国内では視聴することができません。  
海外にいらっしゃる間に視聴できます。

## 海外にお住まいの方には

NHKのニュースや情報番組、ドラマ、子ども番組、  
音楽番組などを24時間編成で有料で放送  
しています。世界のおよそ80の国・地域の  
約2,400万世帯以上で視聴できます。

[エリア][国/地域]の順に選択の上、お住まい  
の地域で見られる放送事業者を検索して  
ください。



### 利用できるサービスを探す

お住まいの国/地域を選択

エリア  ▼

国  ▼

NHK WORLD-JAPAN is the international  
service of Japan's public media organization.  
It provides a global audience with information  
about Japan and Asia on TV, radio, and  
online. Content is available in English and  
other languages.



Disaster and safety-related information is updated instantly,  
via emergency alert screens on the website and push notifications  
on the app.



### Get real-time alerts from our app.

■ Earthquake, Tsunami, and Weather Emergency Warnings  
Available in: English, Chinese, French, Hindi, Indonesian,  
Korean, Portuguese, Russian, Spanish, Thai, Vietnamese

■ Breaking News (English)

(iPhone, Android)

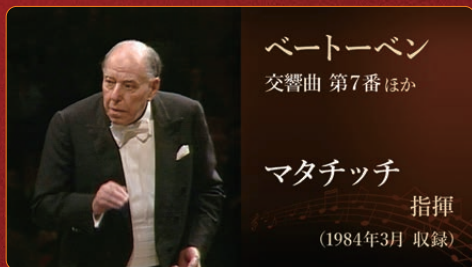
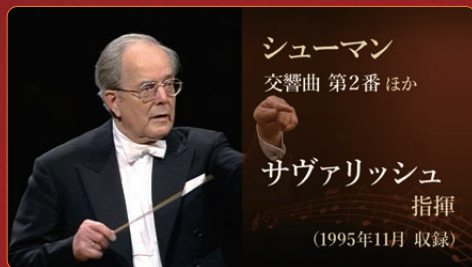
▲Download here. ※App settings are required.

ドラマ、ドキュメンタリーなど名作20,000本以上配信中!

# NHK オンデマンド

有料動画  
配信サービス

NHK交響楽団の名演を  
いつでも、どこでも、何度でも



懐かしの「N響アワー」から「クラシック音楽館」まで  
世界的マエストロによる演奏を **毎月配信中!**

まるごと  
見放題パック  
月額  
990円 税込

NHKオンデマンドコールセンター  
☎ **0570-083333**  
携帯電話・IP電話 03-6743-6777

受付時間  
9:30  
~  
22:00

番組ラインアップなどの詳細は  
公式ウェブサイトをチェック!  
<https://www.nhk-ondemand.jp>



塩筥とはもともと朝鮮半島において日常的に使用されていた小壺のこと。花の蕾のように胴が膨らみ、口縁がすぼんで先端が端反りにひらく姿が特徴で、主に塩や味噌、醬などの調味料の容器として用いられていたという。

しおげ  
塩筥のうたげ

〈紙版&デジタル版発売中〉雑誌『目の眼』4・5月号  
特集「塩筥のうたげ 見立ててたのしむ万能のうつわ」に掲載 [粉引塩筥盃(個人蔵)／撮影: 山畑俊樹]



目の眼は 雑誌&ウェブで 骨董古美術の愉しみを伝えています

[menomeonline.com](http://menomeonline.com)

目   
の眼

2026

響音

新緑あふれるゴールデンウィークは、  
赤坂アークヒルズと府中の森で極上の演奏を楽しもう！  
日本最高峰のオーケストラが贈る

指揮：梅田俊明

ピアノ：ジョージ・ハリオノ

管弦楽：NHK交響楽団

ゴールデン・  
クラシック

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第3番 二短調 op.30 (5/5公演)

チャイコフスキー：ピアノ協奏曲 第1番 変口短調 op.23 (5/6公演)

チャイコフスキー：交響曲 第4番 八短調 op.36 (5/5、5/6公演)

※未就学児童の入場不可。※都合により、出演者・曲目が変更となる場合がございます。※車椅子席をご希望のお客様は、チケット(5/5公演はS席、5/6公演はA席)を購入の上、サンライズプロモーションへ事前にご連絡ください。

2026年 5月5日(火・祝) 17:30開演(16:45開場) サントリーホール 大ホール

5月6日(水・振休) 14:30開演(13:45開場) 府中の森芸術劇場 どりーむホール

全席指定・税込：S席 8,800円 A席 7,700円 B席 6,600円(5/5、5/6公演) P席 5,500円(5/5公演) C席 5,500円(5/6公演)

《5/5、5/6公演》■MIYAZAWA & Co.(登録無料) <https://www.funity.jp/tickets/miyazawac/showlist/miyazawa&co.> チケット 検索



MIYAZAWA & Co.  
チケット

チケット

■チケットぴあ(Pコード:306-210) セブン-イレブン ■イープラス ファミリーマート店舗

■ローソンチケット(Lコード:31993) ローソン、ミニストップ店内Loppi

《5/5公演のみ》■サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 (10:00~18:00 休館日除く)

《5/6公演のみ》■Fivo フィーブオ fan.pia.jp.fivo(要会員登録)

■チケットふちゅう 042-333-9999 (10:00~17:00 休館日除く)

■お問合せ：サンライズプロモーション 0570-00-3337 (平日12:00~15:00) ※チケットの取扱はございません



TOSHIAKI  
UMEDA

GEORGE  
HARLIONO

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

主催：MIYAZAWA & Co. 共催：公益財団法人府中文化振興財団 府中の森芸術劇場(5/6公演のみ) 協力：ヤマハ株式会社

指揮：杉山洋一

Yoichi Sugiyama, conductor

ソプラノ：藤田果玲

Karera Fujita, soprano

トロンボーン：新田幹男 | N響首席トロンボーン奏者

Mikio Nitta, trombone (Principal Trombone, NHKSO)

管弦楽：NHK交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

100<sup>th</sup>  
NHKSO  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA  
TOKYO

# N響 MUSIC TOMORROW 2026

July 3 (Friday) 7:00pm / Pre-Concert Talk 6:30pm  
Tokyo Opera City Concert Hall

2026年7月3日 金 7:00pm | 尾高賞授賞式・プレトーク(司会・白石美雪) 6:30pm  
東京オペラシティ コンサートホール

我妻 英 / 管弦楽のための《祀》(2021) [第73回「尾高賞」受賞作品]

Wagatsuma / MATSURI for Orchestra (2021) [The 73rd Otaka Award Work]

杉山洋一 / 夢へのきざし — オーケストラのための(2026) [N響100年記念委嘱作品・世界初演]

Sugiyama / Stairways to Dreams for Orchestra (2026) [NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / World Premiere]

休憩〜スペシャルトーク(ピローネ・自作を語る) | Intermission - In Conversation with Pierluigi Billone

ピローネ / ボッカ・コスモイ — 声、トロンボーンとオーケストラのための(2007) [日本初演]

Billone / Bocca Kosmoi for Voice, Trombone and Orchestra (2007) [Japan Premiere]

異界に導く  
夢に誘う  
音の階(きざし)

今年のMusic Tomorrowでは、恒例である尾高賞受賞作品の演奏に続き、「N響100年」を記念する委嘱作品の世界初演、イタリアの巨匠ピローネによる大作の日本初演が行われる。

今回尾高賞を受賞したのは、我妻英の管弦楽のための《祀》。前年の武満徹作曲賞第1位と併せてダブル受賞となる。26歳での受賞は、第3回(1955年)の三善晃の22歳、第4回(1956年)の林光の24歳に次ぐ若さであり、尾高賞の長い歴史を画する快挙となった。柳田國男の『遠野物語』に想を得て、現実と非現実、生と死の境を描く《祀》は、我妻が敬愛した西、西村朗が賛辞を送った一作。奏者の叫び、囁きの喧騒を交えた、鮮烈かつ神秘的な響きが聴き手を異界へ導く。

杉山洋一はこれまで指揮者としてMusic Tomorrowに出演してきたが、今回は作曲家としての顔も見せ、自作自演を行う。N響創立100年に際して委嘱された作品のタイトルは《夢へのきざし》。社会問題、世界情勢をしばしば創作の源としてきた杉山の、次世代に向けた真摯な祈りに耳を澄ませたい。

杉山が拠点とするイタリアの作曲家ビエルルイジ・ピローネは、我妻と同じく、ソフトを用いず楽譜を手書きする。声とトロンボーン・ソロのための《ボッカ・コスモイ》では、ピローネが好んで用いる、宇宙の深淵にも似た中低音のうなりが、我妻作品に通じる呪術性、儀式性を喚起する。ドイツ語で数々の新作初演に挑ってきた気鋭のソプラノ、藤田果玲とN響首席奏者を約20年務めてきたベテラン、新田幹男の共演にも注目である。

平野貴俊(音楽学・音楽評論)

## チケット発売中

チケット料金(税込)

- 一般 | S:4,000円 / A:3,000円 / B:2,000円
- ユースチケット(29歳以下) | S:2,000円 / A:1,500円 / B:1,000円

・ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみの取扱いとなります。  
・初回に利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。  
・定期会員の方は一般料金の10%割引となります。また、先行発売をご利用いただけます(取扱いにはWEBチケットN響・N響ガイドのみ)。  
・東京オペラシティArts友の会先行発売の取扱い(※東京オペラシティチケットセンターのみとなります)。  
・車いす席についてはN響ガイドへお問い合わせください。  
・N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります  
・未成年のご購入はお断りしています

お問い合わせ

N響ガイド:0570-02-9502

営業時間:10:00am~5:00pm(休日:土・日・祝日)

※東京都内での主催公開開催日(曜日にかかわらず)10:00am~開演時刻まで営業いたします。  
※発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業となります。  
※電話受付のみの営業となります。

主催：NHK・NHK交響楽団

共催：公益財団法人東京オペラシティ文化財団

助成：公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団

公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

Musica & Music  
Fundation  
ロームミュージックファンデーション

nhkso.or.jp | Follow us on



前売所

- ・WEBチケットN響: <https://nhkso.pia.jp>
- ・N響ガイド:0570-02-9502
- ・東京オペラシティチケットセンター:03-5353-9999
- ・チケットぴあ: [pia.jp/nhkso](https://pia.jp/nhkso)
- ・e+(イープラス): [eplus.jp/nhkso](https://eplus.jp/nhkso)
- ・ローソンチケット:L-tike.com/nhkso



WEBチケットN響

# NHKSO Cinema Music



featuring  
John Williams

# N響 シネマ・ミュージック feat. ジョン・ウィリアムズ

オール ジョン・ウィリアムズ プログラム *John Williams Program* 主催：NHK / NHK交響楽団

## オリンピック・スピリット

映画「スーパーマン」—マーチ

映画「E.T.」—フライング・テーマ

映画「ジュラシック・パーク」  
—テーマ

映画「シンドラーのリスト」  
—テーマ

2026年

6月26日(金) 7:00pm  
※2時間程度の公演です

J:COM ホール八王子

(八王子市民会館) JR八王子駅 南口直結

Friday, June 26, 2026 7:00pm  
J:COM Hall Hachioji

© Claudia Hershner

映画「レイダース/失われた  
アーク《聖櫃》」—レイダース・マーチ

オリンピック・  
ファンファーレとテーマ

映画「ハリー・ポッター」  
—ヘドウィグのテーマ

映画「スター・ウォーズ」  
—メイン・タイトル、レイア姫のテーマ、  
ルークとレイア、  
帝国のマーチ、ヨーダのテーマ、  
酒場のバンド、  
王座の間とエンド・タイトル

指揮 原田慶太楼  
Keitaro Harada, conductor

管弦楽 NHK交響楽団  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

発売開始 3月13日(金) 10:00am  
(定期会員先行発売：3月9日(月)10:00am)

料金(税込) ※定期会員は一般料金から10%割引

[ 一般 ] S: ¥10,000 A: ¥8,600 B: ¥6,800

[ コースチケット(29歳以下) ] S: ¥5,000 A: ¥4,300 B: ¥3,400

お問い合わせ

N響ガイド 0570-02-9502

※営業日・営業時間はN響ホームページを  
ご確認ください

※本公演は映像による演出はございません  
※やむを得ない理由で出演者や曲目等が  
変更となる場合がございます

[nhkso.or.jp](http://nhkso.or.jp)

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



Follow us on





ご近所のイワタニは、  
世界のイワタニです。

イワタニは、世界からガスを運び  
安全と安心のネットワークで、  
カセットガスやLPガスなど  
さまざまなカタチに変えて日本全国にお届け。  
今日も見えないところで、  
あなたの暮らしを支えます。



**Iwatani**  
岩谷産業株式会社